明僧横穴群

発掘調査報告書

1995

静岡県小笠郡大東町教育委員会

明僧横穴群

（みょうそうおうけつぐん）

発掘調査報告書

1995

静岡県小笠郡大東町教育委員会

序

静岡県小笠郡大東町は、県内でも古墳時代の横穴が数多く分布する地域として知られています。

このたび、県営農地開発事業による茶園造成の工事に伴い、明僧横穴群の発掘調査が行なわれました。調査では13基の横穴の存在が明らかになり、須恵器などの土器類の他、耳飾や玉類など豊富な遺物が出土しました。

こうした調査資料は、当地域の古墳時代の様相を知る手掛かりとなり、貴重な文化遺物となるばかりでなく、先人の残した文化財を大切にする事は、私たちの重要な努めであり、この調査報告書によって多くの皆様方が、文化財に対する関心を高めて頂ければ幸いです。

終わりに今回の発掘調査にご指導・ご協力を賜った皆様に心より感謝申し上げます。

ここに報告書を発刊し、多くの皆様のご供覧を賜り、あわせて各位のご批判とご指導をお願いいたします。

平成7年3月吉日

静岡県小笠郡大東町教育委員会

教育長　青　野　行　雄

例　　言

1. 本書は、県営農地開発事業に先立って実施された静岡県小笠郡大東町岩滑字明僧967－1　外に所在する明僧横穴群の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、静岡県中遠農林事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと大東町教育委員会が実施した。
3. 調査は平成5年6月28日から8月13日までにB調査区を、平成5年12月6日から平成6年6月5日までにC調査区を、平成6年6月6日から6月23日までにA調査区を実施した。
4. 調査主体は大東町教育委員会で、調査担当者として社会教育課　鬼澤勝人が実施した。また、佐東南土地改良区事務所には全面的な協力を得た。
5. 調査の開始より報告書の作成に至るまで下記の方々にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

   （順不同、敬称略）

   五島康司・渋谷昌彦・塚本和弘・足立順司・森　威史
6. 出土品等の整理作業及び本書の作成は、鬼澤が中心におこない、山田貢・角替美恵子（社会教育課嘱託）が補助した。
7. 本書発行までの一切の事務は大東町教育委員会がおこなった。尚、調査資料は全て大東町教育委員会が保管している。
8. 発掘調査作業員（五十音順）

   赤堀はま子・安藤政司・伊藤静江・植田辰雄・大橋文子・大橋　実・黒田一夫
   桑原とよみ・後藤昇平・後藤渡世児・坂部さかゑ・匂坂荘一・鈴木喜代士・鈴木　隆
   鈴木辻一・鈴木久雄・宮田美佐子・藤澤松男・前島　隆・増田由美子・森下　昭
   森屋孝道・八木英雄

目　　次

例言
目次
挿図目次
挿表目次
図版目次

Ⅰ．調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ．遺跡詳細分布調査について …… 1
Ⅲ．歴史的環境について …… 2
Ⅳ．調査の経過について …… 3
Ⅴ．遺構について …… 9
①A調査区第1号横穴について …… 9
②B調査区第1号横穴について …… 9
③C調査区について …… 12
・東支群 …… 12
第1号横穴について …… 12
第2号横穴について …… 12
第3号横穴について …… 12
第4号横穴について …… 20
第5号横穴について …… 20
第6号横穴について …… 20
第7号横穴について …… 20
・西支群 …… 29
第1号横穴について …… 29
第2号横穴について …… 30
第3号横穴について …… 33
第4号横穴について …… 33
Ⅵ．遺物について …… 36
・A 調査区第1号横穴出土土器について …… 36
・B 調査区第1号横穴出土土器について …… 36
・C 調査区東支群第1号横穴出土土器について …… 37
東支群第2号横穴出土土器について …… 38
東支群第3号横穴出土土器について …… 39
東支群第4号横穴出土土器について …… 42
東支群第5号横穴出土土器について …… 42
東支群第6号横穴出土土器について …… 44
東支群第7号横穴出土土器について …… 45
西支群第1号横穴出土土器について …… 46
西支群第2号横穴出土土器について …… 46
西支群第3号横穴出土土器について …… 48
西支群第4号横穴出土土器について …… 49
・金属製品について …… 49
・玉類について …… 60
Ⅶ．まとめ …… 79

挿図目次

第１図　明僧横穴群の位置と周辺遺跡分布図 …… 2
第２図　明僧横穴群周辺地形図 …… 5
第３図　明僧横穴群C調査区周辺地形図 …… 7
第４図　A調査区第1号横穴実測図 …… 10
第５図　B調査区第1号横穴実測図 …… 11
第６図　C調査区東支群第1号横穴実測図 …… 13
第７図　C調査区東支群第1号横穴遺物出土状態図 …… 14
第８図　C調査区東支群第2号横穴実測図 …… 15
第９図　C調査区東支群第2号横穴遺物出土状態図 …… 16
第10図　C調査区東支群第3号横穴実測図 …… 17
第11図　C調査区東支群第3号横穴石棺平面・断面図 …… 18
第12図　C調査区東支群第3号横穴遺物出土状態図 …… 19
第13図　C調査区東支群第4号横穴実測図 …… 21
第14図　C調査区東支群第5号横穴実測図 …… 22
第15図　C調査区東支群第5号横穴石棺平面・断面および掘方平面図 …… 23
第16図　C調査区東支群第5号横穴遺物出土状態図 …… 24
第17図　C調査区東支群第6号横穴実測図 …… 25
第18図　C調査区東支群第6号横穴遺物出土状態図 …… 26
第19図　C調査区東支群第7号横穴実測図 …… 27
第20図　C調査区東支群第7号横穴石棺平面・断面図 …… 28
第21図　C調査区東支群第7号横穴遺物出土状態図 …… 28
第22図　C調査区西支群第1号横穴実測図 …… 29
第23図　C調査区西支群第1号横穴遺物出土状態図 …… 30
第24図　C調査区西支群第2号横穴実測図 …… 31
第25図　C調査区西支群第2号横穴石棺平面・断面図 …… 32
第26図　C調査区西支群第2号横穴遺物出土状態図 …… 32
第27図　C調査区西支群第3号横穴実測図 …… 34
第28図　C調査区西支群第4号横穴実測図 …… 35
第29図　A調査区横穴出土土器実測図 …… 36
第30図　C調査区東支群第1号横穴出土土器実測図 …… 37
第31図　C調査区東支群第2号横穴出土土器実測図 …… 38
第32図　C調査区東支群第3号横穴出土土器実測図（１） …… 40
第33図　C調査区東支群第3号横穴出土土器実測図（２） …… 41
第34図　C調査区東支群第4号横穴出土土器実測図 …… 42
第35図　C調査区東支群第5号横穴出土土器実測図（１） …… 43
第36図　C調査区東支群第5号横穴出土土器実測図（２） …… 44
第37図　C調査区東支群第6号横穴出土土器実測図 …… 45
第38図　C調査区東支群第7号横穴出土土器実測図 …… 46
第39図　C調査区西支群第1号横穴出土土器実測図 …… 46
第40図　C調査区西支群第2号横穴出土土器実測図 …… 47
第41図　C調査区西支群第3号横穴出土土器実測図 …… 48
第42図　C調査区西支群第4号横穴出土土器実測図 …… 49
第43図　A調査区横穴出土鉄製品実測図（１） …… 50

第44図　A調査区横穴出土鉄製品実測図（2）…… 51
第45図　C調査区東支群第1号横穴出土鉄製品実測図 …… 52
第46図　C調査区東支群第2号横穴出土鉄製品実測図（1） …… 53
第47図　C調査区東支群第2号横穴出土鉄製品実測図（2） …… 54
第48図　C調査区東支群第3号横穴出土鉄製品実測図 …… 56
第49図　C調査区東支群第5号横穴出土鉄製品実測図 …… 57
第50図　C調査区東支群第6号横穴出土鉄製品実測図 …… 58
第51図　C調査区東支群第7号横穴出土鉄製品実測図（1） …… 58
第52図　C調査区東支群第7号横穴出土鉄製品実測図（2） …… 59
第53図　C調査区西支群第2号横穴出土鉄製品実測図 …… 59
第54図　C調査区西支群第3号横穴出土鉄製品実測図 …… 60
第55図　C調査区西支群第4号横穴出土鉄製品実測図 …… 60
第56図　明僧横穴群　出土玉類実測図（1） …… 60
第57図　明僧横穴群　出土玉類実測図（2） …… 62
第58図　明僧横穴群　出土玉類実測図（3） …… 63
第59図　明僧横穴群　出土玉類実測図（4） …… 64

挿表目次

表　明僧横穴群出土土器観察表 …… 65

図版目次

図版 1－1	A 調査区	調査前遠景	
－2		調査終了遠景	
－3		第 1 号横穴	溝と石棺
2－1	B 調査区	調査前遠景	
－2		第 1 号横穴	封鎮石正面
－3		第 1 号横穴	完掘状況
－4		第 1 号横穴	ノミ痕
3－1	C 調査区	調査前遠景	
－2		西支群全景	
－3		東支群全景	
4－1	C 調査区	東 1 号横穴から東 3 号横穴	全景
－2		東 3 号横穴から東 7 号横穴	全景
5－1	C 調査区	東 1 号横穴	開口部周辺
－2			封鎮石
－3			ノミ痕
－4			遺物出土状態
6－1	C 調査区	東 2 号横穴	封鎮石
－2			完掘状況
－3			玉類出土状態
－4			耳環出土状態
－5			遺物出土状態
－6			ノミ痕
7－1	C 調査区	東 3 号横穴	完掘状況
－2			封鎮石
－3			石棺
－4			遺物出土状態
8－1	C 調査区	東 3 号横穴	石棺
－2			石棺
－3			石棺床石
－4			完掘状況
－5			ノミ痕
9－1	C 調査区	東 4 号横穴	完掘状況
－2			発見時の状態
－3			封鎮石
－4			完掘状況
－5			敷石
－6			ノミ痕
10－1	C 調査区	東支群第 3 号横穴から第 5 号横穴	全景
－2		東 5 号横穴	発見状態
－3			石棺
－4			完掘状況
11－1	C 調査区	東 5 号横穴	発見状態
－2			封鎮石

11－3			遺物出土状態
－4			遺物出土状態
－5			側壁から奥壁
12－1	C 調査区	東６号横穴	完掘状況
－2			封鎮石
－3			敷石
－4			遺物出土状態
－5			提瓶出土状態
13－1	C 調査区	東５号横穴から東７号横穴	全景（左側が第７号）
－2		東７号横穴	完掘状況
－3			封鎮石
－4			遺物出土状態
－5			石棺
－6			ノミ痕
14－1	B 調査区	作業風景	
－2	C 調査区	東支群	作業風景
－3			作業風景
15－1	C 調査区	西支群	全景（右から１・２・３・４号）
－2	C 調査区	西１号横穴	完掘状況
－3			封鎮石
－4			遺物出土状態
16－1	C 調査区	西２号横穴	完掘状況
－2			石棺
－3			完掘状況
－4			遺物出土状態
－5			棺支石
－6			ノミ痕
17－1	C 調査区	西３号横穴	完掘状況
－2			封鎮石
－3			天井部
－4			天井部
－5			ノミ痕
18－1	C 調査区	西４号横穴	完掘状況
－2			封鎮石
－3			ノミ痕
－4			敷石
19－1	東支群１号横穴出土須恵器		坏蓋（第30図１）
－2			坏身（第30図６）
－3	東支群２号横穴出土須恵器		坏蓋（第31図２）
－4			坏蓋（第31図５）
－5			坏身（第31図17）
－6			坏身（第31図20）
－7			短頸壺（第31図24）
－8	東支群３号横穴出土須恵器		坏蓋（第32図１）
20－1	東支群３号横穴出土須恵器		坏蓋（第32図５）
－2			坏蓋（第32図８）

20－3	東支群3号横穴出土須恵器	坏蓋（第32図9）
－4		坏身（第32図13）
－5		坏身（第32図16）
－6		高坏（第32図18）
－7		高坏（第32図19）
－8		甕　（第32図20）
21－1	東支群3号横穴出土須恵器	台付長頸壺（第33図22）
－2		平瓶（第33図23）
－3		横瓶（第33図24）
－4		横瓶（第33図25）
－5	東支群5号横穴出土須恵器	坏蓋（第35図4）
－6		坏蓋（第35図6）
－7		坏蓋（第35図10）
－8		坏身（第35図21）
22－1	東支群5号横穴出土須恵器	坏身（第35図22）
－2		坏身（第35図25）
－3		高坏（第36図32）
－4		甕　（第36図33）
－5		坩（第36図34）
－6		平瓶（第36図35）
－7		平瓶（第36図36）
－8	東支群6号横穴出土須恵器	坏蓋（第37図1）
23－1	東支群6号横穴出土須恵器	坩（第37図6）
－2	西支群1号横穴出土須恵器	小型短頸壺（第39図9）
－3	西支群2号横穴出土須恵器	坏蓋（第40図1）
－4		坏蓋（第40図2）
－5		坏蓋（第40図5）
－6		高坏（第40図13）
－7	西支群3号横穴出土須恵器	坏身（第41図17）
－8		長頸壺（第41図19）

Ⅰ．調査に至る経緯

茶産地　静岡において、大東町でもお茶の栽培が盛んであることは言うまでもないが、小規模で人力による耕作では効率が悪いため、機械化を図り茶畑を拡大するためにも、茶園造成が必要とされた。

また、当町は遠州灘に面した気候温暖な地域であり、古くからの人々の痕跡が残されている。とくに菊川の支流である佐東川流域には、遠江の横穴群として横穴群が濃密に分布する地域であり、数多くの横穴群が確認されている。

こうした中、この佐東地区に佐東南土地改良事業として、県営農地開発事業（茶園造成）が計画され、これを5つの工区に分け、順次造成工事を実施することとなった。

これを受けて大東町教育委員会は静岡県教育委員会文化課の指導のもと、静岡県中遠農林事務所及び佐東南土地改良区事務所と再三にわたる協議の末、遺跡の発掘調査をおこなうこととなった。この農地開発事業の5工区のうち、山田工区については昭和62年度に岩滑清水ヶ谷横穴群・松ヶ谷横穴として発掘調査が実施され、報告書が刊行されている。また、近江ヶ谷工区については工事計画に沿って、平成元年度に玉体横穴群が、平成2年度に下土方青谷横穴群がそれぞれ調査され、発掘調査報告書が刊行されている。

当該横穴群が所在する明僧工区には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていなかったが、周辺には玉体横穴群・火ヶ峰横穴群などが分布しており、当地域にも遺跡が存在する可能性が高いことから、平成2年度において国・県の補助金を得て、工区内の埋蔵文化財の有無を確認するための遺跡詳細分布調査を実施した。

その結果、造成工事区域内に8基の横穴が確認され、造成工事の計画変更が出来ないことから、平成5年度に大東町が中遠農林事務所の委託を受け、大東町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

Ⅱ．遺跡詳細分布調査について

県営農地開発事業（茶園造成）のため「明僧工区」として計画された当該地域には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていなかったが、周辺には玉体横穴群・火ヶ峰横穴群などが存在していた。当工区は佐東川の西岸にあたり、形状的には東へ張り出した丘陵で、南北及び東側に斜面を持つ。

横穴群が分布する地形は、南及び東向きの斜面部に多いことを見ても横穴の存在が十分考えられ、また、古墳やその他の遺跡が存在することが予想された。

そこで、造成工事前に事前の確認が必要なことから、遺跡詳細分布調査を実施することとなった。

この調査は、平成2年度の国及び県の補助金を得て、平成3年1月28日から3月25日までの期間に大東町教育委員会が主体となり、工区内の全域を踏査するとともに、丘陵頂上部に14ヶ所のトレンチを設定し、また、横穴の存在が想定される地域には表土剥離作業やボーリング棒による探査を実施した。

その結果、トレンチ及び表土剥離やボーリング棒による探査で8基の横穴が存在することが明らかとなった。その他の遺跡は発見されなかった。しかしながら、斜面崖下には民家が迫っており、調査による廃土の処理や埋め戻し後の土砂の安定を考慮すると、むやみに調査することが出来ず未調査の部分もあったため、さらに多くの横穴が存在するのではないかと考えられた。

この調査結果を受け、当該地域が岩滑字明僧であることから「明僧横穴群」と命名して県文化課へ報告し、静岡県文化財地名表に新たに登載された。しかし、この8基全てが群集しているのではなく、「工区内」に6基、1基、1基というように散在している。

Ⅲ．歴史的環境について

大東町は静岡県の中西部にあたり、北には小笠山とその先には東海道、南は遠州灘に面した南北に長い町である。岩滑字明僧は、大東町の中東部にあたり、東側は菊川町と小笠町に接している。岩滑地区内の中央を佐東川が流れ、菊川に合流している。この河川の両岸に丘陵があり、その斜面部に多くの横穴群が密集している。

大東町岩滑地区は下佐東区という行政区に所属し、その北方には上佐東区があり、全体を総称して佐東地域と呼んでいる。旧村の名称で言えば岩滑村・中方村・高瀬村・小貫村などとなっており、高瀬・小貫が上佐東区、岩滑・中方が下佐東区となっている。この“佐東”の名称は、『狭東郷…』と記された磐田市出土木簡があり、また、和名類聚抄に『遠江国城飼郡狭東郷』が記載されていることからも、古くからの地名であったようである。

こうした明僧横穴群を取り巻く周辺地域には多くの遺跡が分布しているが、佐東地域で確認されている最も古い遺跡は、弥生土器が散布する中方遺跡(No.3)・中方北遺跡(No.5)がある。古墳時代の古墳では、青木前2号墳(No.15)・青木前1号墳(No.16)があり、周辺地区では中方に丸山古墳(No.30)がある。また、中方遺跡・中方北遺跡・城山遺跡(No.11)・青木前遺跡(No.14)では須恵器・土師器が散布している。しかし、圧倒的に多く分布しているのが横穴群で、玉体横穴群(No.2)・山崎横穴群(No.4)・山田ヶ谷A横穴群(No.6)・中方B横穴群(No.7)・中方A横穴群(No.8)・松ヶ谷横穴(No.9)・清水ヶ谷横穴群(No.10)・八ッ谷横穴群(No.12)・穴口横穴群(No.13)・山脇横穴群(No.17)・興禅庵横穴群(No.18)があり、周辺地域では毛森山の各横穴群(No.19～22)の他に猫田横穴群(No.23)・火ヶ峰横穴群(No.24)・田ヶ谷の各横穴群(No.25～27)・下土方青谷横穴群(No.28)・笹ヶ谷横穴群(No.29)などが確認されている。

この内、松ヶ谷横穴・清水ヶ谷横穴群・玉体横穴群・下土方青谷横穴群や毛森山の各横穴群については発掘調査が実施されており、横穴群の様相が明らかになりつつあるが、その被葬者層を支える多くの人々の生活の痕跡については、中方遺跡が調査されたのみであり、しかも、住居址等の遺構は発見されていない。このことは、当地域の歴史を解明する上での大きな課題であろう。

1. 明僧横穴群
2. 玉体横穴群
3. 中方遺跡
4. 山崎横穴群
5. 中方北遺跡
6. 山田ヶ谷A横穴群
7. 中方B横穴群
8. 中方A横穴群
9. 松ヶ谷横穴
10. 清水ヶ谷横穴群
11. 城山遺跡
12. 八ッ谷横穴群
13. 穴口横穴群
14. 青木前遺跡
15. 青木前2号墳
16. 青木前1号墳
17. 山脇横穴群
18. 興禅庵横穴群
19. 毛森山一の谷G横穴群
20. 毛森山一の谷H横穴群
21. 毛森山一の谷F横穴群
22. 毛森山一の谷A横穴群
23. 猫田横穴群
24. 火ヶ峰横穴群
25. 田ヶ谷B横穴群
26. 田ヶ谷A横穴群
27. 田ヶ谷C横穴群
28. 下土方青谷横穴群
29. 笹ヶ谷横穴群
30. 丸山古墳

第1図　明僧横穴群の位置と周辺分布遺跡図

Ⅳ．調査の経過について

明僧横穴群は、横穴群と称しているが実際は散在しており、横穴の開口する斜面の直下には民家が近接していることは前に記したが、調査方法について十分検討する必要があったため、造成工事の計画に照らし合わせて実施することとなった。また、「明僧工区」は西から東へ伸びる丘陵が工区内の途中から二又に分かれており、その根元付近に1基、北側の丘陵に1基、南側の丘陵に6基の横穴が確認されていた。この内、南側丘陵の6基のうち2基については人家に近接しており、第二次世界大戦中に防空壕として掘られた穴で、その後イモ穴の倉庫として使用されているものであることがわかった。

従って、これらを3つの地区に区分けし、北側の1基を「A調査区」、根元付近の1基を「B調査区」、南側の4基を「C調査区」と呼称し、崖下に民家が無いB調査区から実施することとし、平成5年6月28日から本調査を開始し8月13日までに終了した。さらに、工事計画と調整した形で、順次C調査区を平成5年12月6日から平成6年6月5日まで、A調査区を平成6年6月6日から6月23日までと、調査を進めていった。

また、横穴の調査では毎回の懸案事項であるが、民家が迫っており廃土や雨水処理の問題、短期間で表土を剥ぐ関係で重機使用は欠かせず、こうしたことでの苦労が多かった。さらに、遺跡詳細分布調査が充分で無かったこともあり、調査中に新たな横穴が次々と発見され、最終的にC調査区では11基の横穴が存在し、しかも、C調査区の中でさらに東側と西側の支群に区分けできることが明らかとなった。このため、調査に多くの時間を費やしてしまった。今回調査した横穴の基数は、A調査地区が1基、B調査区が1基、C調査区は東支群が7基、西支群が4基の合計13基である。尚、東支群では第8号として調査した横穴があるが、長さ0.77cm、最大幅0.78cm、天井部の最大高0.41cmを測る極めて小規模な穴で、他の横穴とは様相が異なり、埋葬施設も遺物も確認されなかったため、本報告からは除外した。

遺構実測図は1／10を原則として作成し、写真は6×7版と35mm版カメラで、モノクロ・カラー・カラーリバーサルを用いた。

尚、地形測量は業者に委託し基準点等を設置した。

調査経過の概略については以下のとおりである。

5月27日　伐採作業・地形測量・用具搬入

〔B調査区〕

6月28日　表土剥ぎ作業開始

7月20日　封鎮石検出

8月 4日　横穴実測

8月13日　調査終了・撤去

〔C調査区〕

12月 6日　用具搬入・重機及び人力にて表土剥ぎ作業開始

12月 7日　新たに横穴1基発見

12月 8日　新たに横穴2基発見

・この時点でC調査区の横穴が東と西の支群に区分けできることが判った。

・東支群に4基、西支群に3基の横穴を確認。

・東側より順に、東1号、2号…、西1号、2号…と呼称する。

12月13日　東2号　封鎮石　実測開始

12月22日　新たに横穴1基発見、東1号と呼称する。東2号内発掘。

1月 7日　東2号内より耳環、切子玉等遺物が多数出土し始める。

1月27日　東4号　玄室内発掘

2月 2日　東5号　玄室内発掘

2月 8日　新たに横穴1基発見、東5号と呼称する。

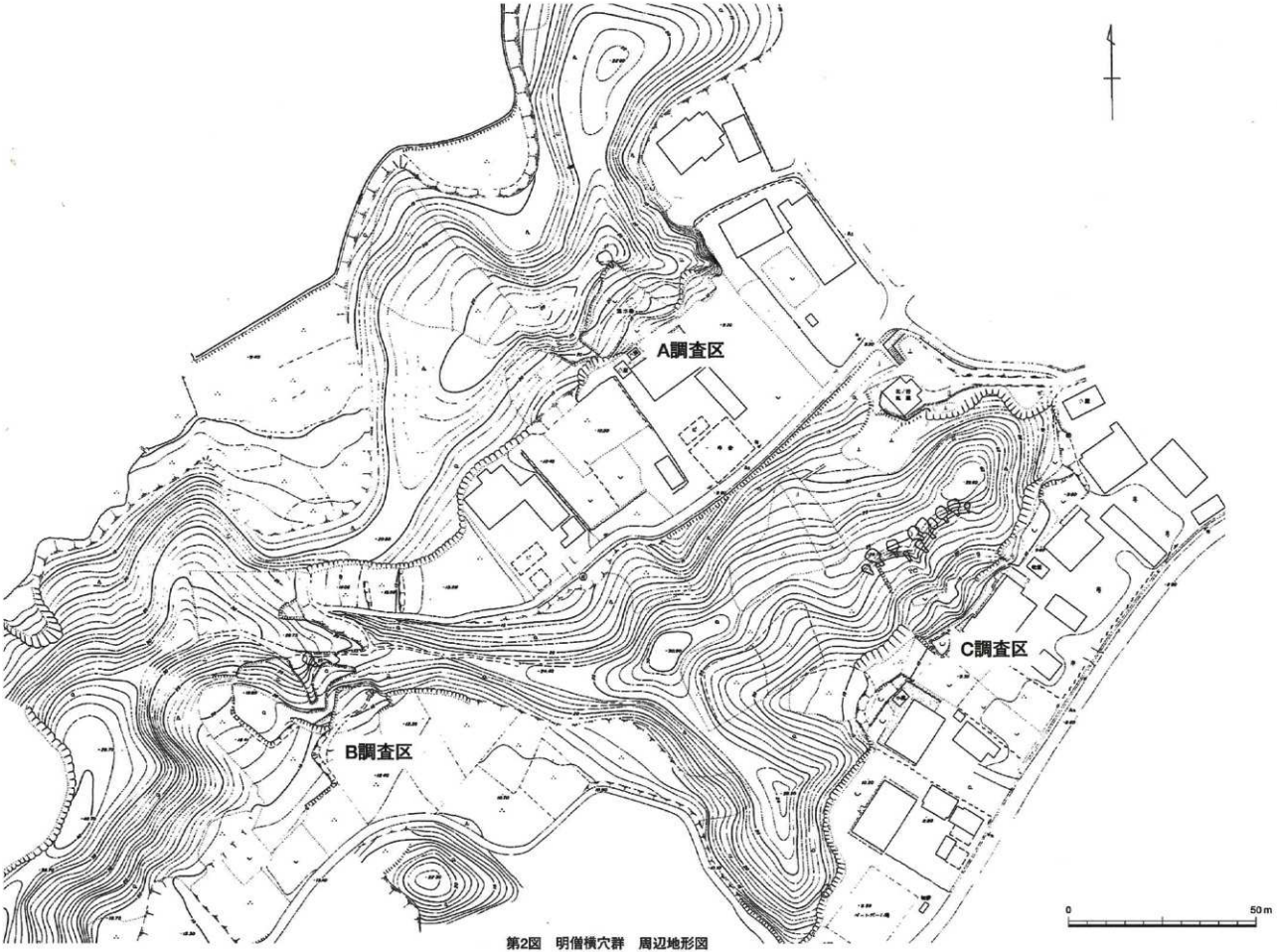
3月25日　西支群の調査に取り掛かる。西1号から順に調査。

4月13日　西3号玄室内発掘。形状が家屋の屋根を形作っていることが判明。

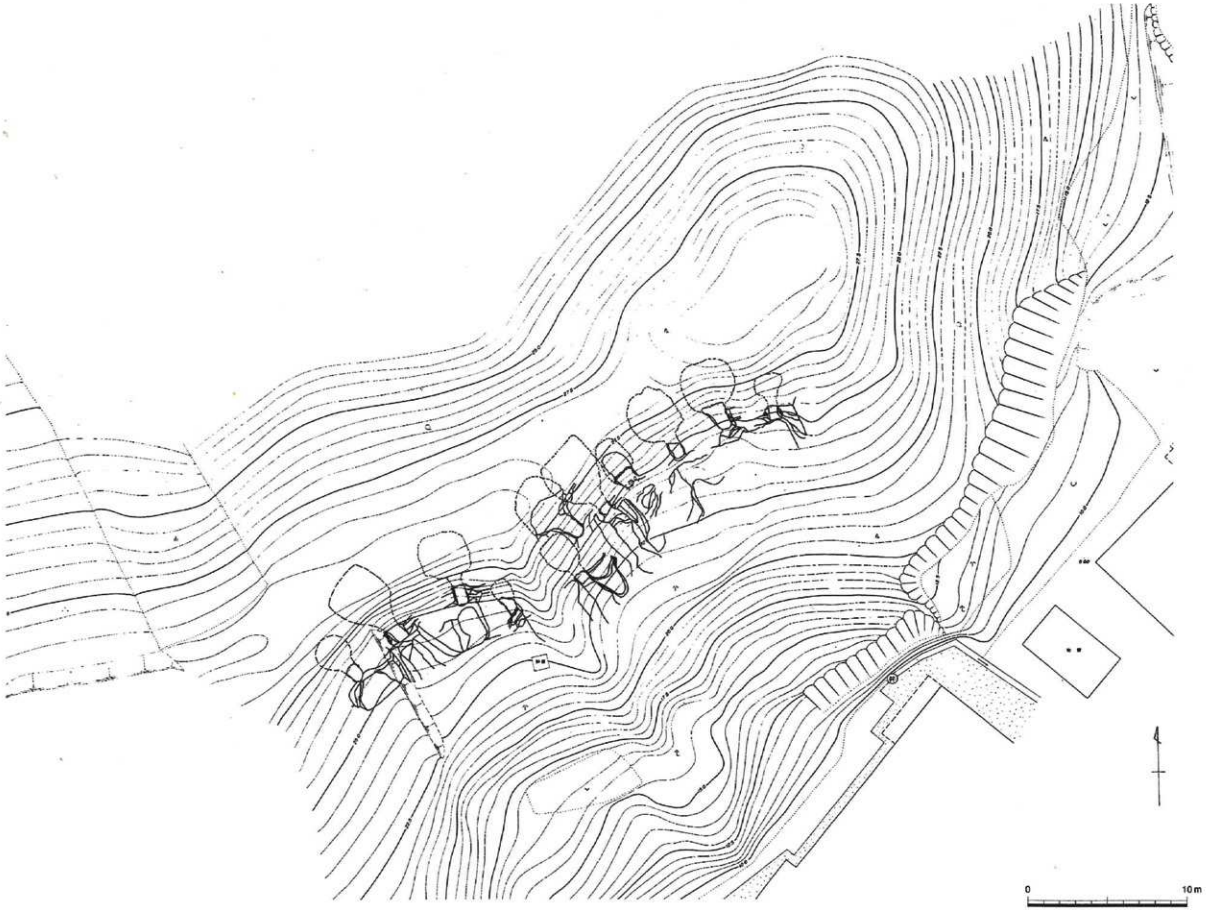
4月25日　新たに横穴1基発見、西4号と呼称する。

6月 3日　C調査区終了

〔A調査区〕
6月 6日　A調査区横穴の調査開始。
6月 8日　玄室内発掘。
6月23日　すべての調査が終了し、用具の片付け及び撤去。



第2図　明僧横穴群　周辺地形図



第3図　明僧横穴群　C調査区周辺地形図

V．遺構について

①A調査区第1号について（第4図）

本横穴は北東に伸びた丘陵が二股に分かれた、北側丘陵の南東斜面に構築されている。

玄室の主軸はN－38°30′－Wを指し、長さは3.45m、最大幅は3.78m、高さは1.98mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は21.85mである。

埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ2基の組合式石棺の堀方が残存している。主たる堀方は北側に位置する堀方で、中央に在る堀方より規模がやや大きく、内法は幅0.49m～0.50m、長さ1.90mある。側壁に沿って排水溝が掘られている。中央に在る堀方の内法は幅0.51m～0.54m、長さ1.79mある。この堀方の東側に、長径10～20cm大の礫が13個敷かれていた。

羨道部は短く、羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.56m、玄門部の幅1.82m、羨門部の幅1.02mを測る。高さは1.30mある。閉塞施設は川原石により封鎖され、7個が残存している。範囲は1.14m×0.98mである。

遺物は138点と、人骨片が出土している。遺物は、特に玄室の東南部から多く出土している。土器類は68点出土しており、このうち須恵器が57点、土師器が8点、かわらけ片が3点である。玄室からは須恵器が9点出土している。鉄器類は55点出土しており、このうち刀子片が11点、刀装具が2点、鉄鏃片が42点出土している。装身具は15点出土しており、丸玉が13点、勾玉が2点である。なお、土器類の59点（87％）は前庭部からの出土である。

②B調査区第1号について（第5図）

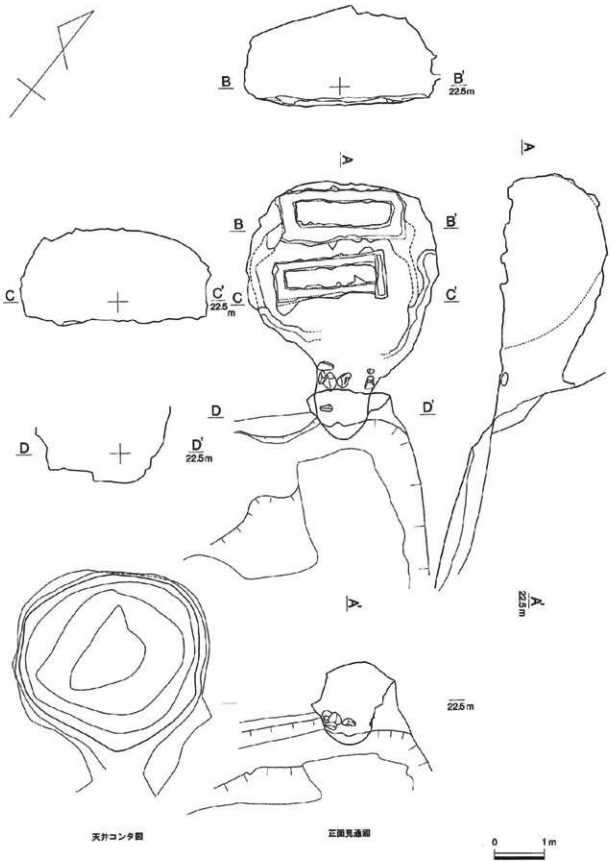
本横穴は北東に伸びる丘陵が二股に分かれる根元付近の南東斜面に構築されている。

玄室の主軸はN－51°－Wを指し、長さは2.81m、最大幅は2.83m、高さは天井部が崩落しており残存高が1.64mを測る。平面形は方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は23.23mである。

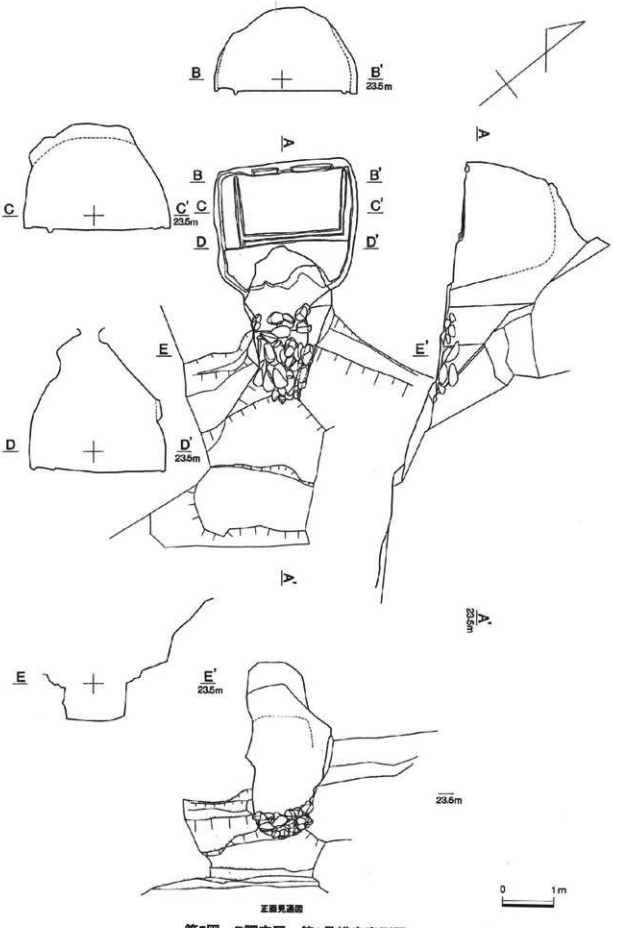
埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の堀方が1基残存している。この石棺では、棺内にあたる部分を削り出し、玄室内床面より一段高く造り付けられている。堀方は奥壁に接する様に構築され、内法は幅1.14m～1.17m、長さ1.96mある。奥壁から両側壁に沿って排水溝が掘られている。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.82m、玄門部の幅1.36m、羨門部の残存幅0.80mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下2段が残存している。封鎖石の高さは0.42m、範囲は1.16m×1.77mである。

遺物は玄室から後世の茶碗が1点と銭貨が4枚の計5点出土しているのみである。



第4図　A調査区　第1号横穴実測図



第5図　B調査区　第1号横穴実測図

③C調査区について（第3図）

・東支群

本横穴群は北東に伸びた丘陵が二股に分かれた南側丘陵の南東斜面に構築されている。

第1号横穴について（第6図）

第1号横穴は東支群の東端に位置している。

玄室の主軸はN－9°－Wを指し、長さは1.36m、最大幅は1.74m、高さは最大高が0.92mを測る。平面形は横長楕円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は23.92mである。

埋葬施設は残存しないが、玄室の中央部には1.03×1.24mの範囲に礫が敷かれていた。

羨道部は羨門部に向かって僅かに幅を減じている。長さ1.53m、玄門部の幅0.87m、羨門部の幅0.75mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、7段が残存している。封鎖石の高さは0.70m、範囲は0.82m×1.14mである。

遺物は28点出土している。特に、玄室の南部に集中している。土器類は21点出土しており、このうち須恵器が17点、土師器が4点、である。玄室からは須恵器が15点出土している（第7図）。鉄器類は7点出土しており、このうち刀子片が3点、鉄鏃片が4点出土している。

第2号横穴について（第8図）

本横穴は第1号横穴の西隣に位置している。

玄室の主軸はN－19°20′－Wを指し、長さは2.86m、最大幅は3.29m、高さは天井部が崩壊しており残存高が1.47mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。奥壁は直線的である。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は23.35mである。埋葬施設は残存しないが、玄室の中央部には2.70×3.10mの範囲に礫が敷かれていた。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.59m、玄門部の幅1.72m、羨門部の幅0.85mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下4段が残存している。封鎖石の高さは0.43m、範囲は1.03m×1.75mである。

遺物は玄室全体に分散して出土しているが、東部分にやや集中している（第9図）。478点出土しており、東支群の中で最も出土量が多い。その73％は装身具である。土器類は59点出土しており、このうち須恵器が37点、土師器が22点である。玄室からは須恵器が16点出土している。鉄器類は67点出土しており、このうち大刀片が3点、刀子片が4点、刀装具が4点、鉄鏃片が54点、鉄片が2点出土している。装身具は350点出土しており、耳環が5点、玉類は345点出土しており、勾玉が9点、管玉が2点、切子玉が1点、棗玉が17点、丸玉が26点、小玉が289点、ガラス玉1点である。

第3号横穴について（第10図）

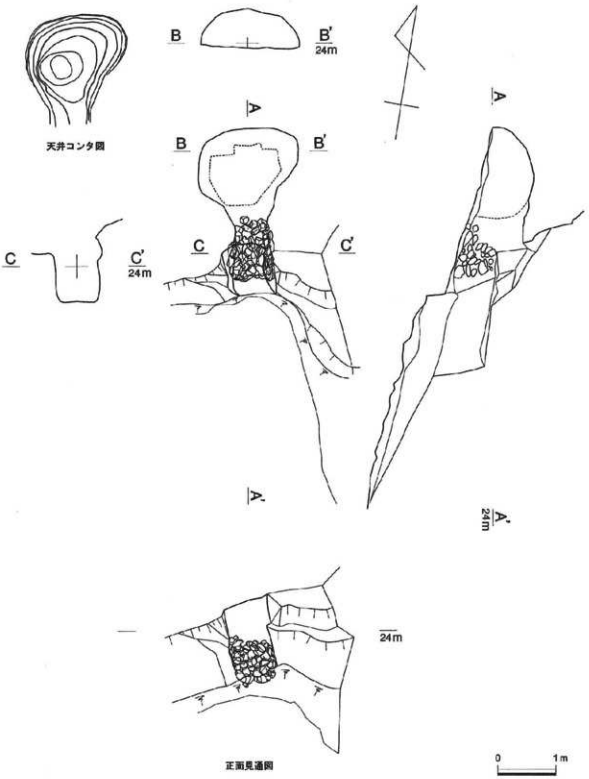
本横穴は第2号横穴の西隣に位置している。

玄室の主軸はN－33°－Wを指し、長さは3.26m、最大幅は3.04m、高さは最大高が1.76mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は22.92mである。

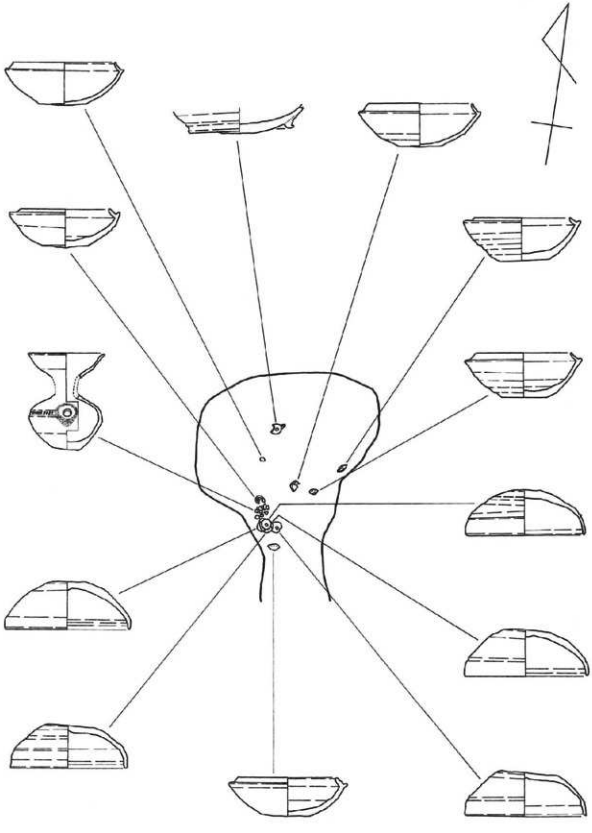
埋葬施設は玄室の主軸に並行した長軸を持つ1基の組合式石棺と敷石が残存している。石棺の内法は幅0.70m～0.75m、長さ2.02m、側壁の残存高0.39mあり、北側の幅が僅かに狭い。敷石は石棺の西側に敷かれ、幅1.45m、長さ2.25mの範囲に敷かれている（第11図）。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じず、ほぼ同じ幅を呈している。長さ1.53m、玄門部の幅0.88m、羨門部の幅0.80mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下7段が残存している。封鎖石の高さは0.84m、範囲は0.86m×1.25mである。

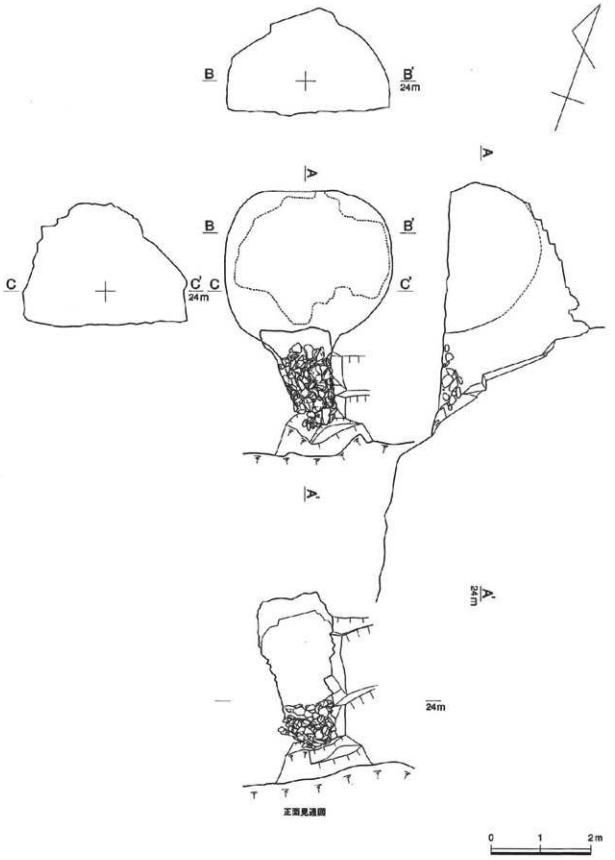
遺物は59点と、人骨片が出土し、玄室の北西部の奥壁と敷石の間に土器類が集中して出土している（第14図）。土器類は29点出土しており、このうち須恵器が25点、土師器が4点である。玄室からは須恵器が22点出土している。鉄器類は27点出土しており、このうち大刀片が1点、刀子片が9点、刀装具が5点、鉄鏃片が11点、鉄製金具が1点出土している。装身具は耳環が3点である。



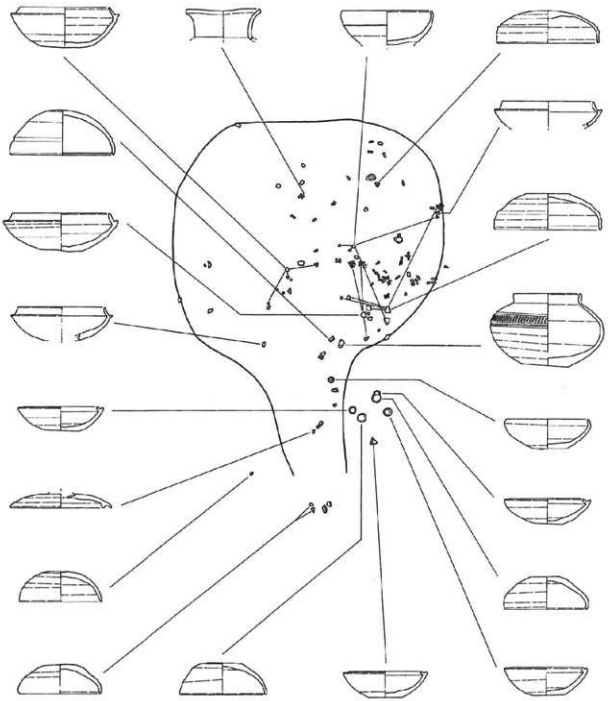
第6図　C調査区　東支群　第1号横穴実測図



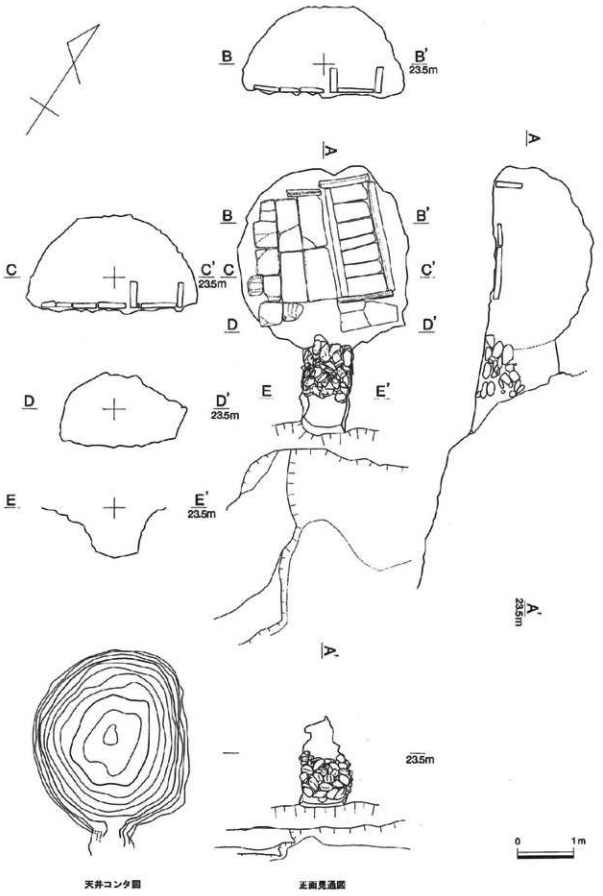
第7図　C調査区　東支群　第1号横穴　遺物出土状態図



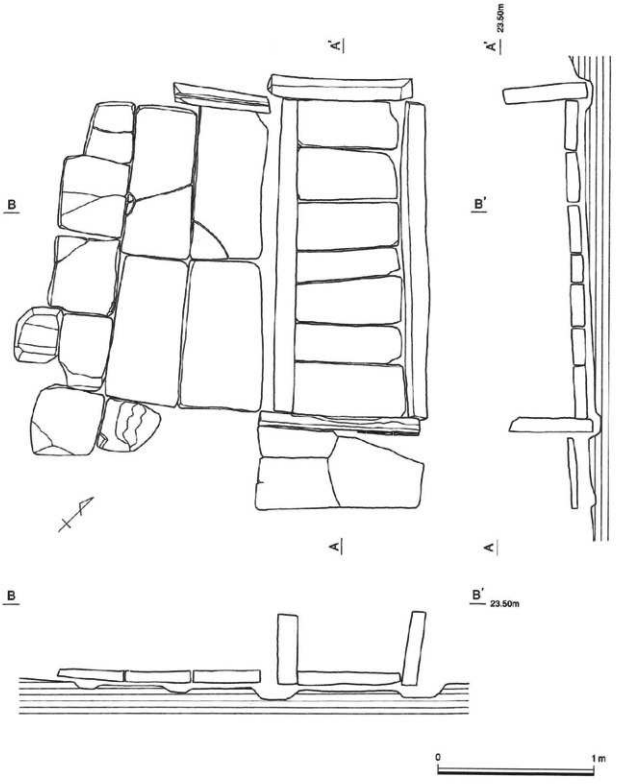
第8図　C調査区　東支群　第2号横穴実測図



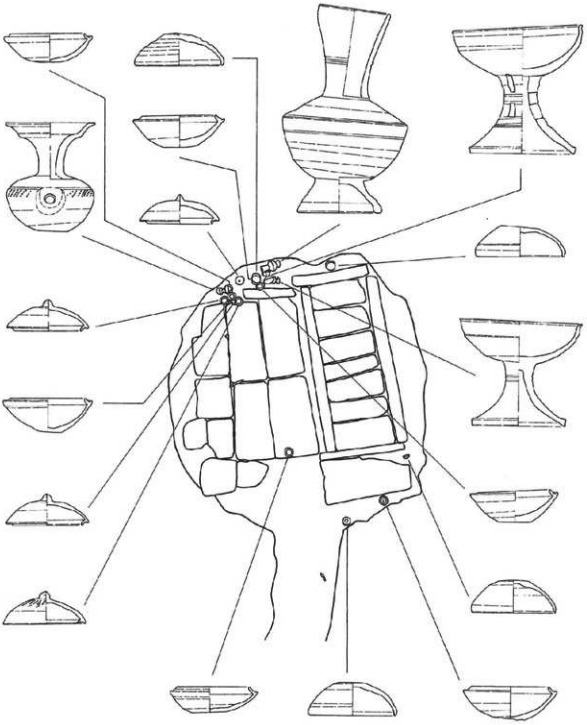
第9図　C調査区　東支群　第2号横穴遺物出土状態図



第10図　C調査区　東支群　第3号横穴実測図



第11図　C調査区　東支群　第3号横穴　石棺平面・断面図



第12図　C調査区　東支群　第3号横穴　遺物出土状態図

第4号横穴について（第13図）

本横穴は第3号横穴の西隣に位置している。

玄室の主軸はN－36°30′－Wを指し、長さは2.22m、最大幅は1.90m、高さは天井部が崩落しており不明である。平面形は縦長の楕円形を呈し、横断面形はアーチ形と思われる。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は23.50mである。

埋葬施設は残存しないが、玄室の中央から南部分を除く範囲に、敷石が敷かれていた。

羨道部は羨門部に向かってやや幅を減じている。残存する長さ0.98m、玄門部の幅1.27mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下5段が残存している。封鎖石の高さは0.67m、範囲は1.35m×1.38mである。

遺物は須恵器が6点（玄室から2点、前庭部から4点）と、人骨片が出土している。

第5号横穴について（第14図）

本横穴は第4号横穴の西隣に位置している。

玄室の主軸はN－44°－Wを指し、長さは3.55m、最大幅は3.53m、高さは最大高が2.10mを測る。平面形は三角フラスコ形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は22.45mである。

埋葬施設は玄室の主軸に並行した長軸をもつ組合式石棺が1基と敷石が残存している。石棺は東側壁に沿うように構築され、内法は幅0.73m、長さ1.63mある。敷石は石棺の西側の奥壁寄りに、幅1.40m、長さ0.75mの範囲に敷かれている。また、敷石の下に、玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の堀方が残存している（第15図）。

羨道部は羨門部に向かってやや幅を減じている。長さ1.38m、玄門部の幅1.09m、羨門部の幅0.70m、高さは最大高が1.16mを測る。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下8段が残存している。封鎖石の高さは0.53m、範囲は1.17m×1.38mである。

遺物は175点出土し、玄室の南部分に土器類が集中して出土している（第16図）。土器類は158点出土しており、このうち須恵器が144点、土師器が14点である。玄室からは須恵器が34点出土している。鉄器類は17点出土しており、このうち大刀片が1点、刀子片が3点、鉄鏃片が13点である。

第6号横穴について（第17図）

本横穴は第5号横穴の西隣の上に位置している。

玄室の主軸はN－53°30′－Wを指し、長さは3.10m、最大幅は3.21m、高さは最大高が1.69mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は24.66mである。

埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸を持つ組合式石棺の堀方が1基残存している。内法は推定で幅0.53m、長さ1.37mある。

羨道部は羨門部に向かってやや幅を減じている。長さ1.72m、玄門部の幅1.28m、羨門部の幅0.86m、高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下4段が残存している。封鎖石の高さは0.48m、範囲は1.21m×1.61mである。

遺物は17点出土し、石棺の堀方より南部分に、土器類が分散して出土している（第18図）。土器類は15点出土しており、このうち須恵器が9点、土師器が6点で玄室からの出土である。鉄器類は2点出土しており、このうち刀子片が1点、鉄鏃片が1点である。

第7号横穴について（第19図）

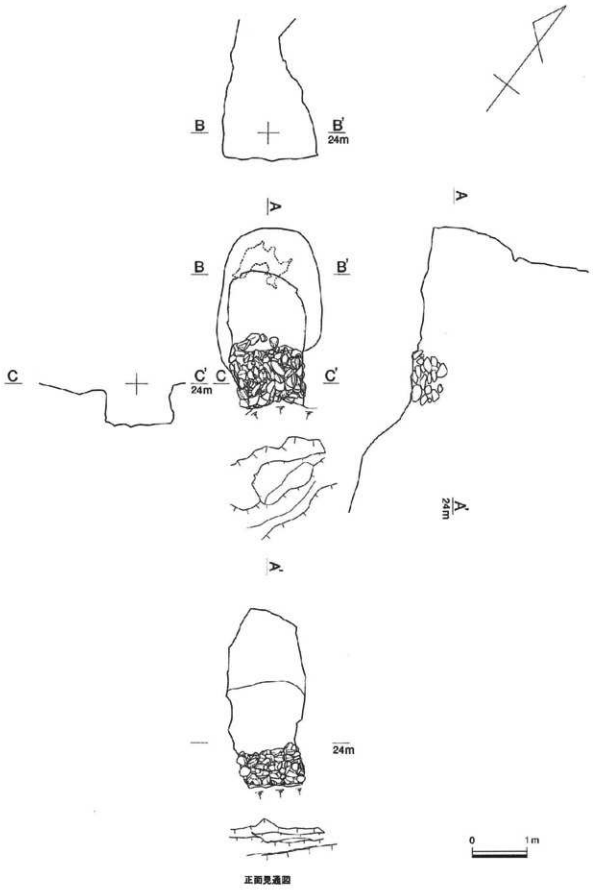
本横穴は第6号横穴の西隣で、東支群の西端に位置している。

玄室の主軸はN－42°45′－Wを指し、長さは2.20m、最大幅は2.02m、高さは最大高が1.53mを測る。平面形は縦長のやや方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は21.72mである。

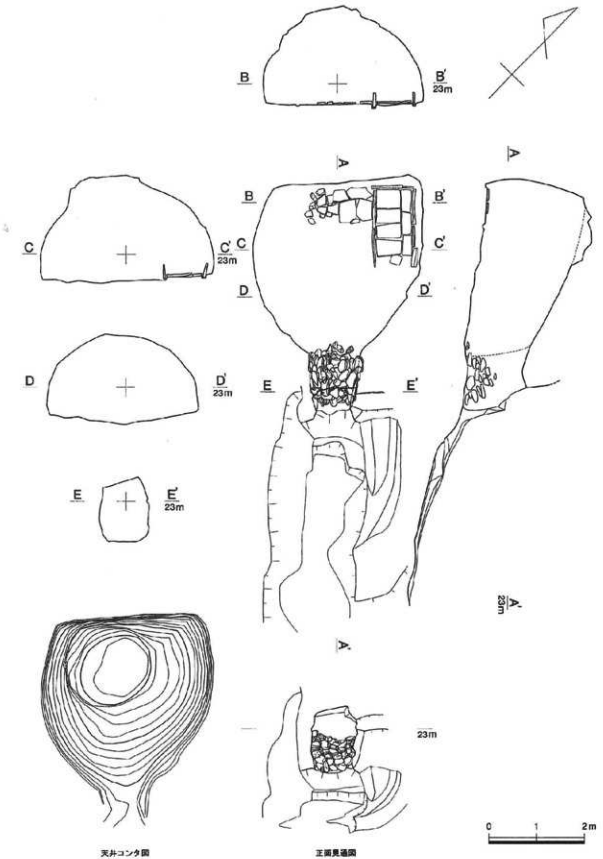
埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺が1基残存している。奥壁に接し、玄室のほぼ半分を占めている。内法は幅0.52m～0.55m、長さ1.55mあり、西側の幅が僅かに狭い（第20図）。

羨道部は羨門部に向かってやや幅を減じている。長さ1.23m、玄門部の幅0.88m、羨門部の幅0.67m、高さ0.98mを測る。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下6段が残存している。封鎖石の高さは0.71m、範囲は0.88m×0.86mである。

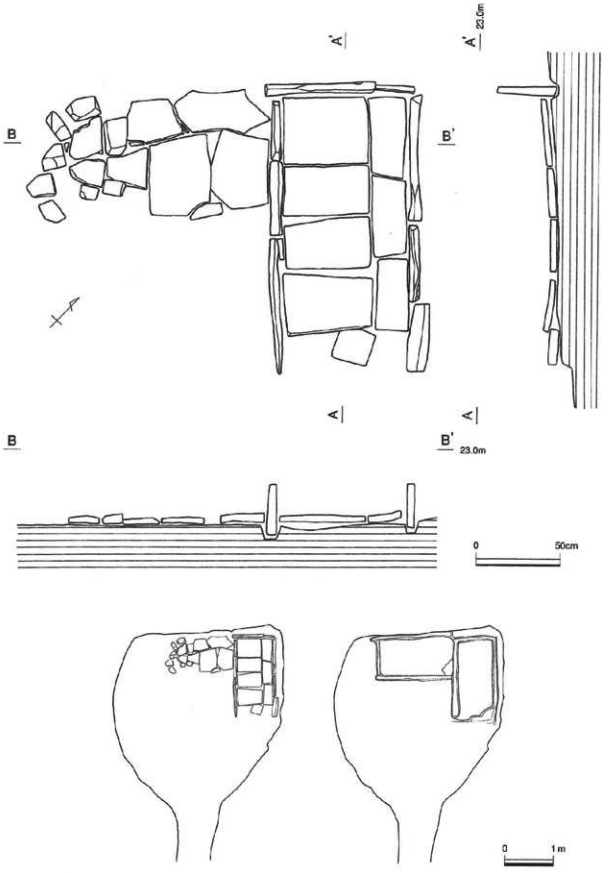
遺物は87点と、人骨片が出土している。土器類は61点出土しており、このうち須恵器が10点、土師器が51点で、玄室からの出土で、いずれも玄室の南部分からの出土である（第21図）。鉄器類は26点出土しており、このうち刀子片が5点、刀装具が2点、鉄鏃片が19点である。



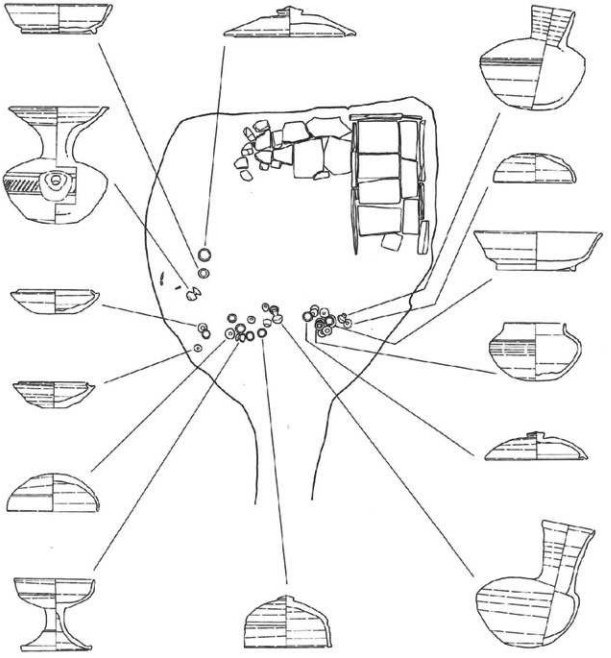
第13図　C調査区　東支群　第4号横穴　実測図



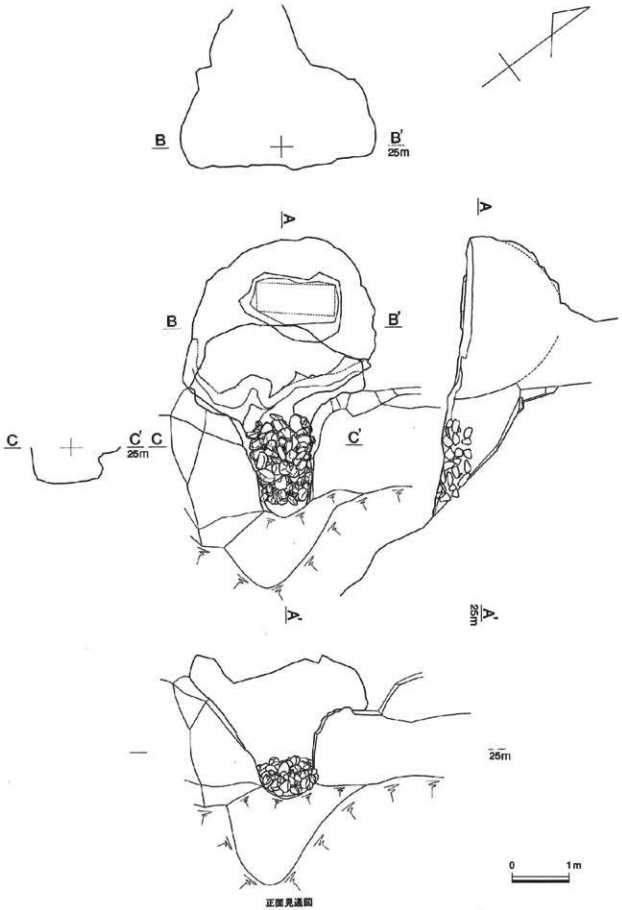
第14図　C調査区　東支群　第5号横穴　実測図



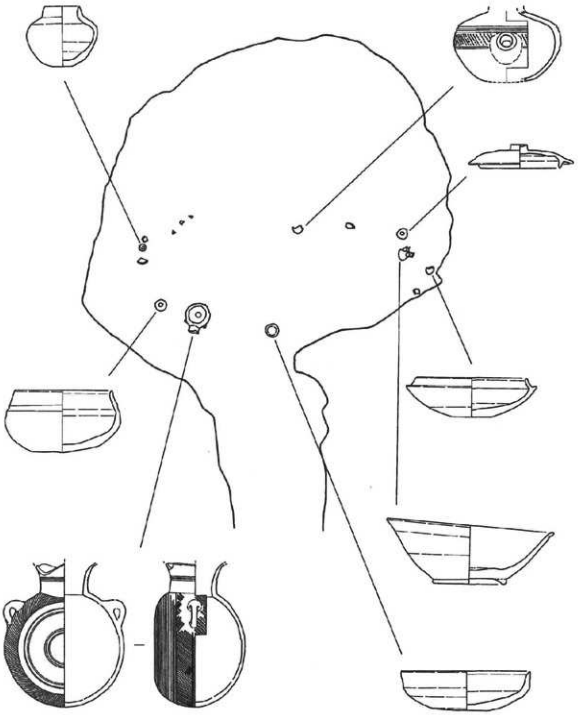
第15図　C調査区　東支群　第5号横穴　石棺平面・断面および棚方平面図



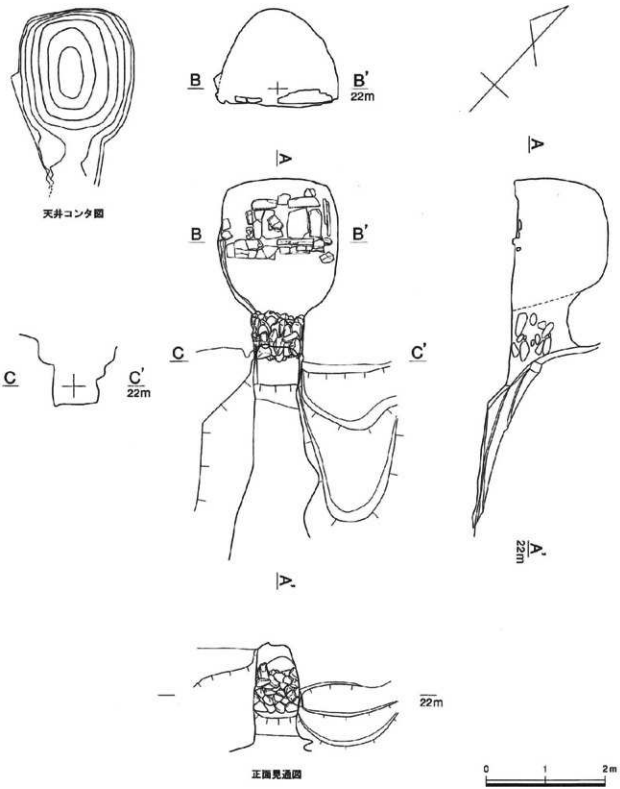
第16図　C調査区　東支群　第5号横穴　遺物出土状態図



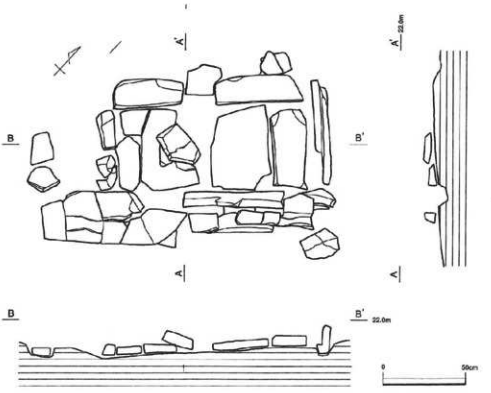
第17図　C調査区東支群第6号横穴実測図



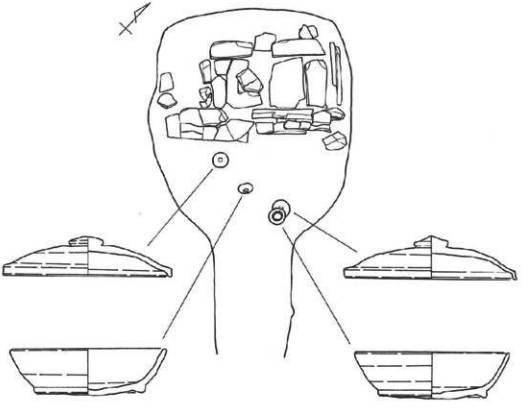
第18図　C調査区　東支群　第6号横穴　遺物出土状態図



第19図　C調査区　東支群　第7号横穴　実測図



第20図　C調査区　東支群　第7号横穴　石棺平面・断面図



第21図　C調査区　東支群　第7号横穴　遺物出土状態図

・西支群

本横穴群は北東に伸びた丘陵が二股に分かれた南側丘陵の南東斜面に構築されており、4基からなる。

第1号横穴について（第22図）

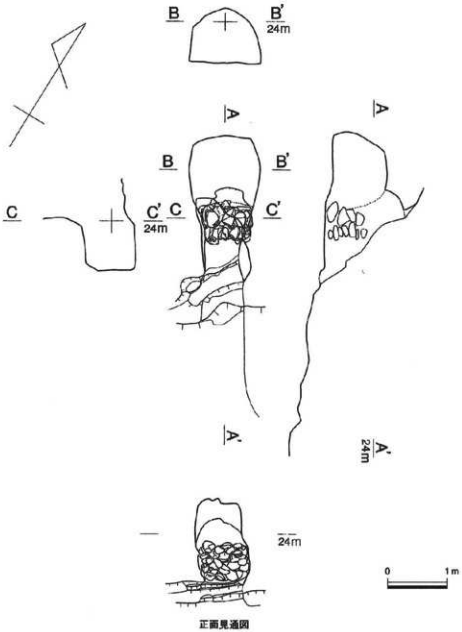
本横穴は東支群第6号横穴の西方向で、西支群の東端に位置している。

玄室の主軸はN－31°30′－Wを指し、長さは1.35m、最大幅は1.19m、高さは最大高が0.93mを測る。平面形は縦長のやや方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は23.32mである。

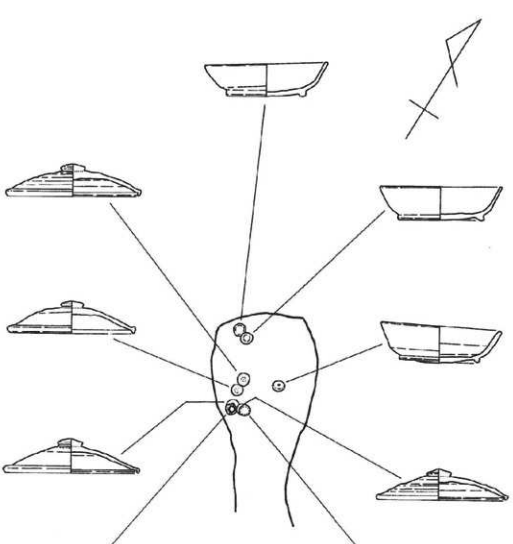
埋葬施設は残存していない。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.02m、玄門部の幅0.88m、羨門部の幅0.59mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下7段が残存している。封鎖石の高さは0.72m、範囲は0.87m×0.72mである。

遺物は玄室の西部分から須恵器が9点出土しているのみである（第23図）。



第22図　C調査区　西支群　第1号横穴　実測図



第23図　C調査区　西支群　第1号横穴　遺物出土状態図

第2号横穴について（第24図）

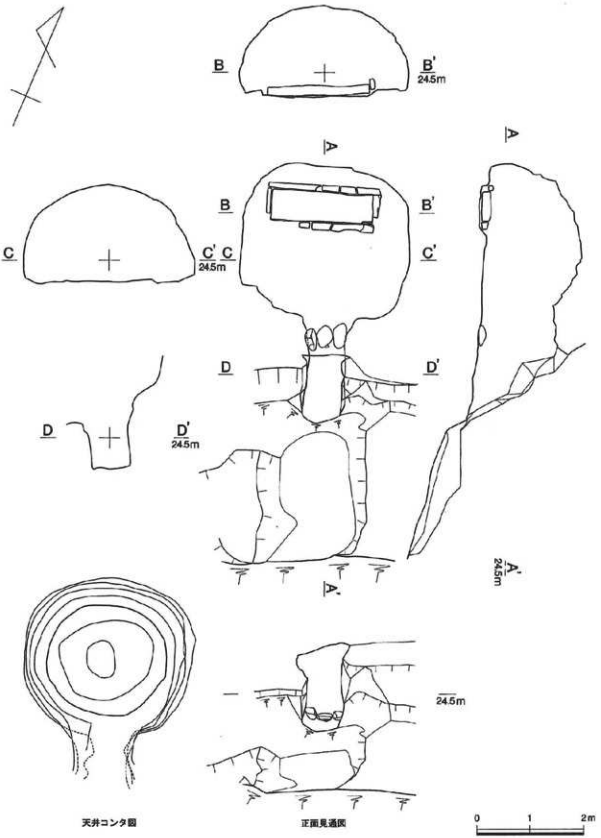
本横穴は西支群第1号横穴の西隣に位置している。

玄室の主軸はN－23°－Wを指し、長さは2.80m、最大幅は3.10m、高さは最大高が1.79mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は24.12mである。

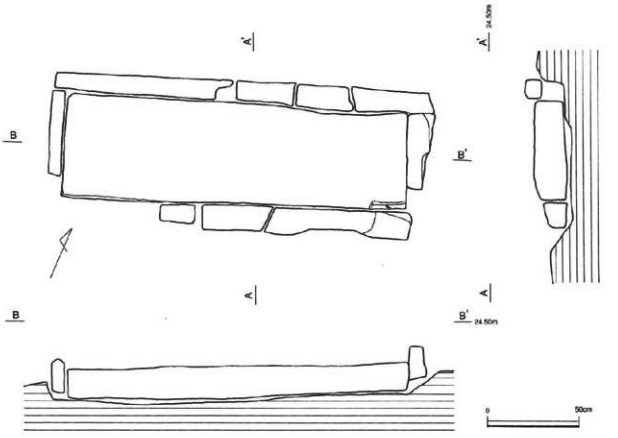
埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺が1基残存している。奥壁寄りに構築してあり、幅0.53m～0.57m、長さ1.90mあり、東側の幅が僅かに狭い（第25図）。

羨道部は羨門部に向かってやや幅を減じている。長さ1.78m、玄門部の幅0.98m、羨門部の幅0.70mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下1段が残存している。封鎖石の高さは0.14m、範囲は0.76m×0.50mである。

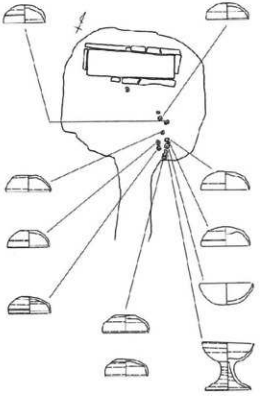
遺物は32点が出土しているが、特に玄室の南東部に集中している（第26図）。土器類は27点出土しており、このうち須恵器が25点、土師器が2点で、玄室からは須恵器が14点と土師器が2点出土している。鉄器類は5点出土しており、このうち刀子片が1点、鉄鏃片が4点である。



第24図　C調査区　西支群　第2号横穴　実測図



第25図　C調査区　西支群　第2号横穴　石棺平面・断面図



第26図　C調査区　西支群　第2号横穴　遺物出土状態図

第3号横穴について（第27図）

本横穴は西支群第2号横穴の西隣に位置している。

玄室の主軸はN－48°30′－Wを指し、長さは3.95m、最大幅は3.36m、高さは最大高が2.28mを測る。平面形は羽子板形を呈し、横断面形は梯形を呈している。奥壁と側壁又は、玄室と羨道部の境が明瞭に造られている。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は23.20mである。天井部は丁寧に整形され、ほぼ原形を留めている。天井は家屋の屋根を模した形状に整形されており、天井頂部には長方形状に削り出した、棟木を意識したと思われる意匠が施されている。

埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の堀方が1基残存している。奥壁寄りに構築してあり、幅0.49m～0.57m、長さ1.69mあり、西側の幅が狭い。玄室の奥半分には組合式石棺の堀方を廻るように、奥壁から側壁に沿って排水溝が掘られている。横穴内はノミ痕が明瞭に残存していた。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.46m、玄門部の幅1.16m、羨門部の幅0.76m、高さ1.16mを測る。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下3段が残存している。封鎖石の高さは0.38m、範囲は0.94m×1.05mである。

遺物は351点と人骨片が出土しており、西支群の中で最も出土量が多い。その99％は土器類である。土器類は349点出土しており、このうち須恵器が204点、土師器が144点、陶器が1点である。ほとんどが玄室からの出土で、須恵器2点が前庭部からの出土である。鉄器類は鉄鏃片が1点出土しているのみである。その他に銭貨が1点出土している。

第4号横穴について（第28図）

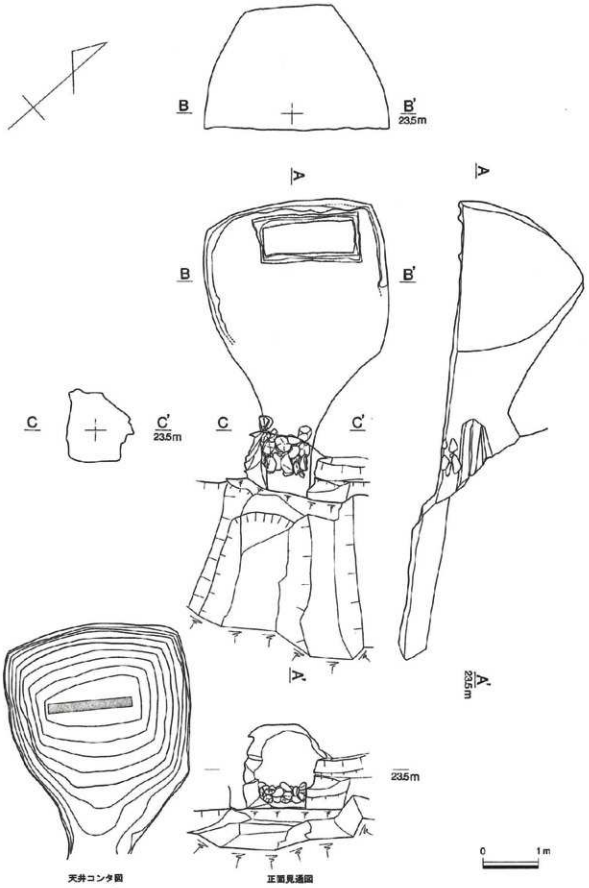
本横穴は西支群第3号横穴の西隣で、西支群の西端に位置している。

玄室の主軸はN－47°30′－Wを指し、長さは2.12m、最大幅は2.25m、高さは最大高が1.64mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。玄室中央の標高は23.23mである。天井部は丁寧に整形され、ほぼ原形を留めている。

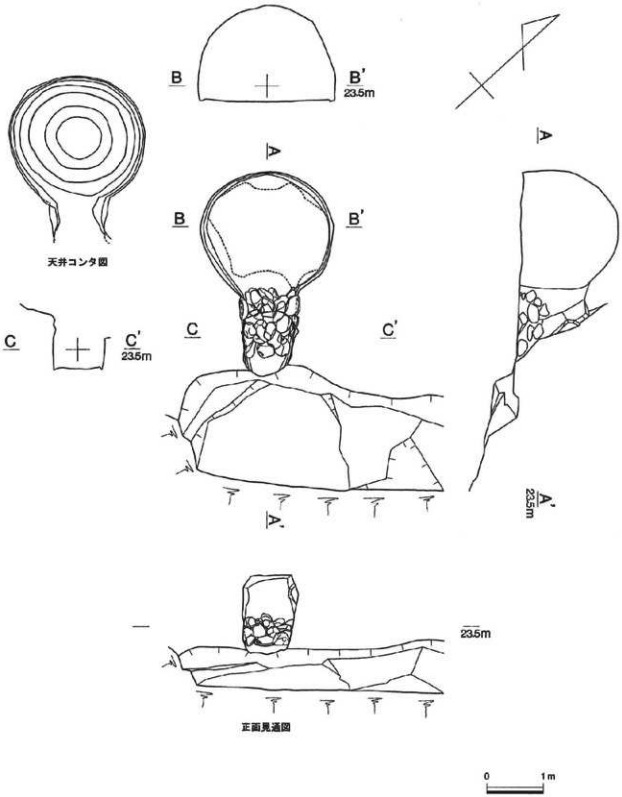
埋葬施設は残存していないが、玄室のほぼ全域に礫が敷かれ、玄室の壁に沿って排水溝が掘られており、羨道部に続いている。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.23m、玄門部の幅1.02m、羨門部の幅0.68m、高さ1.09mを測る。排水溝は両側壁に沿って掘られている。閉塞施設は川原石により封鎖され、下3段が残存している。封鎖石の高さは0.52m、範囲は1.03m×1.19mである。

遺物は10点と人骨片が出土している。土器類は6点出土しており、須恵器が3点、土師器が3点である。鉄器類は鉄鏃片が4点出土している。



第27図　C調査区　西支群　第3号横穴　実測図



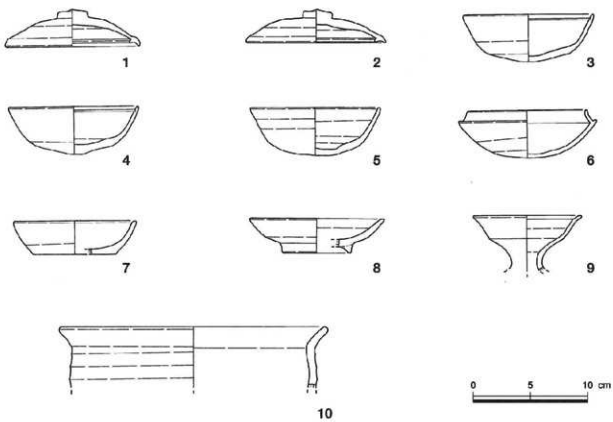
第28図　C調査区　西支群　第4号横穴　実測図

Ⅵ. 遺物について

・A調査区第1号横穴出土土器について

土器類は68点出土しており、このうち須恵器が57点、土師器が8点、かわらけ片が3点である。玄室からは須恵器が9点出土している。土器類の59点（87%）は前庭部からの出土である。

須恵器は坏蓋が2点、坏身が6点、甕が1点、前庭部から　瓶　が1点、須恵器片が47点（口縁部片35点、体部片11点、底部片1点）。土師器片は前庭部から8点（口縁部片4点、体部片4点）。かわらけ片は前庭部から3点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋2点、坏身6点、　瓶　1点、甕1点の10点を図示した。**第29図1・2**は坏蓋で、天井部から緩やかに開きながら下がり、「かえり」は小さく内傾している。頂点に扁平な擬宝珠状のつまみが付く。色調は灰白色を呈し、胎土は密である。**3～8**は坏身で、**3・4・5**は丸底から内湾し、開きながら立ち上がる。**3**と**4**の内面には一条の沈線が施されている。色調は灰色を呈し、胎土は密で、白色あるいは黒色の粒子を含んでいる。**6**は丸底で、口縁部との間に受けを持つ。色調は灰色を呈し、胎土は密で、白色粒子を含んでいる。**7**は平底で直線的に開く。底部外面に回転糸切り痕が認められる。色調は灰黄褐色を呈し、胎土は密で、雲母を少量含んでいる。**8**は平底で、断面が三角形の貼り付け高台が付く。色調は黄灰色を呈し、胎土は密で、黒色・白色粒子を少量含み、2mm大の砂粒子を含んでいる。**9**は　瓶　の口縁部片で、口縁部は大きく開き、端部は外反する。色調は外面が灰色、内面が灰白色を呈し、胎土は密である。**10**は甕の体部上半から口縁部にかけての破片で、体部は直線的に立ち上がり、頸部ははやや内傾して「く」の字状に屈曲し、口縁端部を丸く収めている。体部外面にノタ目が見られる。色調は灰色を呈し、胎土は密で、0.5～2mm大の砂粒子を含んでいる。



第29図　A調査区横穴出土土器実測図
1・2　坏蓋、3～8　坏身、9　瓶、10　甕

・B調査区第1号横穴出土土器について

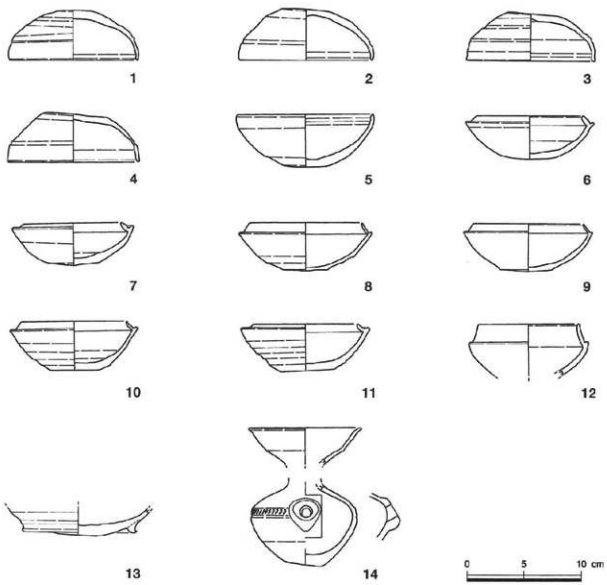
茶碗が1点出土しているが、後世のものである。

・C調査区

・東支群第1号横穴出土土器について

土器類は21点出土しており、このうち須恵器が17点、土師器が4点である。玄室からは須恵器が15点出土している。

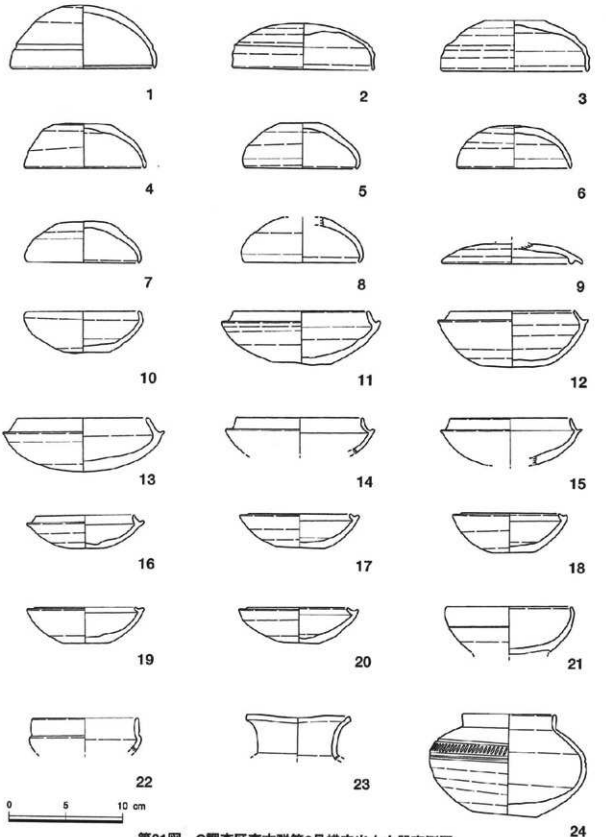
須恵器は坏蓋が4点、坏身が9点（内1点は前庭部から出土）、　甕　が1点の他に、前庭部から須恵器の体部片が1点出土している。土師器片は前庭部から4点（口縁部片2点、体部片2点）出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋4点、坏身9点、　甕　1点の14点を図示した。**第30図1～4**は坏蓋で、1は天井部が弓張り状をなし、口縁部は僅かに内湾する。2～4の天井部はほぼ平らで、3の口縁端部は僅かに外反し、4の口縁部は僅かに開いている。色調は2が鈍い赤褐色を呈している以外は灰色を呈し、胎土は密である。5～13は坏身で、6～12は受けをもち、中でも12は口縁部が高く内傾している。13は底部の破片で、貼り付け高台が付き、高台端部はかえりがある。いずれも色調は灰～灰白色を呈し、胎土は密である。14は　甕　で、頸部を欠いている。体部は球形を呈するが、最大径は体部上半にあり、そこに径1.15cmの孔が空けられている。色調は灰色で、胎土に黒色粒子を含んでいる。



第30図　C調査区東支群第1号横穴出土土器実測図
1～4　坏蓋、5～13　坏身、14　甕

・東支群第2号横穴出土土器について

土器類は58点出土しており、このうち須恵器が37点、土師器が22点である。玄室からは須恵器が16点出土している。



第31図　C調査区東支群第2号横穴出土土器実測図

1～9　坏蓋、10～20　坏身、21　高坏、22　坩、23・24　短頸壺

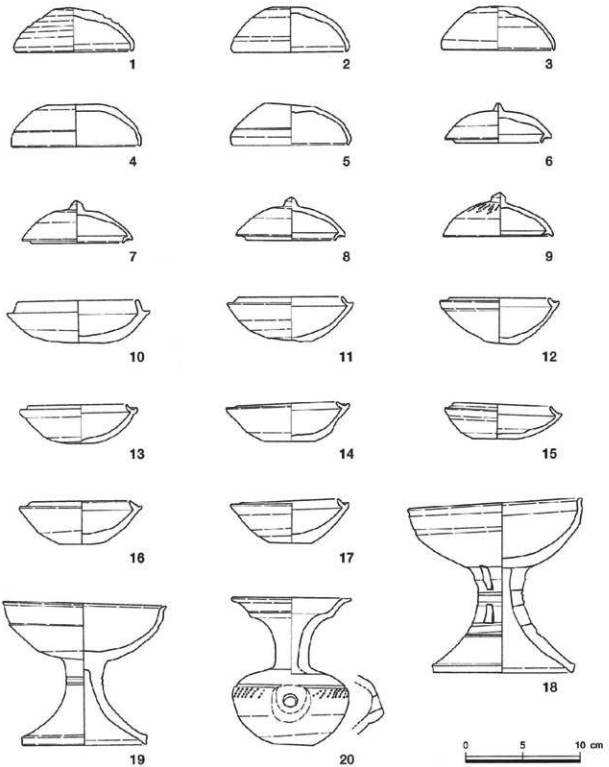
須恵器は坏蓋が10点（内7点は前庭部から出土）、坏身が11点（内6点は前庭部から出土）、高坏が1点、短頸壺が2点、須恵器の口縁部片3点、体部片2点、前庭部から須恵器の坩が1点、口縁部片が4点、底部片が3点出土している。土師器片は前庭部から体部片が22点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋9点、坏身11点、高坏1点、坩1点、短頸壺2点の24点を図示した。**第31図1～9**は坏蓋で、**1**は丸い天井部から内湾しながら下がり、口縁部はやや内湾する。外面の口縁部との境に太くて浅い沈線を施し、内面の口縁端部に沈線を施している。色調は鈍い褐色を呈し、胎土は密で、白色粒子を多く含んでいる。**2・6**は天井部が弓張り状をなして内湾する。色調は灰色を呈し、胎土は密である。**3・4・5・7・8**は天井部が平らで内湾しながら下がる。色調は灰～灰白色を呈し、胎土は密である。**9**は天井部につまみが付くと思われる。かえりは小さく内傾している。色調は灰色で、胎土は密である。**10～20**は坏身で、**10**は平底で口縁部は内湾している。色調は灰色を呈し、胎土は密である。**11～20**は口縁部との間に受けを持つ坏身で、口縁部が高く内傾する**11～15**と、低く内傾する**16～20**とに区分される。前者は口径が10.60～11.90cmであるが、後者は口径が8.55～9.00cmである。**21**は高坏の坏部で、丸底から内湾しながら立ち上がり、口縁部も内湾している。色調は灰色を呈し、胎土は密で白色・黒色粒子を含んでいる。**22**は坩の体部上半から口縁部の破片で、口縁部は垂直に立ち上がっている。色調は灰白色を呈し、胎土は密で黒色粒子を含んでいる。**23**は短頸壺の口縁部片で、ラッパ状に開き、端部を尖らせている。色調は灰白色を呈し、胎土は密で黒色粒子を含んでいる。**24**も短頸壺で、口縁部は直口口縁である。体部の最大径は上半にあり、その上位に一条の沈線を施し、沈線の下に櫛目紋、さらにその下に二条の沈線を施している。色調は灰色を呈し、胎土に2mm以下の黒色粒子を多く含んでいる。

・東支群第3号横穴出土土器について

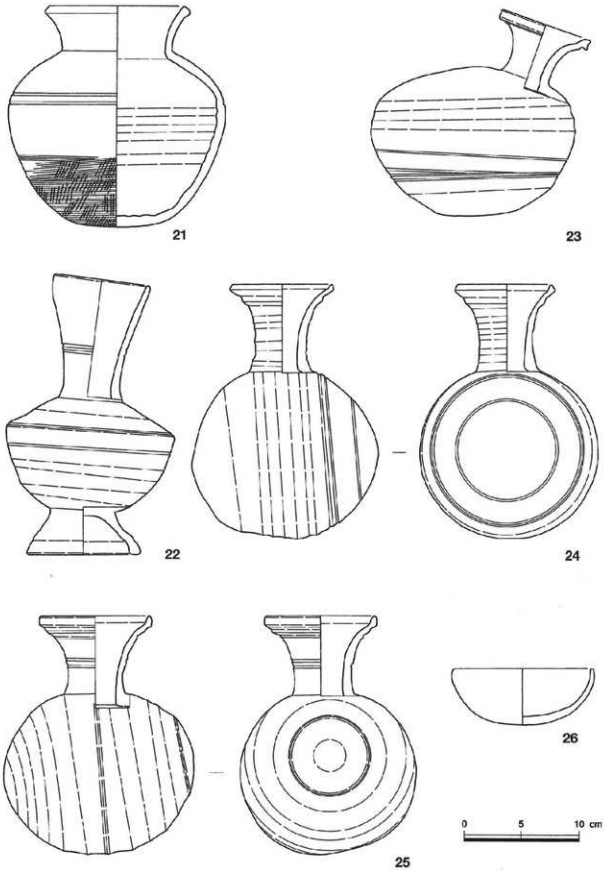
土器類は29点出土しており、このうち須恵器が25点、土師器が4点である。玄室からは須恵器が22点出土している。

須恵器は坏蓋が9点（内1点は前庭部から出土）、坏身が7点（内6点は前庭部から出土）、高坏が2点、　瓶　が1点、台付長頸壺が1点、平瓶が1点、横瓶が2点、前庭部から須恵器の短頸壺が1点、底部片が1点出土している。土師器は前庭部から坏身が1点と体部片が3点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋9点、坏身8点、高坏2点、　瓶　1点、短頸壺が1点、台付長頸壺1点、平瓶1点、横瓶2点、土師器の坏身1点の25点を図示した。**第32図1～9**は坏蓋で、**1～3**は天井部が弓張り状をなして内湾する。色調は灰～灰白色を呈し、胎土は密である。**4・5**は天井部が平らで内湾しながら下がり、口縁との境に段（4）もしくは沈線（5）を有している。色調は灰～灰白色を呈し、胎土は密である。**6～9**は頂点に乳頭状のつまみが付き、かえりは内傾している。最大径が9.50～9.85cmと小型である。**10～17**は坏身で口縁部との間に受けを持つ。**10・11・13**は丸底で、**12**と**14～17**は平底である。**10**の口径が10.40cmあり、それ以外は8.50～9.30cmの範囲内である。色調は**14**がオリーブ色を呈する以外、灰色を呈し、胎土は密である。**18・19**は高坏で、2点とも坏部と脚部の高さの比は：6である。**18**は脚の二方向に二段の透かしがあり、透かしの間に二条の不明瞭な沈線を、透かしの下にも三条の不明瞭な沈線を施している。色調は灰色を呈し、胎土は密で黒色粒子を含む。**19**は坏部の中位に段を有し、脚部の上位に二条の不明瞭な沈線を施している。**20**は　瓶　で、体部は球形を呈するが、最大径は体部上半にあり、そこに径1.25cmの孔が空けられている。口径は体部の最大径より大きい。平底の外面に「十」の　瓶記号がある。色調は灰色を呈し、胎土は密である。

第33図21は短頸壺で、丸底から内湾しながら立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。体部上半に最大径があり、その上位に二条の沈線を施している。色調は灰色を呈し、胎土は密で白色粒子を僅かに含む。**22**は台付長頸壺で、体部の約3分の2上に稜線を有し、そこが最大径となり、稜のすぐ上に一条の沈線を施している。口縁部は体部の高さと同じくらいあり、中位よりやや下に二条の沈線を施している。色調は灰色を呈し、胎土は密である。**23**は平瓶で、体部は全体に丸味を持ち、体部の中心より約5.2cmはずれて口縁部を取り付けている。口縁部は複合口縁である。体部上半にノタ目が見られ、下半には不規則な沈線を廻らせている。色調は黄灰色を呈し、胎土は密で白色粒子を含む。**24・25**は横瓶で、**24**は球形の体部の横に、別作りの外反する口縁部を接合している。口縁端部は尖らせている。外面の一部に自然釉が認められる。色調は灰白色を呈している。**25**は卵形の体部の横に、別作りの外反する口縁部を接合している。口縁端部は垂直に立ち上げている。外面の一部に自然釉が認められる。色調は灰白色を呈し、胎土には有機物による気泡が多く見られる。**26**は土師器の坏身で、丸味を帯びた底部から内湾して立ち上がり、口縁端部を丸く収めている。内外面とも摩耗のため調整は不明瞭である。色調は橙色を呈し、胎土はやや密である。



第32図　C調査区東支群第3号横穴出土土器実測図（1）
1～9　坏蓋、10～17　坏身、18・19　高坏、20　甕

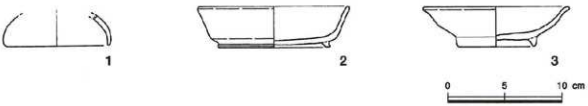


第33図　C調査区東支群第3号横穴出土土器実測図（2）
21　短頸壺、**22**　台付長頸壺、**23**　平瓶、**24・25**　横瓶、**26**　土師器の坏身

・東支群第4号横穴出土土器について

遺物は須恵器が6点（玄室から2点、前庭部から4点）出土している。

須恵器は坏身が3点（内1点は前庭部から出土）、前庭部から須恵器の坏蓋が1点、口縁部～底部片が1点、口縁部片が1点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋1点、坏身2点の3点を図示した。**第34図1**は坏蓋の口縁部片で、体部は内湾しながら下がり、口縁部も内湾する。色調は灰色を呈し、胎土は密で、白色・黒色粒子を含む。**2・3**は坏身で、**2**は平底から内湾して立ち上がり直線的に開く。断面が台形の貼り付け高台が付く。色調は灰白色を呈し、胎土は密で、白色粒子を僅かに含む。**3**は平底から直線的に開き、口縁部は僅かに外反する。断面が三角形の貼り付け高台が付く。色調は灰色を呈し、胎土は密で、砂粒子・黒色粒子を僅かに含む。



第34図　C調査区東支群第4号横穴出土土器実測図
1　坏蓋、2・3　坏身

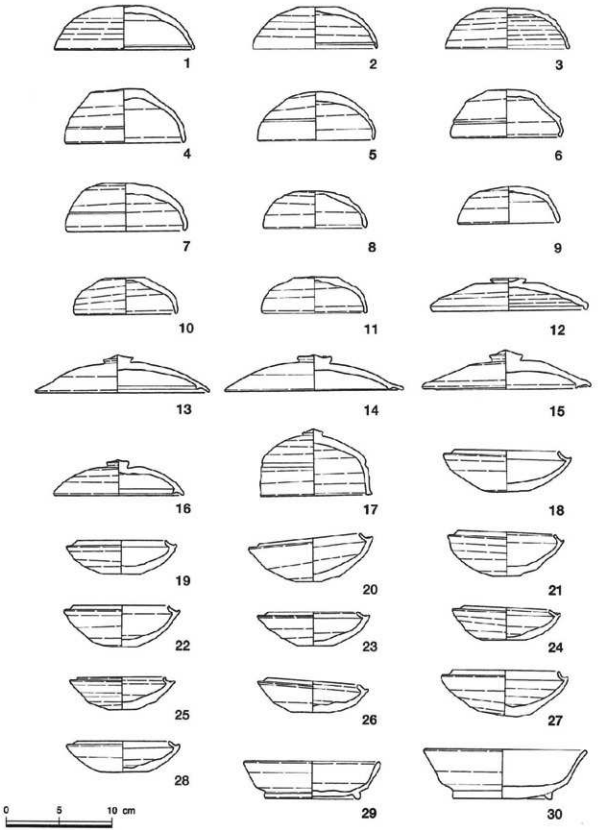
・東支群第5号横穴出土土器について

土器類は158点出土しており、このうち須恵器が144点、土師器が14点である。玄室からは須恵器が34点出土している。

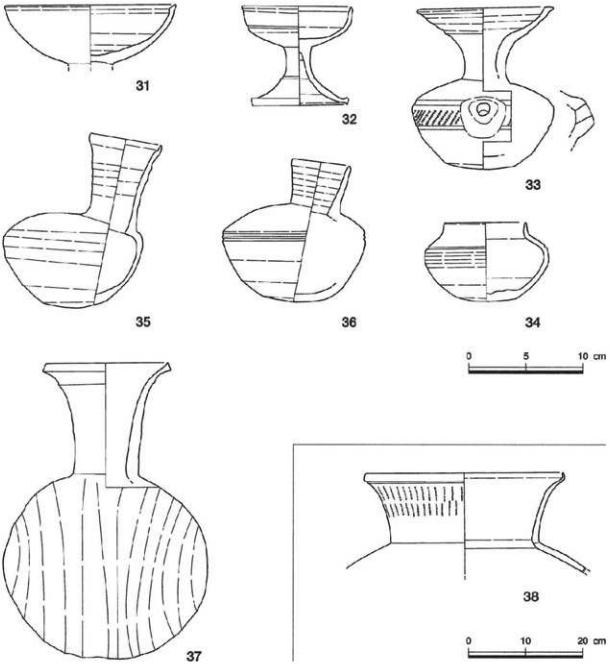
須恵器は坏蓋が23点（内12点は前庭部から出土）、坏身が18点（内6点は前庭部から出土）、蓋が1点、高坏が2点（内1点は前庭部から出土）、　甕　が1点、坩が1点、平瓶が2点、横瓶が1点、体部片が2点、前庭部から須恵器の大甕が1点、大甕片が60点、口縁部片が21点、体部片が8点、底部片が2点出土している。土師器は前庭部から口縁部片が3点、体部片が8点、底部片が3点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋16点、坏身13点、蓋1点、高坏2点、　甕　1点、坩1点、平瓶2点、横瓶1点、大甕1点の38点を図示した。**第35図1～16**は坏蓋で、**1**は天井部の中央が僅かに窪み、口縁部の内面に一条の沈線を施している。**2**は天井部が平らで、口縁部の内面に一条の沈線を施している。**3**は天井部が弓張り状を呈している。**5・7・8・9**は天井部が丸く、**5**と**7**は口縁部との境に一条の沈線を施している。**6・10・11**は天井部が平らで、**6**は二本の稜線を廻らしている。**8～11**は口径が9.50～9.80cmと小さい。**12～16**は頂点に扁平な擬宝珠状のつまみが付く。**16**の最大径が12.50cmと他（15.10～17.10cm）に比べて小さい。色調は**12**が明褐灰色を呈す以外は、灰～灰白色を呈し、胎土は密である。**17**は蓋で、弓張り状の天井部の頂点に扁平な擬宝珠状のつまみが付く。やや焼き歪みがある。色調は灰色を呈し、白色粒子を多く含む。**18～30**は坏身で、**18～28**は口縁部との間に受けを持ち、**18・19**は口径が10.00～10.10cmあるのに対し、**20～28**は口径が10.00cm以下である。**29・30**は貼り付け高台が付く。

第36図31・32は高坏である。**31**は高坏の坏部で、丸底から大きく開き、体部上半で内湾する。口縁部は肥厚し、内側を斜めに面取りしている。色調は黄灰白色を呈し、胎土は密で白色・黒色粒子を含む。**32**の坏部と脚部の高さの比は4：6で、坏部は丸底から内湾しながら立ち上がり、口縁端部は僅かに外反する。体部中位に一条の沈線を施す。脚部は「ハ」の字状に大きく開き、中位に一条の沈線を施している。色調は黄灰色を呈し、胎土に1mm以下の白色粒子を多く含んでいる。**33**は　甕　で、体部は球形を呈するが最大径は体部上半にあり、そこに1.10cmの孔が空けられている。孔の上位と下位に一条の沈線を施し、その間に櫛状施具による刺突紋が施されている。口径は体部の最大径より大きい。体部上半と口縁部内面に自然釉が掛かっている。色調は灰白色を呈し、胎土に1mmほどの炭化物および砂粒子を多く含む。**34**は坩で、丸底から大きく開きながら立ち上がり、体部上半に最大径を持ち、その上位に一条の沈線を施す。肩部の3／4に自然釉がかかり、釉の状況から有蓋坩と思われる。色調は灰白色を呈し、胎土に砂粒子、1mm以下の白色粒子、炭化物を含む。**35・36**は平瓶である。底部は丸底で、天井部と体部の稜線状に最大径を持つ。**35**の口縁部は長い。天井部に自然釉がかかる。**36**の稜線下位に二条の沈線を施している。色調は灰色と灰白色を呈し、胎土に砂粒子を含んでいる。**37**は横瓶で、球形の体部の横に、別作りの外反する口縁部を接合している。口縁部はラッパ状に開く有段口縁で、端部を尖らせている。色調は灰白色を呈し、胎土に砂粒

子を多く含んでいる。38は前庭部から出土した大甕の肩部～口縁部にかけての破片で、頸部は「く」の字状に屈曲し、直線的に開き、口縁端部は内側に屈曲している。外面に櫛状施具による刺突紋が2段施されている。色調は灰白色を呈し、胎土は密で白色粒子を僅かに含んでいる。



第35図　C調査区東支群第5号横穴出土土器実測図（1）
1～16　坏蓋、17　蓋、18～30　坏身



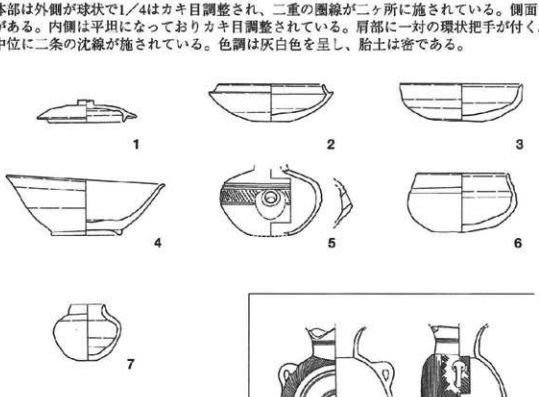
第36図　C調査区東支群第5号横穴出土土器実測図（2）
31・32　高坏、33　甕、34　坩、35・36　平瓶、37　横瓶、38　大甕

・東支群第6号横穴出土土器について

土器類は15点出土しており、このうち須恵器が9点、土師器が6点で玄室からの出土である。

須恵器は坏蓋が1点、坏身が3点、　甕　が1点、坩が1点、小型壺が1点、提瓶が1点、提瓶の環が1点出土している。土師器は体部片が6点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋1点、坏身3点、　甕　1点、坩1点、小型壺1点、提瓶1点の8点を図示した。**第37図1**は坏蓋で、頂点にボタン状のつまみが付き、かえりは内傾している。外面に縁釉がかかっている。色調は灰色を呈し、胎土に5mm以下の黒色粒子を多く含んでいる。**2～4**は坏身で、**2**は平底から大きく開きながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。色調は灰色を呈し、胎土は密で黒色粒子を多く含んでいる。**3**は平

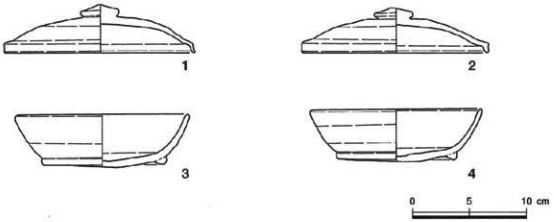
底から大きく開きながら立ち上がり、体部上半で内湾し、口縁部は僅かに外反する。色調は灰白色を呈し、胎土に5mm以下の黒色粒子を多く含んでいる。4は平底から僅かに内湾し、直線的に開いて口縁部は外反する。断面が台形の貼り付け高台が付く。全体に焼き歪みがある。色調は灰白色を呈し、胎土は密で白色粒子を含んでいる。5は　瓶　の体部片で、体部は球形を呈し、最大径は体部中位にあり、そこに1.10cmの孔が空けられている。孔の上位に二条の沈線、下位に一条の沈線を施し、その間に櫛状施具による刺突紋が施されている。色調は灰色を呈し、胎土は密で黒色粒子を含んでいる。6は坩で、丸底から内湾しながら立ち上がり、体部中位から直線的に内傾する。体部上半に不明瞭な太い沈線が一条施されている。色調は灰色を呈し、胎土に砂粒子を多く含んでいる。7は小型壺で、平底から内湾しながら立ち上がり、体部上位の最大径から内傾する。口縁端部を尖らせている。色調は浅黄橙色を呈し、胎土は密で白色粒子を多く含んでいる。8は提瓶で口縁部を欠損している。体部は外側が球状で1／4はカキ目調整され、二重の圏線が二ヶ所に施されている。側面は叩き目痕がある。内側は平坦になっておりカキ目調整されている。肩部に一対の環状把手が付く。口縁部の中位に二条の沈線が施されている。色調は灰白色を呈し、胎土は密である。



第37図　C調査区東支群第6号横穴出土土器実測図
1　坏蓋、2～4　坏身、5　瓶、6　坩、7　小型壺、8　提瓶

・東支群第7号横穴出土土器について

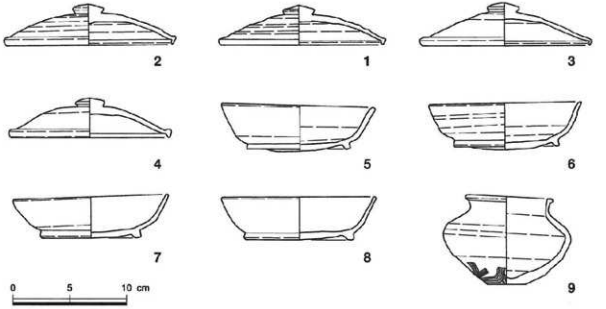
土器類は61点出土しており、このうち須恵器が10点、土師器が51点で、玄室からの出土である。須恵器は坏蓋が2点、坏身が2点、口縁部片が5点、蓋のつまみが1点出土している。土師器は口縁部片が12点、体部片が39点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋2点、坏身2点の4点を図示した。**第38図1・2**は坏蓋で、天井部と体部の境でなだらかな段をなし、口縁部は屈折して外反気味に直立する。内側のかえりは消失している。頂点に扁平な擬宝珠状のつまみが付く。色調は灰白色および白灰色を呈し、胎土はやや密である。**3・4**は坏身で、丸底から内湾して大きく開く。底部は高台より出ている。断面が台形の貼り付け高台が付く。**3**の色調は黒色、**4**の色調は灰白色を呈し、胎土は密で黒色粒子を僅かに含む。



第38図　C調査区東支群第7号横穴出土土器実測図
1・2　坏蓋、3・4　坏身

・西支群第1号横穴出土土器について

遺物は玄室から須恵器が9点出土している。坏蓋が4点、坏身が4点、小型短頸壺が1点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋4点、坏身4点、小型短頸壺1点の9点を図示した。**第39図1～4**は坏蓋で、天井部と体部の境でなだらかな段をなし、口縁部は屈折して外反気味に直立する。内側のかえりは消失している。頂点に扁平な擬宝珠状のつまみが付く。色調は灰白色および灰色を呈し、胎土は**1**と**2**に炭化物を含み、**3**と**4**に砂粒子を含んでいる。**5～8**は坏身で、**5**と**6**は丸底から内湾して大きく開き、底部は高台より出ている。断面が方形の貼り付け高台が付く。**7**と**8**は断面が台形の貼り付け高台が付く。色調は灰白色を呈し、胎土は炭化物を含んでいる。**9**は小型で無蓋の短頸壺で、平底から大きく開きながら立ち上がり、体部中位から直線的に内傾する。頸部は直立し、口縁端部は外側に肥厚している。色調は灰色を呈し、胎土は極細砂粒子・黒色粒子を含んでいる。



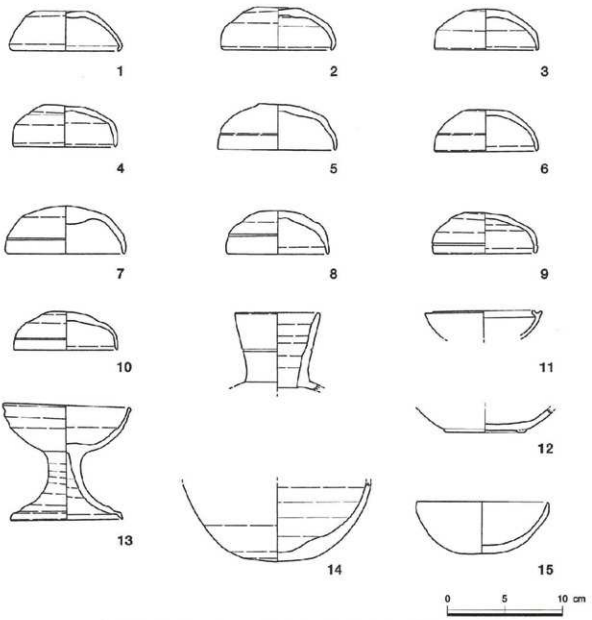
第39図　C調査区西支群第1号横穴出土土器実測図
1～4　坏蓋、5～8　坏身、9　小型短頸壺

・西支群第2号横穴出土土器について

遺物は32点が出土している。土器類は27点出土しており、このうち須恵器が25点、土師器が2点で、玄室からは須恵器が14点と土師器が2点出土している。

須恵器は坏蓋が10点、坏身が2点（内1点は前庭部から出土）、高坏が1点、口縁部片が1点、底部片が1点、前庭部から壺が1点、口縁部片が4点、体部片が5点出土している。土師器は坏身が1点、体

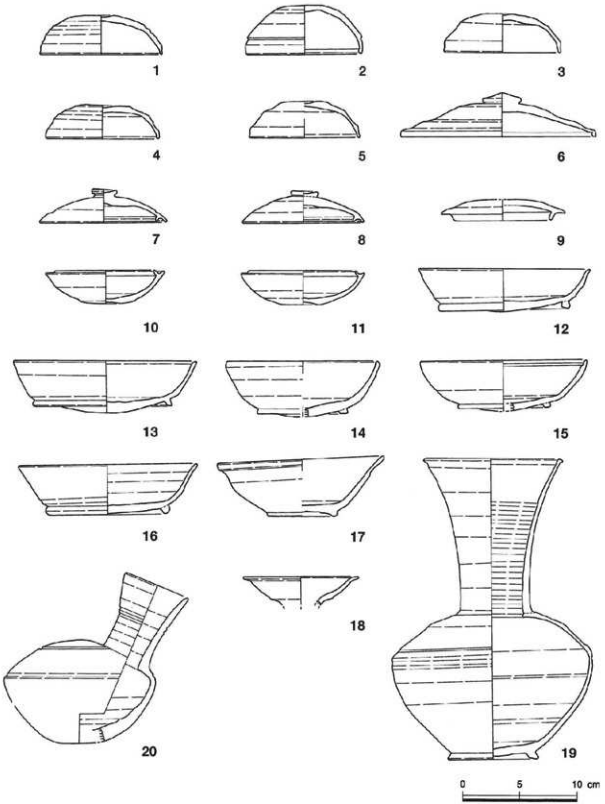
部片が1点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋10点、坏身2点、高坏1点、壺1点、土師器の坏身1点の15点を図示した。**第40図1〜10**は坏蓋で、**1と2**は天井部が僅かに窪み、**3・4・7〜10**は丸味を持ち、**5と6**は平らでやや丸味を持っている。いずれも口径が10cm以下と小さい。**7〜10**は口縁部との境に一条の沈線を施している。色調は灰色〜灰白色を呈し、胎土は**1**が白色粒子を多く含み、**2・4・5**は砂粒子を含み、**6・7・9・10**は黒色粒子を含む。**11・12**は坏身の破片で、**11**は体部上半から口縁部にかけての破片で、体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。推定口径は8.60cmと小さい。色調は灰色を呈し、胎土は密で黒色粒子を僅かに含む。**12**は底部の破片で、平底から直線的に開く。断面が台形の低い貼り付け高台が付く。底部に回転糸切り痕が残る。色調は灰白色を呈し、胎土は密で白色粒子を僅かに含む。**13**は高坏で、坏部と脚部の高さの比は4：6で、坏部は丸底から内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸く収めている。脚部は「ハ」の字状に大きく開く。色調は灰色を呈し、胎土に砂粒子を多く含んでいる。**14**は壺で、体部上半を欠いている。丸底から内湾しながら立ち上がる。頸部は直線的に開き、中位に一条の沈線を施している。色調は鈍い黄橙色を呈し、胎土は密で黒色粒子を含んでいる。**15**は土師器の坏身で、丸底から内湾しながら立ち上がり、口縁端部は尖らせている。色調は明褐灰色を呈し、胎土は密である。



第40図　C調査区西支群第2号横穴出土土器実測図
1〜10　坏蓋、**11・12**　坏身、**13**　高坏、**14**　壺、**15**　土師器の坏身

・西支群第3号横穴出土土器について

土器類は349点出土しており、このうち須恵器が204点、土師器が144点、陶器が1点である。ほとんどが玄室からの出土で、須恵器2点が前庭部からの出土である。



第41図　C調査区西支群第3号横穴出土土器実測図

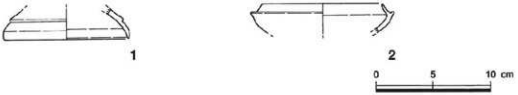
1～9　坏蓋、10～17　坏身、18　甑、19　長頸壺、20　平瓶

須恵器は坏蓋が15点（内1点は前庭部から出土）、坏身が8点、　鼈　が1点、長頸壺が1点、平瓶が1点、口縁部片が74点、体部片が96点、底部片が6点、つまみが1点、前庭部から底部片が1点出土している。土師器は口縁部片が10点、体部片が133点、底部片が1点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋9点、坏身8点、　鼈　1点、長頸壺1点、平瓶1点の20点を図示した。**第41図1～9**は坏蓋で、**1**と**3～5**は天井部中央が僅かに窪み、**2**はやや平らで口縁部との境に一条の沈線を施している。**6～8**は頂点に扁平な擬宝珠状のつまみが付く。**6**は口径が大きく、口縁部は屈折し、かえりは無い。**9**のかえりは**7・8**に比べ長い。色調は灰色をていし、胎土は密である。**10～17**は坏身で、**10**と**11**は口縁部と間に受けを持つ小型の坏身である。**12～17**は貼り付け高台を持つ坏身で、**12～15**は底部が高台より出ている。**17**は平底から内湾して大きく開き、口縁部の器壁が薄くなる。**18**は　鼈　の口縁部片で、頸部から大きく開き段を持ち、僅かに内湾しながらさらに大きく開き、口縁端部は外反する。内面全体に緑釉がかかっている。色調は黄灰色を呈し、胎土は密で黒色粒子を僅かに含む。**19**は長頸壺で、体部の約2／3上に稜線を有し、そこが最大径となる。稜のすぐ上に一条の沈線を施している。断面が菱形の高台が付く。口縁部は体部の高さより少し高く、接合部から外反しながら立ち上がり、直線的に開く。端部は外側に肥厚する。色調は黄灰色を呈し、胎土に5mm以下の白色砂粒子を多く含む。**20**は平瓶で、底部を欠いている。体部の最大径は天井部と体部の稜線上にあり、稜線の上位と天井部にそれぞれ一条の沈線を施している。口縁部は体部中心より約4.6cmはずれて斜めに取り付けている。接合部より直線的に開き、端部を丸く収めている。中位に二条の沈線を施している。色調は褐灰色を呈し、胎土は密で黒色粒子を僅かに含む。

・西支群第4号横穴出土土器について

土器類は6点出土しており、須恵器が3点、土師器が3点である。

須恵器は坏蓋が1点、前庭部から坏身が1点、口縁部片が1点出土している。土師器は前庭部から体部片が3点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋1点、坏身1点の2点を図示した。**第42図1**は坏蓋の口縁部片で、体部は内湾しながら下がり、口縁部との境に段を有する。色調は灰白色を呈し、胎土は密である。**2**は坏身の体部上半から口縁部にかけての破片で、体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。受けはやや外反する。色調は灰色を呈し、胎土は密である。



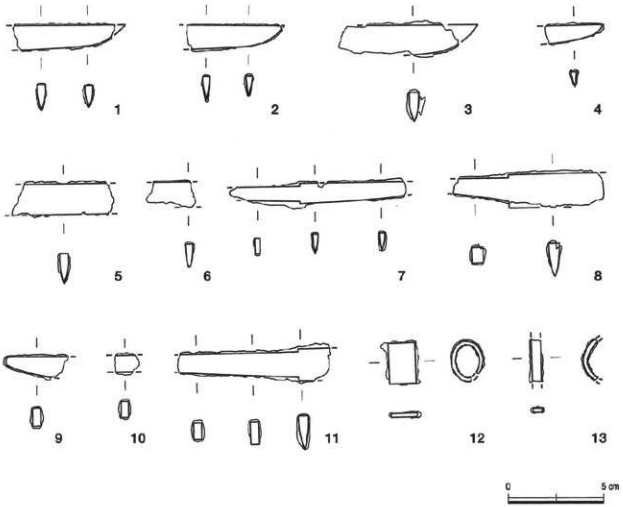
第42図　C調査区西支群第4号横穴出土土器実測図
1　坏蓋、**2**　坏身

・金属製品について

・A調査区第1号横穴出土の金属製品について

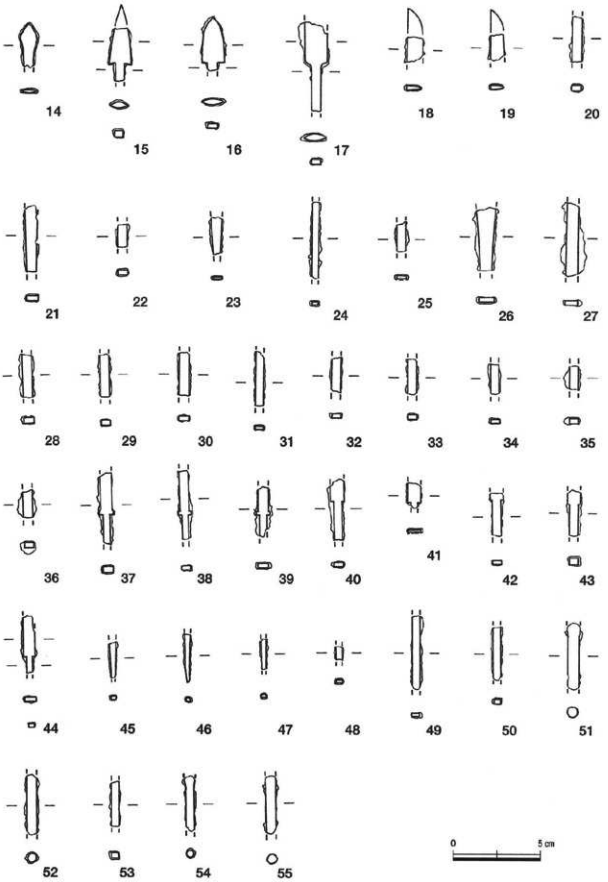
鉄器類は55点出土しており、このうち刀子が11点、刀装具が2点、鉄鏃片が42点出土している。刀子は切先片が4点、刀身片が2点、刀身から茎にかけての破片が3点、茎片が2点である。**第43図1～4**は平棟平造の刀子の切先片で、**1**は残存長5.35cm、残存幅1.30cm、重ね0.45cmある。**2**は残存長5.00cm、残存幅1.30cm、重ね0.35cmある。**3**は残存長6.30cm、残存幅1.60cm、重ね0.50cmある。**4**は残存長3.00cm、残存幅0.95cm、重ね0.35cmある。**5～8**は刀子の刀身片および刀身～茎片で、**5**は平棟平造の刀身片で残存長5.30cm、残存幅1.60cm、重ね0.50cmある。**6**は平棟平造の刀身片で残存長2.50cm、幅1.30cm、重ね0.40cmある。**7**は平棟平造両関の刀身～茎片で、残存長9.30cmあり、刀身の残存長5.50cm、残存幅1.05cm、重ね0.35cm、茎の残存長3.70cm、幅0.80cm、重ね0.30cmある。**8**は平棟平造両関の刀身～茎片で、残存長7.95cmあり、刀身の残存長5.00cm、幅1.80cm、重ね0.60cm、茎の残存長2.95cm、幅1.25cm、重ね0.60cmある。**9～11**は茎片で、**9**は舟形翌尻の茎片で、残存長3.30cm、幅1.10cm、重ね0.45cmある。**10**は残存長1.20cm、幅0.85cm、重ね0.40cmある。**11**は平棟平造両関の茎片で、残存長7.95cmあり、刀身の残存長1.70cm、幅1.70cm、重ね0.50cm、茎の残存長6.25cm、幅1.30cm、重ね0.45cmある。

刀装具は鐔が1点、責金具が1点である。**12**は鎺で、長径2.15cm、短径1.65cm、幅1.4cm、重ね0.25cmある。**13**は責金具片で、幅0.50cm、重ね0.25cmある。



第43図　A調査区横穴出土鉄製品実測図（1）
1～11　刀子、**12**　鉈、**13**　責金具

鉄鏃は鏃身が6点、箆被部が16点、箆被関部が8点、茎が11点である。**第44図14～19**は鏃身で、**14～16**は両丸造三角形式と思われる鉄鏃で、**14**は残存長2.35cmあり、鏃身部の長さは1.50cm、幅は0.90cm、柄部の残存長0.85cm、幅0.50cmある。**15**は残存長2.80cmあり、鏃身部の残存長1.90cm、幅は1.20cm、柄部の残存長0.90cm、幅0.50cmある。**16**は残存長2.75cmあり、鏃身部の長さは2.30cm、幅は1.20cm、柄部の残存長0.45cm、幅0.50cmある。**17**は両丸造鏃箭式の鉄鏃で、残存長4.70cmあり、鏃身部の残存長2.30cm、幅は1.20cm、柄部の残存長2.40cm、幅0.50cmある。**18・19**は片関片刃式と思われる鉄鏃で、**18**は鏃身部の残存長1.30cm、幅は0.80cmある。**19**は鏃身部の残存長1.30cm、幅は0.75cmある。**20～36**は箆被部片で、残存長1.20～3.30cm、柄部幅0.40～1.00cmある。**37～44**は箆被関部片で、**37～39**が棘箆被、**40～44**が角箆被である。**45～55**は茎片で、残存長1.20～4.10cmある。**51・52・54・55**は断面が円形である。



第44図　A調査区横穴出土鉄製品実測図（2）

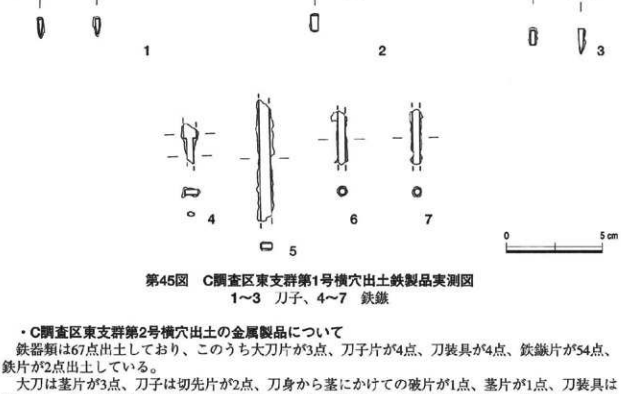
14～19　鉄鏃の鏃身、**20～36**　鉄鏃の箆被部片、**37～44**　鉄鏃の箆被関部片、**45～55**　鉄鏃の茎片

・C調査区東支群第1号横穴出土の金属製品について

鉄器類は7点出土しており、このうち刀子片が3点、鉄鏃片が4点出土している。

刀子は切先片が1点、刀身から茎にかけての破片が2点である。**第45図1**は平棟平造の刀子の切先片で、残存長5.15cm、残存幅0.95cm、重ね0.30cmある。**2・3**は平棟平造両関の刀身～茎片で、**2**は残存長8.40cmあり、刀身の残存長2.20cm、幅1.20cm、茎の残存長6.20cm、幅1.00cm、重ね0.40cmある。**3**は残存長6.50cmあり、刀身の残存長1.20cm、幅1.35cm、重ね0.35cm、茎の残存長5.30cm、幅1.00cm、重ね0.40cmある。

鉄鏃は篦被部が1点、篦被関部が1点、茎が2点である。**第45図4**は篦被部片で、残存長6.45cm、柄部幅0.55cmある。**5**は角篦被で、残存長2.10cm、柄部幅0.70cmある。**6・7**は茎片で、**6**の残存長2.80cm、**7**の残存長2.90cmある。2点とも断面は円形である。



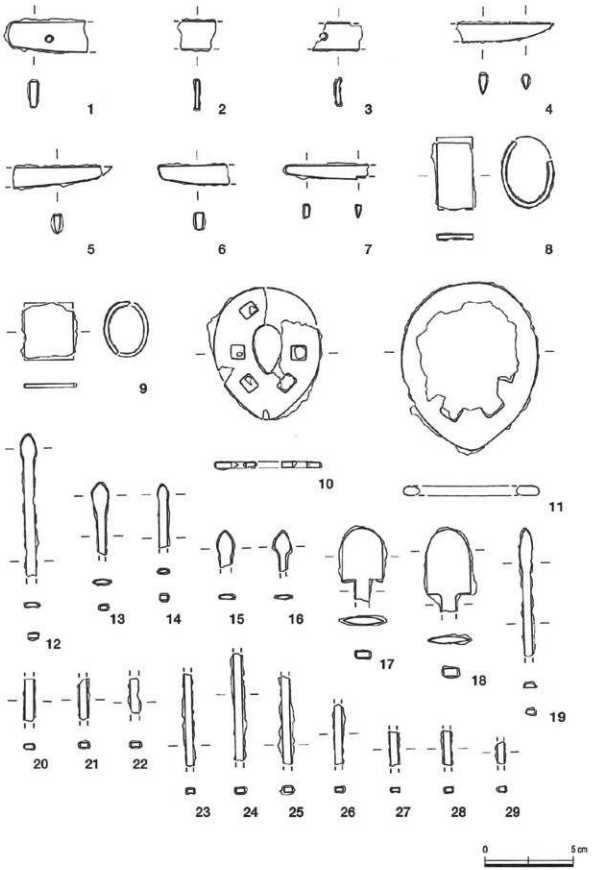
第45図　C調査区東支群第1号横穴出土鉄製品実測図
1～3　刀子、4～7　鉄鏃

・C調査区東支群第2号横穴出土の金属製品について

鉄器類は67点出土しており、このうち大刀片が3点、刀子片が4点、刀装具が4点、鉄鏃片が54点、鉄片が2点出土している。

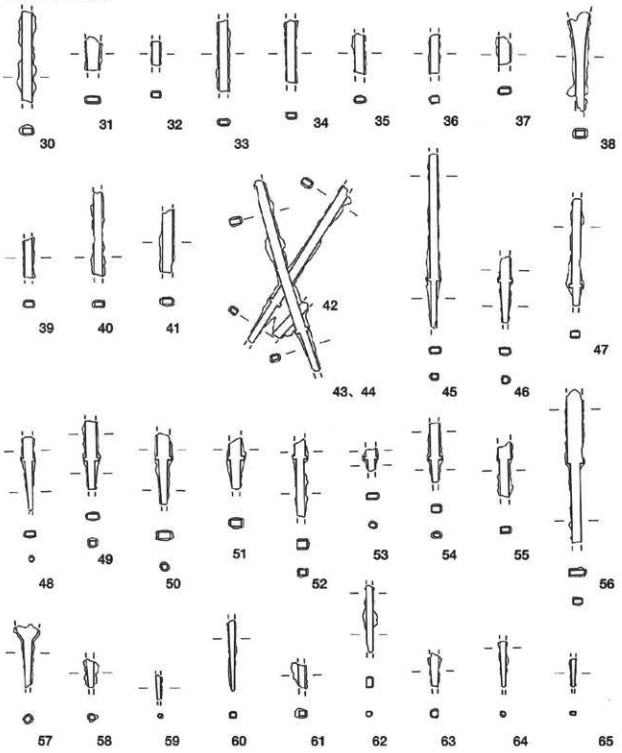
大刀は茎片が3点、刀子は切先片が2点、刀身から茎にかけての破片が1点、茎片が1点、刀装具は鎺が2点、倒卵形鍔が2点である。**第46図1～3**は大刀の茎片で、**1**は残存長4.55cm、幅1.70cm、重ね0.45cmあり、径0.35cmの目釘孔がある。**2**は残存長2.20cm、幅1.60cm、重ね0.20cmあるが、重ねが薄い。**3**は残存長2.80cm、幅1.50cm、重ね0.30cmあり、径0.40cmの目釘孔がある。**4・5**は平棟平造の刀子の切先片で、**4**は残存長5.60cm、幅1.05cm、重ね0.40cmある。**5**は残存長5.10cm、幅1.15cm、重ね0.40cmある。**6・7**は刀子の茎片で、**6**は残存長4.00cm、幅1.20cm、重ね0.45cmある。**7**は残存長4.75cmあり、刀身の残存長0.60cm、幅0.65cm、重ね0.30cm、茎の残存長4.15cm、幅0.75cm、重ね0.25cmある。**8・9**は鎺で、**8**は推定長径4.20cm、短径3.00cm、幅2.00cm、重ね0.25cmある。**9**は推定長径3.20cm、推定短径2.60cm、幅2.80cm、重ね0.20cmある。**10・11**は倒卵形鍔で、**10**は長径7.60cm、短径6.10cm、厚さ0.35cmあり、梯形の透かしを6個車軸状に配している。**11**は長径9.70cm、短径7.85cm、厚さ0.60cmあり、梯形の透かしを6個車軸状に配していると思われる。

鉄鏃は鏃身が8点、篦被部が23点、篦被関部が11点、篦被から茎が3点、茎が9点である。**12～19**は鏃身で、**12～16**は両丸造三角形式と思われる鉄鏃で、**12**は残存長8.20cmあり、鏃身部の長さは1.40cm、幅は0.85cm、柄部の残存長6.80cm、幅0.60cmある。**13**は残存長4.20cmあり、鏃身部の長さは1.80cm、幅は0.90cm、柄部の残存長2.40cm、幅0.45cmある。**14**は残存長3.60cmあり、鏃身部の長さ0.90cm、幅は0.60cm、柄部の残存長2.70cm、幅0.45cmある。**15**は残存長2.00cmあり、鏃身部の長さは1.40cm、幅は0.90cm、柄部の残存長0.60cm、幅0.60cmある。



第46図　C調査区東支群第2号横穴出土鉄製品実測図（1）
1～3　大刀、4～7　刀子、8・9　鋸、10・11　倒卵形鍔、12～29　鉄鏃

16は残存長2.25cmあり、鏃身部の長さは1.30cm、幅は0.90cm、柄部の残存長0.95cm、幅0.35cmある。**17・18**は広鋒平造三角形式の鉄鏃で、**17**は残存長4.30cmあり、鏃身部の長さは3.00cm、幅は2.35cm、柄部の残存長1.30cm、幅0.80cmある。**18**は残存長4.70cmあり、鏃身部の長さは3.80cm、幅は2.55cm、柄部の残存長0.90cm、幅0.85cmある。**19**は片丸造鏃箭式の鉄鏃で、残存長4.70cmあり、鏃身部の残存長2.30cm、幅は1.20cm、柄部の残存長2.40cm、幅0.50cmある。**20～29**と**第47図30～42**は箙被部片で、残存長1.25～6.20cm、柄部幅0.40～0.75cmある。**43～56**は箙被関部片で、**43～54**が練箙被、**55・56**が角箙被である。**57～65**は茎片で、残存長1.25～3.70cmある。**58・59・63・64**は断面が円形である。



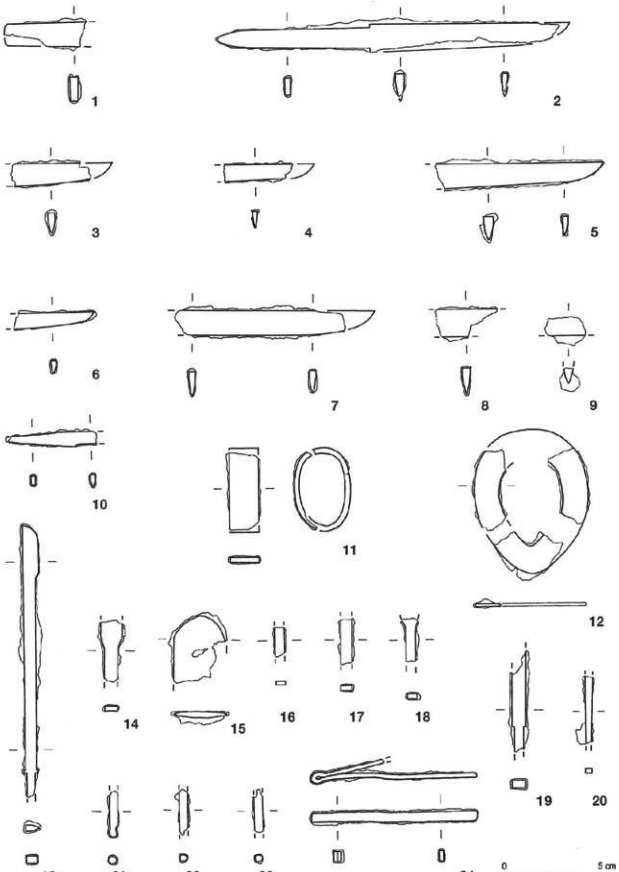
第47図　C調査区東支群第2号横穴出土鉄製品実測図（2）
30～65　鉄鏃

・C調査区東支群第3号横穴出土の金属製品について

鉄器類は27点出土しており、このうち大刀片が1点、刀子片が9点、刀装具が5点、鉄鏃片が11点、鉄製金具が1点出土している。

大刀は茎片が1点、刀子は1点、刀子の切先片が5点、刀身が2点、刀身から茎にかけての破片が1点、刀装具は鎺片が2点（同一個体）、鍔片が3点（同一個体）である。**第48図1**は大刀の茎片で、残存長4.20cm、幅1.30cm、重ね0.45cmある。**2**は平棟平造両関の刀子で、切先と刃部を欠いている。残存長17.90cmあり、刀身の残存長10.00cm、幅1.50cm、重ね0.50cm、茎の長さ7.90cm、幅1.10cm、重ね0.35cmある。**3～7**は平棟平造の刀子の切先片で、**3**は残存長4.10cm、幅1.20cm、重ね0.40cmある。**4**は残存長3.60cm、幅0.90cm、重ね0.25cmある。**5**は残存長8.80cm、幅1.30cm、重ね0.50cmある。**6**は残存長4.20cm、幅0.75cm、重ね0.30cmある。**7**は残存長10.05cm、幅1.35cm、重ね0.35cmある。**8・9**は刀子の刀身片で、**8**は平棟平造、残存長3.30cm、幅1.50cm、重ね0.40cmある。**9**は残存長2.15cm、残存幅1.00cm、残存する重ね0.50cmある。**10**は刀子の茎片で、残存長4.70cmあり、刀身の残存長1.15cm、幅0.65cm、重ね0.25cm、茎の残存長3.55cm、幅0.80cm、重ね0.25cmある。**11**は鉈で、推定長径4.30cm、推定短径2.80cm、幅2.50cm、重ね1.55cmある。**12**は倒卵形板鍔で、推定長径6.60cm、推定短径6.10cm、厚さ0.20cmあり、透かしは無い。

鉄鏃は鏃身が3点、箆被部が3点、箆被関部が1点、茎が4点である。**13～15**は鏃身で、**13**は棘箆被片関片刃式の鉄鏃で、残存長14.40cmあり、鏃身部の長さは2.80cm、幅は0.85cm、柄部の残存長11.60cm、幅0.60cmある。**14**は鑿箭式と思われる鉄鏃で、残存長3.30cmあり、鏃身部の残存長は1.50cm、幅は1.10cm、柄部の残存長2.20cm、幅0.70cmある。**15**は広鋒平造三角形式の鉄鏃で、鏃身部の残存長は3.50cm、残存幅は2.75cmある。**16～18**は箆被部片で、残存長1.60～2.40cm、柄部幅0.50～0.60cmある。**19**は角箆被で、残存長5.15cm、柄部幅0.70cmある。**20～23**は茎片で、残存長2.30～3.60cmある。**21～23**は断面が円形である。**24**の鉄製金具は、ピンセット状に折り曲げたもので、長さ8.85cm、幅0.50cm、厚さ0.20cmある。



第48図　C調査区東支群第3号横穴出土鉄製品実測図

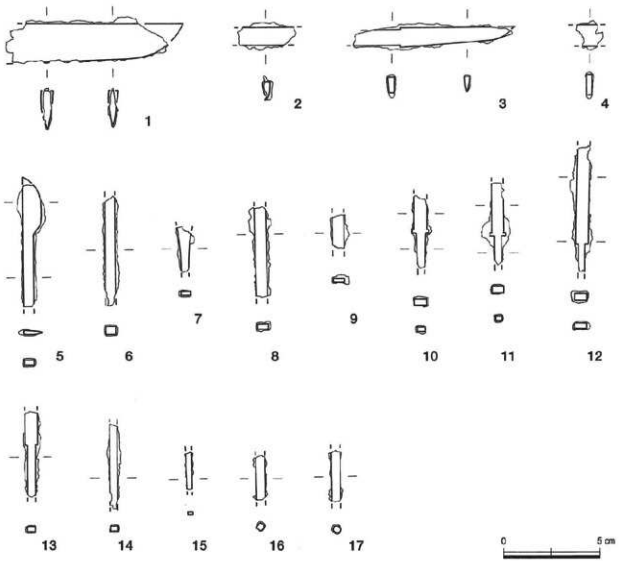
1　大刀、2～10　刀子、11　鉏、12　鍔、13～23　鉄鏃、24　鉄製金具

・C調査区東支群第5号横穴出土の金属製品について

鉄器類は17点出土しており、このうち大刀片が1点、刀子片が3点、鉄鏃片が13点である。

大刀は切先片が1点、刀子は刀身が1点、刀身から茎にかけての破片が1点、茎が1点である。**第49図1**は平棟平造の大刀の切先片で、残存長8.45cm、幅2.10cm、重ね0.65cmある。**2**は平棟平造の刀子の刀身片で、残存長3.00cm、幅0.96cm、重ね0.35cmある。**3**は平棟平造両関の刀子の刀身から茎にかけての破片で、残存長8.40cmあり、刀身の残存長5.80cm、幅1.00cm、重ね0.30cm、茎の残存長2.60cm、幅0.85cm、重ね0.40cmある。**4**は刀子の茎片で、残存長1.40cm、幅1.15cm、重ね0.30cmある。

鉄鏃は鏃身が1点、篦被部が4点、篦被関部が4点、茎が4点である。**5**は片関片刃式の鏃身で、残存長6.50cmあり、鏃身部の残存長は2.65cm、幅は1.00cm、柄部の残存長3.85cm、幅0.55cmある。**6～9**は篦被部片で、残存長1.75～5.85cm、柄部幅0.55～0.65cmある。**10～13**は篦被関部片で、**10・11**が蘭篦被、**12・13**が角篦被である。**14～17**は茎片で、残存長1.95～4.50cmある。**17**は断面が円形である。

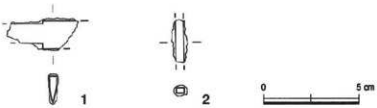


第49図　C調査区東支群第5号横穴出土鉄製品実測図
1　大刀、**2～4**　刀子、**5～17**　鉄鏃

・C調査区東支群第6号横穴出土の金属製品について

鉄器類は2点出土しており、このうち刀子の関部が1点、鉄鏃の茎片が1点である。

第50図1は平棟平造両関の刀子の関部で、残存長3.75cmあり、刀身の残存長1.90cm、幅1.50cm、重ね0.40cm、茎の残存長1.85cm、幅1.05cm、重ね0.40cmある。**2**は鉄鏃の茎片で、残存長2.30cm、幅0.45cmある。



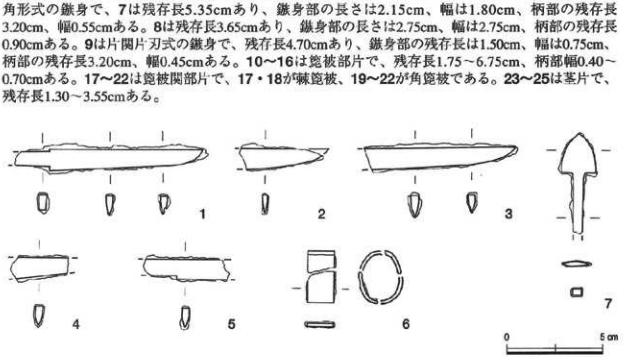
第50図　C調査区東支群第6号横穴出土鉄製品実測図
1　刀子、2　鉄鏃

・C調査区東支群第7号横穴出土の金属製品について

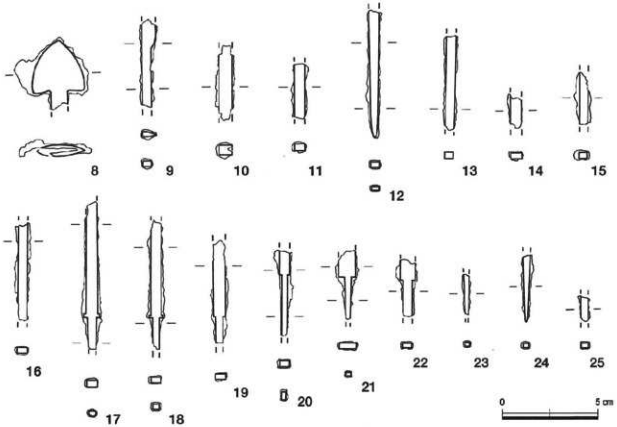
鉄器類は26点出土しており、このうち刀子片が5点、刀装具が2点、鉄鏃片が19点である。

刀子は切先片が3点、刀身が1点、刀身から茎にかけての破片が1点、刀装具は鎺が2点（同一個体）である。**第51図1**は平棟平造両関の刀子で、茎尻を欠いている。残存長10.00cmあり、刀身の長さ8.15cm、幅1.15cm、重ね0.40cm、茎の残存長1.85cm、幅0.80cm、重ね0.40cmある。**2・3**は平棟平造の刀子の切先片で、**2**は残存長4.30cm、幅1.15cm、重ね0.30cmある。**3**は残存長8.00cm、幅1.15cm、重ね0.45cmある。**4**は平棟平造の刀子の刀身片で、残存長3.00cm、幅1.15cm、重ね0.40cmある。**5**は平棟平造片関の刀子の関部片で、残存長4.50cmあり、刀身の残存長2.80cm、幅1.05cm、重ね0.35cm、茎の残存長1.70cm、幅0.85cm、重ね0.30cmある。**6**は鎺で、長径2.75cm、短径2.30cm、幅1.40cm、重ね0.20cmある。

鉄鏃は鏃身が3点、篦被部が7点、篦被関部が6点、茎が3点である。**7**と**第52図8**は篦被広鋒平造三角形式の鏃身で、**7**は残存長5.35cmあり、鏃身部の長さは2.15cm、幅は1.80cm、柄部の残存長3.20cm、幅0.55cmある。**8**は残存長3.65cmあり、鏃身部の長さは2.75cm、幅は2.75cm、柄部の残存長0.90cmある。**9**は片関片刃式の鏃身で、残存長4.70cmあり、鏃身部の残存長は1.50cm、幅は0.75cm、柄部の残存長3.20cm、幅0.45cmある。**10～16**は篦被部片で、残存長1.75～6.75cm、柄部幅0.40～0.70cmある。**17～22**は篦被関部片で、**17・18**が鏑篦被、**19～22**が角篦被である。**23～25**は茎片で、残存長1.30～3.55cmある。



第51図　C調査区東支群第7号横穴出土鉄製品実測図（1）
1～5　刀子、6　鎺、7　鉄鏃



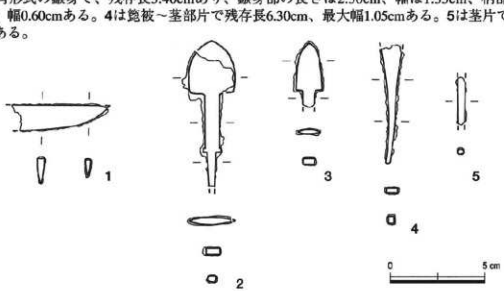
第52図　C調査区東支群第7号横穴出土鉄製品実測図（2）
8～25　鉄鏃

・C調査区西支群第2号横穴出土の金属製品について

鉄器類は5点出土しており、このうち刀子片が1点、鉄鏃片が4点である。

刀子は切先片が1点である。**第53図1**は平棟平造の刀子の切先片で、残存長5.10cm、幅1.35cm、重ね0.40cmある。

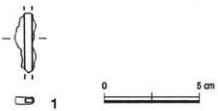
鉄鏃は鏃身が2点、篦被～茎部が1点、茎が1点である。**2**は棘篦被広鋒平造三角形式の鏃身で、残存長7.75cmあり、鏃身部の長さは2.90cm、幅は2.45cm、柄部の残存長4.85cm、幅0.75cmある。**3**は両丸造三角形式の鏃身で、残存長3.40cmあり、鏃身部の長さは2.50cm、幅は1.35cm、柄部の残存長0.90cm、幅0.60cmある。**4**は篦被～茎部片で残存長6.30cm、最大幅1.05cmある。**5**は茎片で、残存長2.50cmある。



第53図　C調査区西支群第2号横穴出土鉄製品実測図
1　刀子、2～5　鉄鏃

・**C調査区西支群第3号横穴出土の金属製品について**

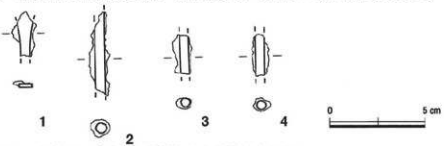
鉄器類は鉄鏃の茎片が1点出土しているのみで、**第54図1**の残存長3.15cm、幅0.40cmある。



第54図　C調査区西支群第3号横穴出土鉄製品実測図
1　鉄鏃

・**C調査区西支群第4号横穴出土の金属製品について**

鉄器類は鉄鏃片が4点出土しており、�被部が1点、茎が3点である。**第55図1**は�被部片で、残存長2.40cm、幅0.70cmある。**2～4**は茎片で、残存長2.05～4.45cmあり、断面はいずれも円形である。

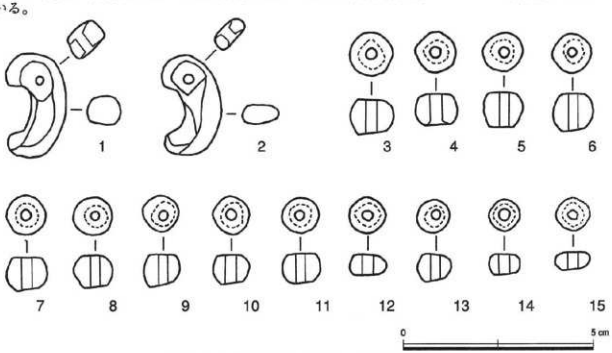


第55図　C調査区西支群第4号横穴出土鉄製品実測図
1～4　鉄鏃

・玉類について

・**A調査区第1号横穴出土の玉類について**

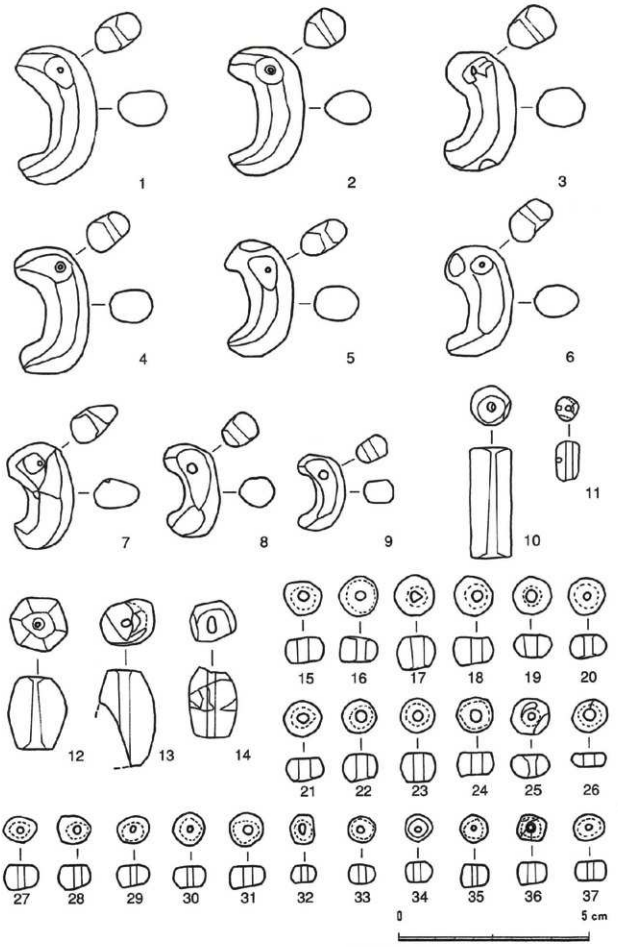
玉類は15点出土しており、勾玉が2点、丸玉が13点である。**第56図1・2**は勾玉で、**1**は外径が0.74～0.88cm、長さ2.75cm、孔径0.25cmある。**2**は外径が0.53～0.91cm、長さ2.64cm、孔径0.25cmある。**3～15**は丸玉で、外径が0.89～1.16cm、厚さ0.57～0.98cmあり、断面形はほとんどが楕円形を呈している。



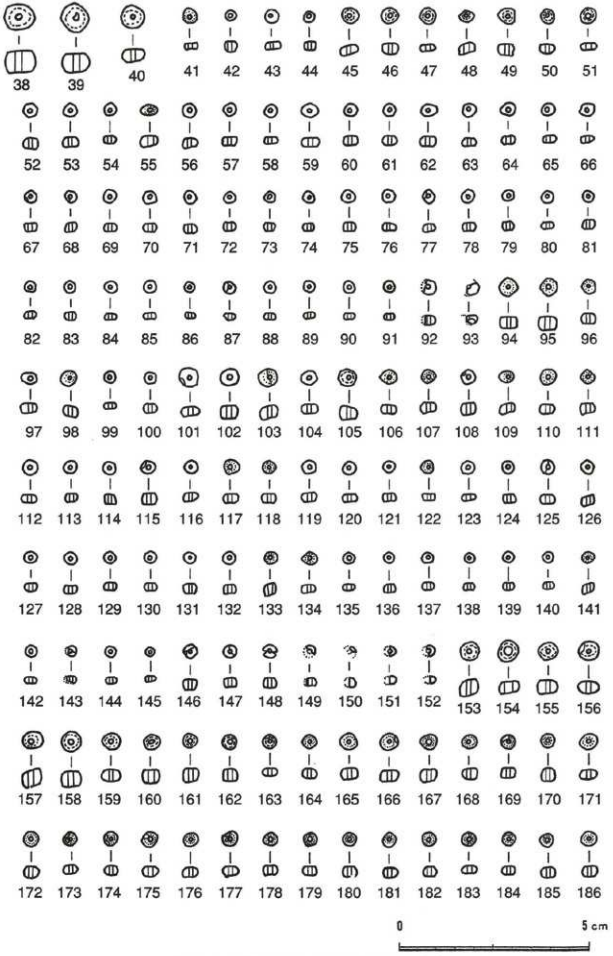
第56図　明僧横穴群　出土玉類実測図（1）
1・2　勾玉、3～15　丸玉

・C調査区東支群第2号横穴出土の玉類について

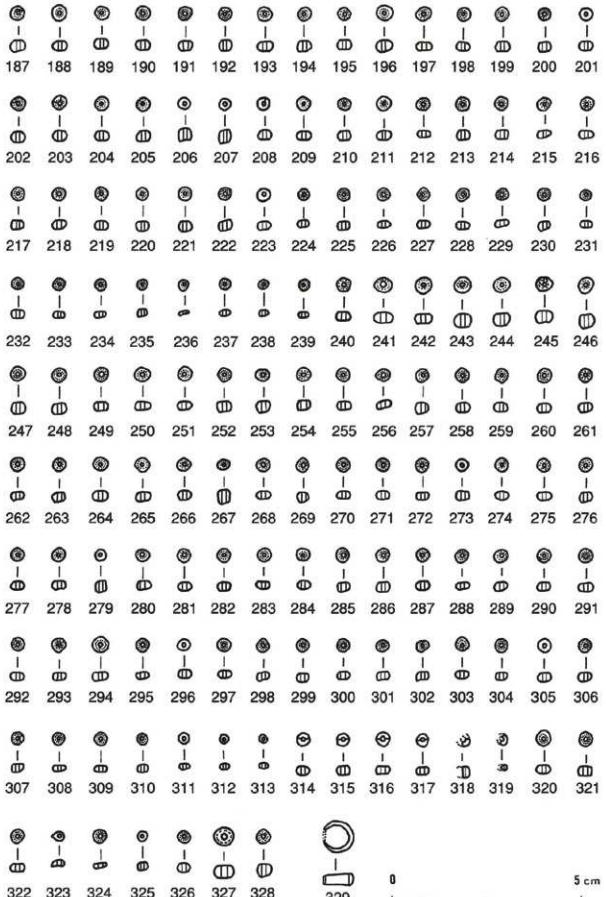
玉類は345点出土しており、勾玉が9点、管玉が2点、切子玉が1点、棗玉が17点、丸玉が26点、小玉が289点、ガラス玉1点である。**第57図1～9**は勾玉で、**1**は外径が0.96～1.28cm、長さ3.69cm、孔径0.22cmある。**2**は外径が0.94cm、長さ3.49cm、孔径0.25cmある。**3**は外径が1.01cm、長さ3.16cm、孔径0.19cmある。**4**は外径が0.83cm、長さ3.75cm、孔径0.25cmある。**5**は外径が0.91～1.16cm、長さ3.14cm、孔径0.22cmある。**6**は外径が0.80cm、長さ2.95cm、孔径0.26cmある。**7**は外径が0.74～1.20cm、長さ2.78cm、孔径0.27cmある。**8**は外径が0.80cm、長さ2.53cm、孔径0.25cmある。**9**は外径が0.63cm、長さ2.02cm、孔径0.22cmある。**10・11**は管玉で、**10**は外径が1.10cm、長さ2.94cm、孔径0.12～0.27cmあり、断面は円形である。**11**は外径が0.56～0.59cm、長さ1.03cm、孔径0.16～0.20cmあり、断面は楕円形である。**12**は切子玉で、外径が1.52cm、長さ1.97cm、孔径0.15～0.32cmあり、断面は六角形である。**13・14**は棗玉で、**13**は外径が0.90～1.42cm、長さ2.50cm、孔径0.24～0.30cmあり、断面は円形である。**14**は外径が0.98～1.27cm、長さ1.90cm、孔径0.22～0.43cmあり、断面は楕円形である。**15～37**と**第58図38～40**は丸玉で、外径が0.60～1.03cm、厚さ0.34～0.89cmあり、断面形はほとんどが楕円形を呈している。**41～186**と**第59図187～328**は小玉で、外径が0.24～0.49cm、厚さ0.13～0.42cm、孔径0.06～0.22cmあり、断面形はほとんどが楕円形を呈している。329はガラス玉で、外径が0.78cm、厚さ0.29cm、孔径0.60cmあり、断面形は楕円形を呈している。



第57図　明僧横穴群　出土玉類実測図（2）
1～9　勾玉、**10・11**　管玉、**12**　切子玉、**13・14**　棗玉、**15～37**　丸玉



第58図　明僧横穴群　出土玉類実測図（3）
38～40　丸玉、41～186　小玉



第59図　明僧横穴群　出土玉類実測図（4）
187～328　小玉、**329**　ガラス玉

明僧横穴群A調査区1号横穴出土土器観察表

図版番号	遺構名 遺物番号	種別・器種	法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第29図 1	1号横穴 47	須恵器 坏蓋	かえり口径 10.10 器高 3.30 最大径 12.00 つまみ高 0.75 つまみ径 2.60	天井部から緩やかに開きながら下がる。かえりは小さく、内傾している。頂点に扁平な擬宝珠状のつまみがつく	外面：天井部から体部上半はヘラ削りの後、ナデ。体部下半～口縁部はナデ。緑釉がかかる 内面：全体ナデ	良好	灰白5Y7/1	密	完形
第29図 2	1号横穴 48	須恵器 坏蓋	かえり口径 10.30 器高 3.00 最大径 12.40 つまみ高 0.70 つまみ径 2.55	天井部から緩やかに開きながら下がる。かえりは小さく、内傾している。頂点に扁平な擬宝珠状のつまみがつく	外面：天井部はヘラ削りの後、ナデ。体部～口縁部はナデ。緑釉がかかる 内面：全体ナデ	良好	灰白5Y7/1	密	完形
第29図 3	1号横穴 13	須恵器 坏身	口径 (11.20) 器高 4.25 最大径 (11.50)	丸底から内湾し、直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸く収めている	外面：底部はヘラ削りの後、ナデ。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ。口縁部に一条の沈線を施す	良好	灰N5	密。黒色粒子を僅かに含む	口縁部2/3欠損、体部2/3欠損 19、46、3区と接合
第29図 4	1号横穴 27①2	須恵器 坏身	口径 11.20 器高 4.30 最大径 11.60	丸底から内湾し、直線的に開きながら立ち上がる	外面：ナデ 内面：ナデ。口縁部に一条の沈線を施す	良好	灰N5	密。白色粒子を含む	完形
第29図 5	1号横穴 27②2	須恵器 坏身	口径 11.10 器高 4.30 最大径 11.70	丸底から内湾し、直線的に開きながら立ち上がる	外面：ナデ 内面：ナデ	良好	灰N5	密。黒色粒子を含む	完形
第29図 6	1号横穴 3区①	須恵器 坏身	口径 (10.30) 器高 (4.20) 最大径 (12.20)	丸底から内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受け皿を持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削りの後、ナデ。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N5	密。白色粒子を含む	1/4残存
第29図 7	1号横穴 3区①	須恵器 坏身	口径 (10.40) 器高 3.00 最大径 (10.95) 底径 7.30	平底から内湾し、直線的に開く。口縁端部は丸く収めている	外面：底部に回転糸切り痕。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良	灰黄褐10YR6/2	密。雲母を少量含む	口縁部～底部1/5残存 45、4区と接合
第29図 8	1号横穴 4	須恵器 坏身	口径 (11.50) 器高 3.10 最大径 (11.90) 底径 (6.00)	平底から開きながら立ち上がる。口縁端部は丸く収めている。断面が三角形の貼り付け高台が付く	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	黄灰2.5Y6/1	密。黒色・白色粒子を少量含む。2mm大の砂粒子を含む	口縁部～体部1/4残存、底部1/2残存 5、10と接合
第29図 9	1号横穴 貯蔵部	須恵器 甕	口径 (9.10) 器高 — 最大径 —	頸部は外反気味に立ち上がり、大きく開く。中位で内湾するがさらに開き、口縁端部は外反する	外面：ナデ 内面：ナデ	良好	外面：灰N5 内面：浅黄N7	密	口縁部1/4残存
第29図 10	1号横穴 26	須恵器 甕	口径 (22.80) 器高 (5.50) 最大径 (23.70) 底径 —	体部は直線的に立ち上がり、頸部はやや内傾して「く」の字状に屈曲し、口縁端部は丸く収めている	外面：体部～口縁部はナデ。ノケ目が見られる 内面：ナデ	良	灰N6	粗。0.5～2mm大の砂粒子を多く含む	口縁部1/3残存 37、43と接合

明僧横穴群C調査区東支群出土土器観察表

図版番号	遺構名 遺物番号	種別・器種	法量			形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第30図1	1号横穴2	須恵器 平底	口径	器高	最大径	11.15 3.35 11.45	天井部は弓張り状。体部と口縁部の間に稜を持つ。口縁部は僅かに内湾する	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	5YN6	胥	完形
第30図2	1号横穴5	須恵器 平底	口径	器高	最大径	11.65 4.50 12.00	天井部はほぼ平らで、体部は内湾して下がる。口縁部はやや尖っている	外面：天井部はヘラ削り。体部上半は回転ヘラ削り。体部下半～口縁部はナデ 内面：全体ナデ。口縁部に一条の沈線を施す	良好	にぶい赤橙2.5YR5/4	1mm以下の黒色粒子を含む	完形
第30図3	1号横穴4	須恵器 平底	口径	器高	最大径	(11.10) 4.25 (11.35)	天井部は傾斜しているが平らで、体部は内湾してドがる。口縁端部は僅かに外反する	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ。調整は雑	良好	5YN5	2～3mmの砂粒子を含む	口縁部～体部25%欠損
第30図4	1号横穴6	須恵器 平底	口径	器高	最大径	(11.40) 3.40 (11.65)	天井部は傾斜しているが平らで、体部は内湾し、口縁部は緩傾斜に僅かに開いている	外面：天井部はヘラ削り。体部上半は回転ヘラ削り。体部下半～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良内面不良	外面：5YN5 内面：5Y赤2.5YR6/2	3mmほどの白色粒子を含む	口縁部～体部14%欠損 3区、歯痕跡と接合
第30図5	1号横穴3	須恵器 平身	口径	器高	最大径	11.80 4.60 12.15	底部はほぼ平ら。体部は内湾し、口縁部は垂直に立ち上がり。口縁端部はやや尖り気味に収める	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ。口縁部に一条の沈線を施す	良好	外面：にぶい赤褐2.5YR5/4 内面：にぶい橙5YR6/4	密。0.5mm以下の黒色粒子を含む	口縁部の一部欠損
第30図6	1号横穴1	須恵器 平身	口径	器高	最大径	9.40 3.80 11.40	底部はほぼ平ら。体部は内湾し、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰白5Y7/1	密。黒色粒子を僅かに含む	完形 底部外面に「丨」のヘラ記号
第30図7	1号横穴8	須恵器 平身	口径	器高	最大径	8.60 3.70 10.70	底部は丸底。体部は内湾し、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	5YN5	砂粒子を多く含む	接合により完形
第30図8	1号横穴10	須恵器 平身	口径	器高	最大径	9.85 4.20 11.70	底部は平底。体部は内湾しながら大きく開き、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	5YN5	白色粒子を少し含む	破片で出土。 17と接合
第30図9	1号横穴12	須恵器 平身	口径	器高	最大径	9.70 4.20 11.45	底部は丸底。体部は内湾し、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	5YN5		9・17・3区と接合
第30図10	1号横穴15	須恵器 平身	口径	器高	最大径	9.20 4.30 11.30	底部は平底。体部は内湾しながら大きく開き、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	5YN6	密	完形
第30図11	1号横穴16	須恵器 平身	口径	器高	最大径	(9.15) 4.20 (11.40)	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。強いノタ目が見られる。 内面：全体ナデ	良好	灰白N7	密。黒色粒子を僅かに含む	やや歪みがある。 11・17と接合で完形
第30図12	1号横穴南延部1	須恵器 平身	口径	器高	最大径	(8.60) (4.50) (10.60)	体部は開きしながら立ち上がる。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は高く内傾する	外面：体部～口縁部はナデ。受けに自然釉がかかる 内面：全体ナデ。体部下半に自然釉がかかる	良好	灰白10YR7/1	密。黒色粒子を僅かに含む	1/4残存 2・3と接合
第30図13	1号横穴14	須恵器 平身	口径	器高	高台径	— — — 9.80	底部は丸底で、内湾しながら立ち上がる。貼り付け高台が付く。高台端部はかえりがある	外面：底部はヘラ削り。底部から高台に掛けて横ナデ 内面：横ナデ	良好	5YN7	砂粒子を含む	底部の破片
第30図14	1号横穴7	須恵器 壺	口径	器高	最大径	(9.60) (13.00) 9.40	底部～体部は球形を呈するが、最大径は体部上半にあり、そこに孔（径11.3mm）が1箇所ある。口縁部は外反する	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部は横ナデ 内面：全体横ナデ	良好	5YN6	黒色粒子を含む	口縁部約1/2と頸部が欠損 12と接合
第31図1	2号横穴26	須恵器 平底	口径	器高	最大径	12.45 5.60 13.00	丸い天井部から内湾しながら下がり、口縁部はやや内湾する	外面：天井部はヘラ削り。体部上半～口縁部はナデ。口縁部との境に太くて浅い沈線を施す 内面：天井部～体部中位は静止ナデ。口縁部はナデ。口縁端部に沈線を施す	良好	にぶい橙7.5YR6/3	密。白色粒子を多く含む	口縁部の一部欠損 45・57・4～6区と接合
第31図2	2号横穴31	須恵器 平底	口径	器高	最大径	12.40 4.05 12.60	天井部は弓張り状なして内湾し、口縁部は真っ直ぐ下がる。頂点の部分のみ厚い	外面：天井部はヘラ削り。体部上半～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	5Y6/1		口唇部の一部欠損 18・23・29・30・35・2区・3区と接合

図版番号	遺構名 遺物番号	種別・器種		法量		形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第31図3	2号横穴 11	須恵器	坏蓋	口径 器高 最大径	12.80 4.50 13.20	天井部は平らで体部の端でなだらかな段をなして内湾し、口縁部は真っ直ぐ下がる	外面：天井部は静止ヘラ削り。体部上半はヘラ削り。体部中位～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	密。黒色粒子を僅かに含む	体部上半～口縁部の一部欠損 5・6・8・28・56・5区と接合
第31図4	2号横穴 前庭部 11	須恵器	坏蓋	口径 器高 最大径	10.50 3.90 10.95	天井部ははは平らで、体部は内湾し、開きながら下がる。口縁端部は丸く収めている	外面：天井部～体部上半はヘラ削り。体部下半～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰N6	密。白色粒子を含む	完形
第31図5	2号横穴 前庭部 6	須恵器	坏蓋	口径 器高 最大径	9.90 4.05 10.40	天井部は平らで、体部は内湾し、口縁部も内湾する	外面：天井部はヘラ削り。体部上半～口縁部はナデ。口縁端部は丁寧なナデ 内面：ナデ	良好	外面：灰N6 内面：灰白N7	密	完形
第31図6	2号横穴 前庭部 28	須恵器	坏蓋	口径 器高 最大径	9.80 3.80 10.15	天井部は弓張り状で、内湾しながら下がる	外面：天井部～体部中位はヘラ削りの後丁寧なナデ。口縁部はナデ 内面：金体ナデ	良好	灰N5	密。黒色粒子を僅かに含む	1/4欠損
第31図7	2号横穴 前庭部 1	須恵器	坏蓋	口径 器高 最大径	9.80 3.60 10.30	やや撫でがあるが平らな天井部から内湾しながら下がり、口縁部も僅かに内湾する	外面：天井部はヘラ削りの後、ナデ。体部上半～口縁部はナデ 内面：金体ナデ	良好	灰N6	密。白色・黒色粒子を僅かに含む	1/2残存
第31図8	2号横穴 前庭部 3区	須恵器	坏蓋	口径 器高 最大径	(10.00) (4.00) (10.70)	平らな天井部から内湾しながらドがり、口縁部も内湾する	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：金体ナデ	良好	灰N6	密。白色粒子を含む	1/6残存
第31図9	2号横穴 前庭部 13	須恵器	坏蓋	かえり口径 器高 最大径	(10.20) (1.80) (12.50)	天井部につまみが付くと思われる。平らな天井部から穏やかに下がる。かえりは小さく、内傾する	外面：天井部はヘラ削りの後、ナデ。口縁部はナデ 内面：金体ナデ	良好	外面：灰N6 内面：灰白5Y7/1	密。黒色・白色粒子を僅かに含む	1/3残存 つまみ欠損
第31図10	2号横穴 前庭部 9	須恵器	坏身	口径 器高 最大径	10.00 3.70 10.60	底部は平らで、体部は内湾しながら立ちあがる。口縁部も内湾し、端部を丸く収めている	外面：底部はヘラ削り。体部下半はヘラ削りの後丁寧なナデ。口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰N6	密。白色粒子を含む	口縁部の一部欠損
第31図11	2号横穴 7区	須恵器	坏身	口径 器高 最大径	11.90 4.80 14.10	底部は丸底。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部上半～口縁部はナデ 内面：底部は静止ナデ。指頭痕有り	やや良好	外面：褐灰10YR7 内面：灰10Y6	密	口縁部1/8欠損 9・10・20・21・42・44・46・49および4区・6区と接合
第31図12	2号横穴 8区	須恵器	坏身	口径 器高 最大径	10.90 5.00 13.20	丸底から内湾しながら立ち上がる。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部下半～口縁部はナデ 内面：金体ナデ	良好	外面：にぶい赤褐2.5YR5/3 内面：灰10Y6/1	密	口縁部1/8欠損、体部3/4欠損 4・13・15・16・24・3～6区と接合
第31図13	2号横穴 前庭部 22	須恵器	坏身	口径 器高 最大径	(11.40) 4.70 (14.20)	丸底から大きく開き、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：底部は静止ナデ。体部～口縁部はナデ	良好	灰5Y6/1	密。黒色粒子を含む	口縁部1/8残存
第31図14	2号横穴 27区	須恵器	坏身	口径 器高 最大径	(11.10) (13.20)	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾するが開き気味	外面：ナデ 内面：ナデ	良好	灰N6	密。黒色粒子を含む	口縁部～体部上半1/3残存 38・6区と接合
第31図15	2号横穴 1	須恵器	坏身	口径 器高 最大径	10.60 (4.10) (12.60)	底部は平底か(?)。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：金体ナデ 内面：ナデ	良好	灰N4	密	口縁部1/2欠損、体部3/4欠損。 47・4区、6区と接合
第31図16	2号横穴 37	須恵器	坏身	口径 器高 最大径	(8.55) 2.90 (10.40)	丸底から開いて立ち上がる。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削りの後、ナデ。体部から口縁部はナデ 内面：底部静止ナデ。体部からは口縁部はナデ	良好	黒褐5YR3/1	密。黒色粒子を僅かに含む	1/4残存
第31図17	2号横穴 前庭部 5	須恵器	坏身	口径 器高 最大径	9.00 3.10 10.60	底部は平底。体部は内湾し、開きながら立ち上がる。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は短く、内傾する。焼き歪みが見られる	外面：底部はヘラ削り。体部下半～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	密。黒色粒子を僅かに含む	完形
第31図18	2号横穴 前庭部 8	須恵器	坏身	口径 器高 最大径	8.50 3.50 10.20	底部は平底。体部は内湾し、開きながら立ち上がる。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は短く、内傾する	外面：底部はヘラ削りの後ナデ。体部下半～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰N6	密。白色粒子を含む	口縁部の一部欠損

図版番号	遺構名 遺物番号	種別・器種	法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第31図 19	2号横穴 前庭部 3②	須恵器 坏身	口径 8.70 器高 3.15 最大径 10.35	平底から内湾しながら立ち上がる。口縁部との間に受け皿を持つ。口縁部は内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ割りの後、ナデ。体部中位～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N6	密。白色粒子を含む	1/2残存
第31図 20	2号横穴 前庭部 7	須恵器 坏身	口径 8.80 器高 3.20 最大径 10.50	底部は平底。体部は内湾し、開きながら立ち上がる。口縁部との間に受け皿を持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部下半～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰N6	密。白色粒子を含む	完形
第31図 21	2号横穴 12③	須恵器 高坏	口径 10.95 坏部器高 (4.30) 最大径 11.45	底部外面の剥離状況から脚が欠損したと考えられる。坏部は丸底から内湾しながら立ち上がり、口縁部も内湾する	外面：底部はヘラ削りの後、ナデ。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N6	密。白色・黒色粒子を含む	3/5残存 16・17・18・19・26・32・41・3～6区と接合
第31図 22	2号横穴 前庭部 30	須恵器 瑞	口径 (9.10) 器高 (3.10) 最大径 (9.95)	体部は開きながら立ち上がり、口縁部近くで内湾し、口縁部は垂直に立ち上がりやや内傾する	外面：ナデ 内面：ナデ	良好	灰白2.5Y7/1	密。黒色粒子を含む	口縁部1/4残存
第31図 23	2号横穴 33	須恵器 短頸壺	口径 (8.90) 器高 最大径	頸部は開きながら立ち上がり、口縁部はラッパ状に開く。口縁端部は尖らせている	外面：ナデ 内面：ナデ	良好	灰N6	密。黒色粒子を微かに含む	口縁部～頸部3/4残存 35と接合
第31図 24	2号横穴 45	須恵器 短頸壺	口径 8.20 器高 9.10 最大径 13.80	底部は平底で厚い。体部は大きく開きながら立ち上がり、体部上半で内湾し、口縁部に向かって内傾する。口縁部は直口縁で、口縁端部は丸く収めている。体部の最大径は上半にある	外面：底部は切り離し後ヘラ割り。体部下半はヘラ削り。中位はヘラ削りの後ナデ。体部最大径の上位に一条の沈線を巡る。その下位に櫛目波。更にその下に二条の沈線を施している。口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白2.5Y7/1	外面：灰N6 内面：灰白2.5Y7/1	2mm以下の黒色粒子を多く含む	口縁部1/2欠損 体部2/3欠損 22・25・34・48・50と接合
第32図 1	3号横穴 8	須恵器 坏蓋	口径 10.40 器高 3.95 最大径 10.70	天井部は弓張り状で、体部は内湾して下がる。口縁端部は垂直に下がる。	外面：天井部は回転ヘラ削りの後、静止ヘラ削り。体部～口縁部はナデ。 強いノメ目が施される。 内面：全体ナデ。	良好	灰白N7		完形
第32図 2	3号横穴 20	須恵器 坏蓋	口径 10.05 器高 4.00 最大径 10.60	天井部は弓張り状で、体部は内湾して下がる。口縁部はやや内湾する	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N6	密。白色粒子を含む	完形
第32図 3	3号横穴 22	須恵器 坏蓋	口径 9.90 器高 3.90 最大径 10.20	天井部は弓張り状で、体部は内湾して下がる。口縁部は僅かに内湾する	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰N6		完形
第32図 4	3号横穴 櫛庭部 2	須恵器 坏蓋	口径 (11.25) 器高 4.20 最大径 (11.60)	平らな天井部から内湾しながら下がり、口縁部との境に段を持つ	外面：天井部はヘラ削りの後、ナデ。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N6	密。黒色粒子を多く含む	1/2欠損
第32図 5	3号横穴 4	須恵器 坏蓋	口径 10.40 器高 3.80 最大径 10.80	天井部は傾斜しているが弓らで、体部は内湾し、口縁部は直線的に僅かに内湾している	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。口縁部との境に不明瞭な沈線を一条施してある 内面：全体ナデ	良好	灰白N7	密	完形
第32図 6	3号横穴 11	須恵器 坏蓋	かえり口径 7.80 器高 3.60 最大径 9.50 つまみ高 0.75 つまみ径 1.15	天井部は弓張り状で、体部は内湾して下がる。頂点に乳頭状のつまみが付く。かえりは内傾する	外面：体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N6	密	完形
第32図 7	3号横穴 17	須恵器 坏蓋	かえり口径 8.20 器高 3.80 最大径 9.85 つまみ高 0.85 つまみ径 1.50	天井部は弓張り状で、体部は内湾して下がる。頂点に乳頭状のつまみが付く。かえりは内傾する	外面：天井部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰白N7	密	完形
第32図 8	3号横穴 18	須恵器 坏蓋	かえり口径 7.85 器高 3.85 最大径 9.80 つまみ高 0.85 つまみ径 1.50	天井部は弓張り状で、体部は内湾して下がる。頂点に乳頭状のつまみが付く。かえりは内傾する	外面：天井部はヘラ削りの後、ナデ。口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N6	密	完形
第32図 9	3号横穴 16	須恵器 坏蓋	かえり口径 7.20 器高 3.90 最大径 9.85 つまみ高 0.90 つまみ径 1.40	天井部は弓張り状で、体部は内湾して下がる。頂点に乳頭状のつまみが付く。かえりは90°内傾する	外面：天井部～体部上半はヘラ削りの後、つまみの周囲に櫛状工具による斜突線を施している。体部下半～口縁部はナデ。体部中位に「十」の字のヘラ記号が認められる 内面：全体ナデ	良好	外面：灰N4 内面：灰白N7	密	完形

図版番号	遺構名 遺物番号	種別・器種	法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第32図 10	3号横穴 前庭部 4	須恵器 坏身	口径 (10.40) 器高 3.80 最大径 (12.80)	底部は丸底。体部は開きながら立ち上がり。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。焼き歪みがある	外面：ナデ 内面：ナデ	良好	灰N6	密。白色・黒色粒子を含む	1/2残存
第32図 11	3号横穴 21	須恵器 坏身	口径 9.30 器高 4.10 最大径 11.30	底部は丸底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部上半から口縁部はナデ 内面：ナデ 全体に調整が雑	良好	灰5Y6/1	密	完形
第32図 12	3号横穴 15	須恵器 坏身	口径 8.90 器高 4.10 最大径 10.70	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。受けの部分の外側は肥厚している。口縁部は内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部上半は粗いナデ。受け部～口縁部は丁寧なナデ 内面：ナデ	良好	灰5Y6/1	密	完形
第32図 13	3号横穴 13	須恵器 坏身	口径 8.70 器高 3.50 最大径 10.60	底部は丸底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部ヘラ削り。体部下半はやや粗いナデ。体部上半から口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰5Y6/1	密	完形
第32図 14	3号横穴 14	須恵器 坏身	口径 8.90 器高 3.60 最大径 11.10	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、体部中位から直線的に開く。口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部上半から口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	オリーブ 2.5GY6/1	密	完形
第32図 15	3号横穴 19	須恵器 坏身	口径 8.50 器高 3.20 最大径 10.50	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。歪みが大きい	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部上半から口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N6	密	完形
第32図 16	3号横穴 9	須恵器 坏身	口径 8.80 器高 3.90 最大径 11.00	底部は平底。体部は内湾しながら大き く開き、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部下半はヘラ削り後ナデ、体部上半～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N6		完形
第32図 17	3号横穴 10	須恵器 坏身	口径 8.60 器高 4.00 最大径 10.60	底部は平底。体部は内湾しながら大き く開き、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する。歪みがある	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良	灰N5	白色砂粒子を多く含む	完形
第32図 18	3号横穴 6	須恵器 高坏	口径 15.40 器高 15.60 脚径 12.40	坏部と脚部の高さの比は4：6。坏部は丸底の底部から内湾しながら立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。脚部はハの字状に大き く開く、二方向に二段の透かしがある	外面：ナデ。透かしの脚に二条の不明瞭な沈線、透かしの下に三条の不明瞭な沈線を施している。端部は鉢めに面取りをしている 内面：ナデ	良好	灰5Y6/1	密。黒色粒子を含む	完形
第32図 19	3号横穴 7	須恵器 高坏	口径 14.50 器高 12.90 脚径 11.00	坏部と脚部の高さの比は4：6。坏部は丸底の底部から内湾しながら立ち上がり、中位に段を有する。口縁端部はやや外反し、内側を鉢めに面取する。脚部はハの字状に大き く開く	外面：口縁部ナデ。脚部上位に二条の不明瞭な沈線を施している。端部は窪んでいる 内面：ナデ	良好	灰白N7		完形
第32図 20	3号横穴 12	須恵器 壺	口径 12.50 体部最大径 10.25 器高 13.20	底部は斜めの平底。体部は球形を呈するが、最大径は体部上半にあり、そこに孔(径は5mm)が穿所ある。口縁部は接合部から僅かに開きながら立ち上がり中位から大きく外反し、段をつけて更に大き く開いている。最大径は体部の最大径よりやや大きい	外面：口縁部～体部上半は丁寧なナデ。体部中位は粗いナデ。孔の上位に一条の沈線を施し、その下に櫛状工具による刺突紋が施されている。体部下半～底部はヘラ削り 内面：口縁部ナデ	良好	灰N6	密	完形 底部外面に「十」の篦記号
第33図 21	3号横穴 南庭部 3	須恵器 短頸壺	口径 11.60 器高 19.60 最大径 19.20	底部は丸底。内湾しながら立ち上がり、頸部に向かって緩やかに内傾する。頸部から口縁部は外反する。体部上半に最大径がある	外面：全体にナデの後な細かい横線が施され、底部から体部下半には呼ぎ目も見られる。口縁部から頸部にかけて灰釉が見られる。体部最大径に上位に二条の沈線を施している 内面：口縁部から体部下半に掛けてナデ。底部に指頭痕が、体部中位にノタ目が見られる。口縁部に灰釉がかかっている	良好	灰N5	密。白色粒子を僅かに含む	ほぼ完形

図版番号	遺物名 遺物番号	種別・器種	法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第33図 22	3号横穴 5	須恵器 台付長頸壺	口径 8.30 体部最大径 14.90 脚裾大径 10.10 器高 25.0	体部の約3分の上に稜線を有し、そこが最大径となる。稜の下くび上に一条の沈線を施している。口縁部は体部の高さと同じくらいあり、接合部からやや内傾する。脚の後直線的に開く。脚は丸底の底部から八の字状に開く。全体に歪みがある	外面：口縁部中位よりやや下に二条の沈線を施している。 内面：口縁部はナデ	良好	灰N5		完形
第33図 23	3号横穴 1	須恵器 平瓶	口径 8.10 器高 18.40 最大径 18.30 最大径 8.40	口縁部は複合口縁で、体部中心より約5.2cmはずれて斜めに取り付けている。体部は全体に丸みを帯う。底部は丸底である	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。体部上半に粗いノダ目が見られる。体部下半に不規則な沈線を巡らせている。頸部の接合部はナデ痕がみられる 内面：口縁部はナデ	良好	黄灰2.5Y6/1	密。白色粒子を含む	完形
第33図 24	3号横穴 3	須恵器 壺類	口径 8.30 器高 ～9.90 最大径 22.70 最大径 16.50	扁形の体部の横に、別作りの外反する口縁部を接合している。口縁端部は尖らせている	外面：ヘラ削りの後、ナデ。口縁部～頸部ナデ。一部に自然釉が認められる 内面：口縁部はナデ	良好	灰白N7		完形
第33図 25	3号横穴 2	須恵器 壺類	口径 9.60 口縁部最大径 10.00 器高 21.30 最大径 17.00	扁形の体部の横に、別作りの外反する口縁部を接合している。口縁端部は垂直に立ち上げている	外面：ヘラ削りの後、ナデ。口縁部～頸部ナデ。一部に自然釉が認められる 内面：口縁部はナデ	良好	灰白N7	有機物による気泡が多く見られる	完形
第33図 26	3号横穴 前庭部 1	土師器 坏身	口径 12.10 器高 5.00 最大径 12.70	丸底を背びた底部から内消して立ち上がり、口縁端部を丸く収めている	内外面とも摩耗のため調整は不明瞭	良	橙2.5YR6/6	やや密	ほぼ完形
第34図 1	4号横穴 前庭部 2	須恵器 坏蓋	口径 (9.80) 器高 (2.80)	体部は内消しながら下がる。口縁部も内消する	外面：ナデ 内面：ナデ	良好	灰N6	密。白色・黒色粒子を含む	口縁部1/6残存
第34図 2	4号横穴 前庭部 1	須恵器 坏身	口径 (13.50) 器高 3.65 高台径 10.00	平底の底部から内消して立ち上がり、直線的に開く。口縁端部はえぐ収めている。断面が台形の貼り付け高台が付く	外面：全体ナデ 内面：全体ナデ	良好	灰白2.5Y7/1	密。白色粒子を僅かに含む	体部1/5残存、底部1/2残存
第34図 3	4号横穴 1区	須恵器 坏身	口径 12.60 器高 3.60 最大径 13.50	平底の底部から直線的に開き、口縁部は僅かに外反する。断面が三角形の貼り付け高台が付く	外面：底部から体部下半はヘラ削りの後、ナデ。口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰5Y6/1	密。砂粒子・黒色粒子を僅かに含む	口縁部～体部1/5欠損
第35図 1	5号横穴 前庭部 33	須恵器 坏蓋	口径 13.10 器高 4.25	天井部の中央部が僅かに盛り、内消しながら下がり、口縁部は直線的に開いている	外面：天井部～口縁部はナデ。ノダ目が見られる 内面：全体ナデ。口縁部に一条の沈線を施す	良好	灰白10YR7/1	密	口縁部の一部欠損
第35図 2	5号横穴 前庭部 28	須恵器 坏蓋	口径 11.65 器高 4.00	平らな天井部から内消しながら下がり、口縁部は直線的に開いている	外面：天井部はヘラ削りの後、ナデ。体部～口縁部はナデ。ノダ目が見られる 内面：ナデ。口縁部に一条の沈線を施す	良好	灰白10YR7/1	密	口縁部の一部欠損
第35図 3	5号横穴 14①	須恵器 坏蓋	口径 11.60 器高 3.90 最大径 11.90	天井部は弓張り状で、体部から口縁部にかけて、直線的にやや開きながら下がる	外面：天井部～口縁部はナデ。強いノダ目が残る。製作から口縁部にかけて、直線的に、ロクロ目を切り離す際の粘土が残存している 内面：全体ナデ	良好	灰N6	白色砂粒子を多く含む	完形 天井部外面に「一」のヘラ記号
第35図 4	5号横穴 26	須恵器 坏蓋	口径 11.20 器高 5.20 最大径 11.50	天井部と体部の境でなだらかな段をなしし、体部は直線的に開き、中位から内消しながら下がる	外面：天井部～体部中位はヘラ削り。体部中位～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	外面：灰白5Y7/2、灰7.5Y6/1 内面：にぶい橙5YR6/3	緻密。砂粒子を含む	完形
第35図 5	5号横穴 8	須恵器 坏蓋	口径 11.00 器高 4.60 最大径 11.20	天井部は丸く、体部は内消しし、口縁部は僅かに内消している	外面：天井部～体部はヘラ削り。口縁部との境に不明瞭な沈線を一条施してある。口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	外面：灰N5 内面：灰赤7.5R3/2	緻密。砂粒子を含む	完形
第35図 6	5号横穴 22	須恵器 坏蓋	口径 10.30 器高 4.60 最大径 10.80	天井部は平らで二本の稜線を巡らせている。体部は最初に開き、口縁部との境に段を持つ。口縁端部は内消する	外面：天井部はヘラ削り。体部はヘラ削りの後ナデ。段の上位はヘラ削り。口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	外面：灰赤2.5YR6/2 内面：にぶい橙5YR6/4	1mm以下の白色粒子、黒色炭化物を多く含む	完形 色調は土器を焼わせるが、製作工程から見て須恵器である

図版番号	遺構名 遺物番号	種別・器種		法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第35図 7	5号横穴 11	須恵器	坏蓋	口径 11.20 器高 4.60 最大径 11.60	天井部は丸く厚い。体部は内湾し、口縁部は僅かに内湾している	外面：天井部～体部上半はヘラ削り、中位はヘラ削りの後ナデ。口縁部との境に不明瞭な沈線を一条施してある。口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良	外面：天井部は、にぶい赤5YR7/3。オリーブ灰5GY6/1 内面：にぶい赤褐2.5YR5/3	粗い砂粒子、白色細粒子を含む	完形
第35図 8	5号横穴 30	須恵器	坏蓋	口径 9.60 器高 3.60 最大径 10.00	天井部は丸みを持ち、体部は内湾しながら下がり、口縁部は直線的に開いている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰N5	微細砂粒子を含む	完形
第35図 9	5号横穴 20	須恵器	坏蓋	口径 9.50 器高 3.60 最大径 9.80	天井部は丸みを帯び、体部から口縁部にかけて直線気味に内湾しながら下がる	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良	灰白N7	砂粒子を多く含み、有機質の黒色粒子を多く含む	完形
第35図 10	5号横穴 12	須恵器	坏蓋	口径 9.60 器高 3.50 最大径 10.00	天井部は平らで、体部は内湾し、口縁部は僅かに内湾している	外面：天井部～体部上半はヘラ削り、中位はヘラ削りの後ナデ。口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	外面：灰N5 内面：灰N6	微密。砂粒子を含む。1mm以下の白色粒子を多く含む	完形
第35図 11	5号横穴 17	須恵器	坏蓋	口径 9.80 器高 3.50 最大径 10.10	天井部ははぼ平らで、体部から口縁部にかけて、内湾しながら下がる	外面：天井部～体部はヘラ削りの後、丁寧なナデ。口縁部はナデ 内面：天井部以外ナデ	良好	灰N5	白色砂粒子を多く含む	完形
第35図 12	5号横穴 前庭部 48	須恵器	坏蓋	口径 (14.50) 器高 3.10 最大径 (15.10) つまみ高 0.45 つまみ径 3.40	平らな天井部からなだらかにさがる。口縁端部は垂直に下がる。頂点に中央が盛んだ扁平ボタン状のつまみが付く	外面：自然釉がかかる。ナデ。ノタ目が見られる 内面：全面ナデ。ノタ目が見られる	良好	明黄灰7.5YR7/1	密。黒色粒子を多く含む	2/3残存 51・50・66と接合
第35図 13	5号横穴 前庭部 30	須恵器	坏蓋	かえり口径 14.00 器高 3.65 最大径 16.60 つまみ高 0.80 つまみ径 2.90	天井部からなだらかに内湾しながら下がる。かえりは短く、内傾する。頂点に扁平擬宝珠状のつまみが付く。中心よりずれている	外面：2/3線釉がかかる。ナデ 内面：全面ナデ	良好	灰白10YR7/1	密。黒色粒子を僅かに含む	口縁部の一部欠損
第35図 14	5号横穴 前庭部 31	須恵器	坏蓋	かえり口径 14.55 器高 3.40 最大径 17.10 つまみ高 0.75 つまみ径 3.20	天井部からなだらかに内湾しながら下がる。かえりは短く、僅かに残る。頂点に扁平擬宝珠状のつまみが付く	外面：1/2線釉がかかる。ナデ 内面：全面ナデ	良好	灰白10YR7/1	密。黒色粒子を僅かに含む	はぼ完形 7区と接合
第35図 15	5号横穴 6	須恵器	坏蓋	かえり口径 13.40 器高 3.70 最大径 16.20 つまみ高 1.05 つまみ径 3.20	天井部と口縁部の境でなだらかな段をなし、口縁端部は内に屈折する。かえりは短く内傾する。頂点に中央が盛かに突起する扁平擬宝珠状のつまみが付く	外面：つまみ部はナデ。つまみ基端近の一部に赤干の自然釉軸がかかる。天井部～口縁部は工寧なヘラ削り。口縁端部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰白5Y7/1	密。黒色粒子を含む。砂粒子を多く含む	完形
第35図 16	5号横穴 18	須恵器	坏蓋	かえり口径 10.30 器高 3.40 最大径 12.50 つまみ高 0.85 つまみ径 2.15	天井部と体部の境でなだらかな段をなし、内湾しながら下がる。かえりは短く内傾する。頂点に中央が僅かに突起する扁平擬宝珠状のつまみが付く	外面：天井部～体部中位はヘラ削り。体部下半～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N7	微密。白色砂粒子を多量に含む	完形
第35図 17	5号横穴 13	須恵器	蓋	口径 10.60 器高 6.40 最大径 10.70 つまみ高 0.60 つまみ径 2.00	大井部は弓張り状で、体部から口縁部にかけて、直線的にやや開きながら下がる。口縁端部は僅かではあるが内外面に肥厚する。頂点に中央が僅かに突起する扁平擬宝珠状のつまみが付く やや焼き歪みがある	外面：天井部はヘラ削りの後、ナデ。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰N6	白色砂粒子を多く含む	口縁部の一部欠損
第35図 18	5号横穴 27	須恵器	坏身	口径 10.00 器高 4.20 最大径 12.30	底部は丸底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は外反気味に内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部下半～口縁部まではナデ 内面：ナデ	良好	外面：明オリーブ灰2.5GY7/1 内面：灰赤2.5YR5/2	微密。砂粒子を含む	完形
第35図 19	5号横穴 9	須恵器	坏身	口径 10.10 器高 4.40 最大径 12.70	底部は丸底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は立ち気味に内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	外面：明オリーブ灰2.5GY7/1 内面：灰赤2.5YR5/2	概。砂粒子を含む	完形
第35図 20	5号横穴 16	須恵器	坏身	口径 9.60 器高 4.20 最大径 12.00	底部は平面。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部～体部上半はヘラ削りの後ナデ。弱いノタ目が残る。口縁部はナデ 内面：ナデ。強いノタ目が残る	良好	灰N6	微密。砂粒子を含む	完形

図版番号	遺構名遺物番号	種別・器種	法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第35図21	5号横穴23	須恵器　坏身	口径 9.30 器高 4.40 最大径 11.20	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部は回転ヘラ削り。体部下半～受けの外側までナデ。受けの内側はヘラ削り。 口縁部は指ナデ 内面：ナデ	良好	にぶい橙5YR6/4	微密。1mm程度の砂粒子を含む	完形 色調は土師器を思わせるが、製作工程から見て須恵器である
第35図22	5号横穴25	須恵器　坏身	口径 9.10 器高 4.00 最大径 11.20	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部下半～口縁部までナデ 内面：ナデ	良	にぶい橙5YR6/4	白色砂粒子を多く含む	完形 色調は土師器を思わせるが、製作工程から見て須恵器である
第35図23	5号横穴19	須恵器　坏身	口径 8.60 器高 3.20 最大径 10.80	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：ヘラ削りの後、ヤや粗いナデ 内面：ナデ	良	浅N5	やや粗い。砂粒子を多く含む	完形
第35図24	5号横穴14②	須恵器　坏身	口径 8.30 器高 4.30 最大径 10.40	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部上半はヘラ削りの後ナデ。ヤやノタ目が残る。 口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	浅N5	緻密。白色砂粒子を多量に含む	完形
第35図25	5号横穴31	須恵器　坏身	口径 8.20 器高 3.20 最大径 10.10	底部は平底。体部は大きく開きながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾するが、端部は外反する	外面：底部は静止ヘラ削り。体部下半～受け部外側はヘラ削りの後ナデ。口縁部はナデで、口縁端部の外側にヘラ削りが見られる 内面：ナデ	良好	浅N4	緻密。砂粒子、1mm以下の白色粒子を含む	完形 底部外面に貼り付けたような痕がある
第35図26	5号横穴2	須恵器　坏身	口径 8.60 器高 3.30 最大径 10.60	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部上半から口縁部はヘラ削りの後ナデ 内面：ナデ	良好	浅N4	緻密。砂粒子、1mm以下の白色粒子を多く含む	完形
第35図27	5号横穴7	須恵器　坏身	口径 8.40 器高 3.30 最大径 10.60	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部は丁寧なヘラ削り。口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	浅N5	緻密。白色の極小な砂粒子を多く含む	完形
第35図28	5号横穴3	須恵器　坏身	口径 8.70 器高 3.00 最大径 10.80	底部は平底。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部～体部下半はヘラ削り。体部上半から口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	浅N5	緻密。砂粒子、1mm以下の白色粒子を多く含む	完形
第35図29	5号横穴5	須恵器　坏身	口径 12.80 器高 3.60 高台径 8.90	底部は平底で、断面が台形の貼り付け高台が付く。体部は内湾しながら立ち上がり、直線的に開く。口縁端部は尖らせている	外面：高台内部の底部外面はヘラ削り。高台部はナデ。体部下半から口縁部はヘラ削りの後ナデ 内面：ナデ	良好	浅N6	1mmほどの黒色炭化物および砂粒子を多く含む	完形
第35図30	5号横穴28	須恵器　坏身	口径 15.30 器高 4.70 最大径 15.55 高台径 9.50	底部は厚く丸底気味で、高台より出ている。内湾しながら立ち上がり、直線的に開き、口縁端部は丸く収めている。断面が台形の後付けの高台が付く	外面：底部は回転ヘラ削り。底部から高台に掛けてナデ。体部はヘラ削りの後ナデ。口縁端部は指ナデ 内面：ナデ	良好	灰白5Y7/1	緻密。砂粒子を含む	完形
第36図31	5号横穴南墓部34	須恵器　高坏	坏部口径 15.30 坏部高 (5.20)	丸底から大きく開き、体部上半で内湾する。口縁部は肥厚し、内側を斜めに面取りしている	外面：全体ナデ 内面：全体ナデ。ノタ目が見られる。半分に自然釉がかかる	良	黄灰白2.5Y6/1	密。白色・黒色砂子を含む	脚部欠損 35・41と接合
第36図32	5号横穴10	須恵器　高坏	口径 9.60 器高 8.90 脚径 8.40	坏部と脚部の高さの比は4：6。坏部は丸底の底部から内湾しながら立ち上がる。1段端部は強かに外反する。脚部はハの字状に大きく開く	外面：口縁部まで、体部中位に一条の沈線を施す。脚部の中位にも一条の沈線を施している。端部は斜めに面取をしている 内面：ナデ	良好	黄灰2.5Y6/1	1mm以下の白色粒子を多く含む	完形
第36図33	5号横穴4	須恵器　壺	口径(内径) 10.70 口径(外径) 12.30 体部最大径 12.70 器高 14.50	底部は丸底。体部は球形を呈するが、最大径は体部上半にあり、そこに孔（径11.0mm）が1箇所ある。口縁部は接合部から強かに開きながら立ち上がり、中位から大きく開き、段をつけて更に内湾して口縁端部が外反している。最大径は体部の最大径よりやや大きい	外面：口縁部は接合部から中位までナデ。中位から段までヘラ削り、段から口縁端部まではヘラ削りの後ナデ。口縁端部はナデ。体部はナデ孔の上位と下位に一条の細い沈線を施し、その間に櫛状工具による刺突紋が施されている。体部上半に自然緑釉がかかる。底部はヘラ削り 内面：ナデ。口縁部の内側に自然緑釉がかかる	良好	灰白2.5Y7/1	1mmほどの黒色炭化物および砂粒子を多く含む	完形

図版番号	遺構名 遺物番号	器種・器種	法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第36図34	5号横穴21	須恵器 坩	口径 7.30 器高 7.10 最大径 11.10	底部は丸底。体部は大きく開きながら立ち上がり、体部上半で内湾し、口縁部に向かって内傾する。口縁部は肥厚口縁で、口縁端部を尖らせている。体部の最大径は上半にある	外面：底部は切り離し後ヘラ割り。体部下半はヘラ削り。中位はヘラ削りの後ナデ。体部上半で内湾し、口縁部に向かって内傾する。口縁端部を尖らせている。体部の最大径は上半にある 内面：ナデ	良好	灰白N7	緻密。砂粒子、1mm以下の白色粒子、黒色炭化物を含む	完形 自然釉の状況から見て、重量焼と考えられる
第36図35	5号横穴15	須恵器 平瓶	口径 6.30 口縁部最大径 6.55 器高 15.60 体部最大径 12.50	口縁部は体部中心より約3.7cmはずれて斜めに取り付けている。接合部より直線的に開き、口縁端部は強かに内傾する。体部の最大径は天井部と体部の稜線上にある。底部は丸底である	外面：底部～体部中位は ヘラ削りの後ナデ。体部中位～口縁部はナデで、口縁部に ノメタ目が見られる。天井部に自然釉がかかる 内面：口縁部はナデ	良好	白灰N7	砂粒子を多く含む	口縁部の1/4欠損
第36図36	5号横穴29	須恵器 平瓶	口径 5.10 口縁部最大径 5.35 器高 12.60 体部最大径 12.30	口縁部は体部中心より約2.0cmはずれて斜めに取り付けている。接合部より直線的に開き、口縁端部を尖らせている。体部の最大径は天井部と体部の稜線上にある。底部は丸底である	外面：底部～体部中位は ヘラ削りの後ナデ。体部中位～口縁部はナデで粘に胴部は下寄なナデが見られる。稜線下位に二条の沈線を施している 内面：口縁部はナデ	良好	灰N5	砂粒子を含む	完形
第36図37	5号横穴1	須恵器 横瓶	口径 10.90 口縁部最大径 11.50 器高 26.30 体部最大径 14.20	球形の体部の横に、別作りの外反する口縁部を接合している。口縁部は有段口縁で、段谷部から直線的に立ち上がり、三すでタッ尺に開く。口縁端部は尖らせ、断面は三角形を呈している	外面：ヘラ削り。中央から盡ナデ。口縁部はナデ。 部自然釉がかかる 内面：ナデ	良好	灰白N7	砂粒子を多く含む	完形
第36図38	5号横穴自底部38	須恵器 大甕	口径 (34.80) 器高 —	胴部は緩やかに内傾し、頸部ばく(30°)程に曲意し、直線的に開く。口縁部は大きく開き、端部は内傾に屈曲する	外面：胴部叩き目痕。頸部上半にナデの後、櫛状施具による刺突紋が2段施されている。口縁部に一条の沈線を施している 内面：全体ナデ	良好	灰白10YR7/1	密。白色砂子を僅かに含む	体部以下欠損
第37図1	6号横穴9	須恵器 坏蓋	かえり口径 7.45 器高 2.30 最大径 9.90 つまみ高 0.55 つまみ径 1.60	天井部から口縁部まで緩やかな弓状を呈する。かえりは内傾する。頂点に中央が僅かに窪む扁平なボタン状のつまみが付く	外面：全体ナデ。緑釉がかかる 内面：全体ナデ	やや良好	灰N6	5mm以下の黒色粒子を多く含む	完形
第37図2	6号横穴6	須恵器 坏身	口径 (10.40) 器高 3.70 最大径 (12.30)	底部は平底。体部は大きく開きながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰10YG/1	密。黒色粒子を多く含む	口縁部～底部1/8残存
第37図5	6号横穴10	須恵器 坏身	口径 12.10 器高 3.80 最大径 12.30	底部は平底。体部は大きく開きながら立ち上がり、体部上半で内湾し、口縁部は僅かに外反する。	外面：底部～体部下半はヘラ削り。口縁部はナデ。 内面：ナデ。	良好	灰白N7	5mm以下の砂粒子を多く含む	完形
第37図4	6号横穴5	須恵器 坏身	口径 15.20 器高 6.00 最大径 15.80 高台径 6.80	底部は平底で体部は僅かに内湾し、緩慢的に開き、口縁部は外反する。断面が台形の貼り付けの高台が付く。全体に焼き歪みがある	外面：底部はヘラ削りの後、ナデ。高台～口縁部はナデ 内面：底部は静止ナデ。体部～口縁部に灰釉がかかる	良好	灰白10YR7/1	密。白色砂子を含む	2と接合にて完形
第37図3	6号横穴3	須恵器 瓶	口径 — 体部高 (6.50) 最大径 10.10	体部は球形を呈する。体部中位に孔(径11mm)が1ヶ所空けられている	外面：全体にナデ調整の後、体部上半に二条の沈線、注口の下に一条の沈線を施し、その間は櫛状施具による刺突紋を施している 内面：ナデ	良好	灰N5	密。黒色砂子を含む	口縁部・底部欠損
第37図6	6号横穴11	須恵器 坏	口径 9.00 器高 5.90 最大径 10.90	底部は丸底。体部は内湾しながら立ち上がり、体部中位から口縁部に向かって緩慢的に内傾する。体部の最大径は中位にある。全体に歪みがある	外面：底部はヘラ削り。体部からロ縁部はナデ。体部上半に不明瞭な太い沈線が一条施してある 内面：底部は静止ナデ	良好	灰N4 底部 外面：灰白7.5Y8	砂粒子を多く含む	完形
第37図7	6号横穴12	須恵器 小型壺	口径 3.30 器高 5.60 最大径 6.60 底径 1.80	底部は平底。内湾しながら立ち上がり、体部上位の最大径から内傾する。口縁部は肥口縁。端部を尖らせている。やや焼き歪みがある	外面：底部はヘラ削りの後、ナデ。体部下半～口縁部はナデ。 内面：ナデ	良好	浅黄橙7.5YR8/3、 灰N6	密。白色砂子を多く含む	1/3欠損 13・14・4区と接合

図版番号	遺構名遺物番号	種別・器種		法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第37図8	6号横穴8	須恵器	提瓶	口径 器高 (27.20) 体部最大幅 22.40 体部最大厚 16.80	口縁部は直線的に立ち上がり大きく開く。体部は外側が球状で、内側が平坦になっており、両脇に一対の鐶状把手が付く	外面：外側の1/4はヨコ目調整。二重の圏線が二ヶ所に施される。側面は斜ヨ目。内側はカキ目調整。口縁部はナデ。中位に二条の沈線を施している 内面：口縁部はナデ	良好	灰白N7	密	口縁部欠損
第38図1	7号横穴2	須恵器	坏蓋	口径 16.80 器高 4.30 最大径 17.00 つまみ高 1.15 つまみ径 3.50	天井部と体部の境でなだらかな段をなし、口縁部は屈折して外反気味に直立する。内側のかえりは消失している。重点に福平窯宝珠状のつまみが付く	外面：体部下半～口縁部はナデ 内面：ナデ	良	外面：灰白5Y7 内面：灰N5	やや密	完形
第38図2	7号横穴4	須恵器	坏蓋	口径 16.40 器高 4.00 最大径 16.80 つまみ高 1.00 つまみ径 3.50	天井部と体部の境でなだらかな段をなし、口縁部は屈折して外反気味に直立する。内側のかえりは消失している。重点に福平窯宝珠状のつまみが付く	外面：体部上半～口縁部はナデ 内面：ナデ	良	外面：白灰5Y7/1 内面：灰N6	やや密。黒色粒子を含む	完形
第38図3	7号横穴3	須恵器	坏身	口径 15.10 器高 4.70 最大径 15.60 高台径 10.70	底部は丸底気味で、高台より出ている。内湾して直線的に開き、口縁端部に丸く収めている。断面が台形の貼り付け高台が付く	外面：体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良	外面：黒N2 内面：灰N6	密。黒色粒子を僅かに含む	完形
第38図4	7号横穴1	須恵器	坏身	口径 15.10 器高 4.70 最大径 15.40 高台径 10.60	底部は丸底気味で、高台より出ている。内湾して直線的に大きく開き、口縁端部は尖らせている。断面が台形の貼り付け高台が付く	外面：体部～口縁部はナデ。回いノタ目が残っている 内面：ナデ	良好	灰白5Y7/1	密。黒色粒子を僅かに含む	完形

明僧横穴群C調査区西支群出土土器観察表

図版番号	遺構名 遺物番号	種別・器種	法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第39図1	1号横穴3	須恵器 坏蓋	口径 14.50 器高 3.60 最大径 15.00 つまみ高 0.90 つまみ径 2.80	天井部と体部の境でなだらかな段をなし、口縁部は屈折して内傾する。内傾のかえりは消失している。頂点に扁平擬宝珠状のつまみが付く	外面：天井部はヘラ削り。体部上半～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	黒色炭化物を含む	完形
第39図2	1号横穴7	須恵器 坏蓋	口径 14.80 器高 3.70 最大径 15.40 つまみ高 0.85 つまみ径 2.80	天井部と体部の境でなだらかな段をなし、口縁部は屈折して内傾する。内傾のかえりは消失している。頂点に偏かに突起する扁平擬宝珠状のつまみが付く。焼き歪みがある	外面：体部上半～口縁部はヘラ削りの後ナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	有機炭化物を含む	完形
第39図3	1号横穴5	須恵器 坏蓋	口径 15.00 器高 3.90 最大径 15.45 つまみ高 0.90 つまみ径 2.85	天井部と体部の境でなだらかな段をなし、口縁部は屈折して内傾する。体部外面のかえりは消失している。頂点に偏かに突起する扁平擬宝珠状のつまみが付く	外面：天井部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	砂粒子・黒色粒子を含む	完形
第39図4	1号横穴6	須恵器 坏蓋	口径 14.20 器高 3.60 最大径 14.60 つまみ高 0.80 つまみ径 2.60	天井部から体部になだらかに開き、口縁部は屈折して直立する。屈曲部は肥厚している。内傾のかえりは消失している。頂点に偏かに突起する扁平擬宝珠状のつまみが付く	外面：天井部はヘラ削り。体部上半～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	砂粒子を若干含み、炭化物も含む	完形
第39図5	1号横穴1	須恵器 坏身	口径 13.50 器高 4.60 最大径 13.80 高台径 9.30	底部は丸底気味で、高台より出ている。内湾して直線的に開き、口縁端部は丸く収めている。断面が方形の貼り付け高台が付く。歪みが大きい	外面：体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	黒色炭化物を含む	完形
第39図6	1号横穴2	須恵器 坏身	口径 13.50 器高 4.30 最大径 13.70 高台径 9.25	底部は丸底気味で、高台より出ている。内湾して直線的に開き、口縁端部は丸く収めている。弱いノメ目が見られる。断面が方形の貼り付け高台が付く。歪みが大きい	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	黒色炭化物を含む	完形
第39図7	1号横穴9	須恵器 坏身	口径 13.70 器高 4.00 最大径 13.90 高台径 8.70	底部は丸底気味。内湾して直線的に開き、口縁端部は丸く収めている。断面が台形の後付けの高台が付く。歪みが大きい	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	有機炭化物を含む	完形
第39図8	1号横穴8	須恵器 坏身	口径 13.70 器高 3.90 最大径 13.90 高台径 9.60	底部は平底。内湾して直線的に開き、口縁端部は丸く収めている。体部の器壁が薄い。断面が台形の後付けの高台が付く	外面：底部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	1mmほどの黒色粒子を多く含む	完形
第39図9	1号横穴4	須恵器 小型短頸壺	口径 6.60 器高 8.10 最大径 11.40	底部は平底。体部は大きく開きながら立ち上がり、体部中位からロ縁部に向かって直線的に内傾する。体部の最大径は中位よりやや上にある。頸部は直立し、口縁端部は外側に肥厚している	外面：底部～体部下半は静止ヘラ削り。体部下半に指頭痕が見られる。体部中位はヘラ削りの後ナデ。弱いノメ目が見られる。胴部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰7.5Y6	極細砂粒子・黒色粒子を含む	完形 無蓋
第40図1	2号横穴8	須恵器 坏蓋	口径 9.40 器高 3.60 最大径 10.10	天井部は僅かに盛んでいる。体部はやや内湾しながら下がり、口縁部は屈曲して内傾する。口縁端部は丸く収めている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。体部に強いノメ目が見られる 内面：ナデ	良好	灰N6	白色の粒子を多く含む	完形 坏身の可能性もある
第40図2	2号横穴2B	須恵器 坏蓋	口径 9.70 器高 3.90 最大径 10.20	天井部は僅かに盛んでいる。体部は内湾しながら下がり、口縁部も内湾する。口縁端部は丸く収めている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。体部に強いノメ目が見られる 内面：ナデ	良好	灰N6	砂粒子を含む	完形

図版番号	遺構名遺物番号	器別・器種		法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第40図3	2号横穴10	須恵器	坏蓋	口径 9.00 器高 3.70 最大径 9.30	天井部はやや丸みを持つ。体部は内湾しながら下がり、口縁部は直線的に下がる。口縁端部は尖らせている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：天井部は静止ナデ。体部～口縁部はナデ	良好	灰N6	密	完形
第40図4	2号横穴2A	須恵器	坏蓋	口径 9.00 器高 3.80 最大径 9.30	天井部はやや丸みを持つ。体部は内湾しながら下がり、口縁部は直線的に開く。口縁端部は尖らせている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	砂粒子を含む	完形
第40図5	2号横穴7	須恵器	坏蓋	口径 10.40 器高 4.30 最大径 10.60	天井部は平らでやや丸みを持つ。体部は内湾しながら下がる。口縁端部は尖らせている。歪みが大きい	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。体部下半に不明瞭な沈線を一条施してある 内面：ナデ	良好	灰N5	砂粒子を含む	口縁部の一部欠損5と接合
第40図6	2号横穴6	須恵器	坏蓋	口径 9.00 器高 3.75 最大径 9.30	天井部は平らでやや丸みを持つ。体部は内湾しながら下がる。口縁端部は尖らせている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。体部下半に不明瞭な沈線を一条施してある 内面：ナデ	良好	灰白N7	黒色粒子を含む	完形
第40図7	2号横穴5	須恵器	坏蓋	口径 (10.20) 器高 4.30 最大径 (10.80)	天井部は丸味を持つ。体部は直線的に開いて下がり、口縁部は垂直に下がっている	外面：天井部は粘土を貼り付け丸味を持たせている。体部上半はヘラ削りの後ナデ。体部下半～口縁部はナデ。口縁部との境に一条の沈線を持つ 内面：全体ナデ	良好	灰N6	密。白色・黒色粒子を多く含む	1/3残存
第40図8	2号横穴9	須恵器	坏蓋	口径 9.00 器高 3.90 最大径 9.20	天井部はやや丸みを持つ。体部は内湾しながら下がり、口縁部は直線的に下がる。口縁端部は丸く収めている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。体部下半に不明瞭な沈線を一条施してある 内面：天井部は静止ナデ。体部～口縁部はナデ	良好	灰白N7	緻密	完形
第40図9	2号横穴4	須恵器	坏蓋	口径 8.90 器高 3.70 最大径 9.40	天井部はやや丸みを持つ。体部は内湾しながら下がり、口縁部は直線的に下がる。口縁端部は丸く収めている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。体部下半に不明瞭な沈線を一条施してある 内面：ナデ	良好	外面：灰N5 内面：灰白N7	黒色粒子を僅かに含む	体部の一部欠損
第40図10	2号横穴11	須恵器	坏蓋	口径 (9.20) 器高 3.50	丸い天井部から内湾しながら下がり、口縁部は垂直に下がる。口縁端部は尖らせている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。口縁部との境に一条の沈線を施している 内面：天井部～口縁部はナデ	良好	灰N5	密。黒色・白色粒子を含む	1/2残存
第40図11	2号横穴前庭部覆土	須恵器	坏身	口径 (8.60) 器高 (2.50) 最大径 (10.40)	体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受け台を持つ。口縁部は内傾する	外面：体部～口縁部はナデ 内面：体部～口縁部はナデ	良好	灰N6	密。黒色粒子を僅かに含む	口縁部～体部20%残存
第40図12	2号横穴12	須恵器	坏身	口径 器高 最大径 高台径 7.00	底部は平底。体部は直線的に開く。断面が台形の粘い貼り付け高台が付く	外面：底部に回転糸切り痕。高台内側から一体部下半はナデ 内面：底部は静止ナデ。体部はナデ	良好	灰白N6	密。白色粒子を僅かに含む	底部の破片
第40図13	2号横穴3	須恵器	高坏	口径 11.20 坏底最大径 11.40 器高 10.60 脚径 9.90	坏部と脚部の高さの比は4：6。坏部は丸底の底部から内湾しながら立ち上がり、開く。口縁端部は丸く収めている。脚部はハの字状に大きく開く	外面：全体ナデ。体部下半にヘラ削りの痕がある。脚端部に斜めに面取をしている 内面：ナデ	良好	灰N5	砂粒子を多く含む	口縁部の一部欠損脚の一部欠損
第40図14	2号横穴前庭部4	須恵器	壺	口径 7.00 器高 —	丸底から内湾しながら立ち上がる。頸部は直線的に開く	外面：底部はヘラ削りの後、ナデ。体部下半はナデ。頸部～口縁部はナデ。中位に一条の沈線を施している 内面：底部～体部下半はナデ。頸部～口縁部はナデ。ノタ目が見られる	良好	にぶい黄橙10YR7/4	密。黒色粒子を含む	体部上半欠損
第40図15	2号横穴1	土師器	坏身	口径 11.40 器高 4.75	底部は丸底。内湾しながら立ち上がり、口縁端部は尖らせている	内外面とも摩耗により調整は不明瞭	やや良	明褐灰2.5YR5/8	密	完形
第41図1	3号横穴180	須恵器	坏蓋	口径 10.80 器高 3.50 最大径 11.00	天井部の頂点はつまみの剥落痕がある。天井部から内湾しながら下がる。口縁端部は尖らせている	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部はナデ。強いノタ目が残る 内面：ナデ	良好	灰白N7		口縁部1/8欠損、体部1/4欠損。 48・133・217・208・4区と接合

図版番号	遺構名 遺物番号	種別・器種		法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第41図 2	2号横穴 30	須恵器	坏蓋	口径 10.20 器高 4.40 最大径 10.50	やや平らな天井部から内湾しながら下がる。口縁部と身の境に段を持つ。口縁端部は丸く収めている	外面：天井部はヘラ削りの後、ナデ。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良	にぶい橙 7.5YR6/3	密。黒色・白色粒子を含む	5・94・193と接合で完形
第41図 3	3号横穴 212	須恵器	坏蓋	口径 10.30 器高 3.50 最大径 10.60	天井部は僅かに盛んでいる。天井部から内湾しながら下がる。口縁端部は丸く収めている	外面：体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	緻密	ほぼ1個体分 163・176・203・2 区・4区と接合
第41図 4	3号横穴 50	須恵器	坏蓋	口径 10.00 器高 3.10 高台径 10.20	天井部は僅かに盛んでいる。体部から内湾しながら下がる。口縁端部は丸く収めている	外面：体部～口縁部はナデ。やや強いヘラ目が残る 内面：ナデ	良好	外面：灰N5 内面：灰白N7	密	口縁部1/2欠損。 47・122・236・2 区・4区と接合
第41図 5	3号横穴 3	須恵器	坏蓋	口径 9.80 器高 3.30 最大径 10.00	天井部は僅かに盛んでいる。体部は内湾しながら下がり、口縁部は直線的に下がる。口縁端部はやや外反し尖らせている	外面：天井部は静止ナデ。体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰N5	密	1/3欠損 92・174・197・ 2・4区と接合
第41図 6	3号横穴 22	須恵器	坏蓋	口径 17.00 器高 3.90 つまみ高 0.95 つまみ径 3.50	天井部から開きながら緩やかに下がり、口縁端部は尖後、ナデ。体部～口縁部はナ折して垂直に下がる。頂点に擬宝珠状のつまみが付く	外面：天井部はヘラ削りの後、ナデ。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰白N7	密	1/3欠損 3・24・72・137・ 173・193・199・ 223・224と接合
第41図 7	3号横穴 17	須恵器	坏蓋	かえり口径 9.60 器高 3.10 最大径 11.40 つまみ高 0.80 つまみ径 2.25	天井部から口縁部まで緩やかな弓張り状を呈する。口縁部との境に段がある。かえりは内傾する。頂点に中央が窪かに窪む扁平なボタン状のつまみが付く	外面：天井部～口縁部はナ 内面：天井部の一部に自然釉がかかる 内面：ナデ	良好	灰白N7	密	口縁部・天井部の一部欠損 89・99・216・ 217・4区と接合
第41図 8	3号横穴 215	須恵器	坏蓋	かえり口径 9.30 器高 2.90 最大径 11.00 つまみ高 0.45 つまみ径 2.50	天井部から口縁部まで緩やかな弓張り状を呈する。かえりは短く、内傾する。頂点に中央が窪かに窪む扁平なボタン状のつまみが付く	外面：天井部～体部下半はヘラ削り。口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	密	約1/3欠損 4区と接合
第41図 9	3号横穴 37	須恵器	坏蓋	かえり口径 (8.30) 器高 (1.90) 最大径 (11.30)	平らな天井部から緩やかに下がる。かえりは内傾する	外面：天井部はヘラ削り。口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	密。黒色粒子を含む	口縁部1/3欠損、体部～天井部3/5欠損 55・129・133・ 179・2区と接合
第41図 10	3号横穴 140	須恵器	坏身	口径 8.90 器高 3.00 最大径 10.70	底部は平底であるが、外底中央が窪んでいる。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は内傾する	外面：底部は静止ナデ。体部下半～口縁部まで回転ナデ 内面：ナデ	良好	外面：灰N4 内面：灰N6	密	約2/3欠損。 65・124・145・1 ～4区と接合
第41図 11	3号横穴 97	須恵器	坏身	口径 9.60 器高 3.10 最大径 11.10	底部は平底であるが、外底中央が窪んでいる。体部は内湾しながらやち上がり、口縁部との間に受けを持つ。口縁部は外反気味に内傾する	外面：底部は静止ナデ。体部下半～口縁部までナデ 内面：ナデ	良好	外面：暗灰N3 内面：灰白N7	密	口縁部・体部～底部の一部欠損。 P82・119・159・ 181・184・207・2 区・3区・4区と接合
第41図 12	3号横穴 90	須恵器	坏身	口径 (14.90) 器高 3.80 高台径 (11.70)	丸底から内湾して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。断面台形の貼り付け高台が付く。底部が高台より出る	外面：底部はヘラ削り。高台の内外面と体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	灰白N7	密	底部～口縁部1/2欠損 101・113・126・ 149・154・171・1 区・4区と接合
第41図 13	3号横穴 162	須恵器	坏身	口径 16.20 器高 4.90 最大径 16.50 高台径 12.20	底部は丸底で、高台より出ている。内湾して直線的に開き、口縁端部は丸く収めている。断面が台形の高台が付く	外面：体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	良好	灰白N7	砂質で緻密	ほぼ1個体分 42・43・64・66・ 70・116・140・ 141・192・1～4区と接合
第41図 14	3号横穴 10	須恵器	坏身	口径 (13.20) 器高 (5.00) 高台径 (8.15)	底部は丸底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は僅かに内湾する。断面が台形の低い貼り付け高台が付く。底部が高台より出る	外面：底部はヘラ削り。高台部はナデ。体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良好	外面：灰白N7 内面：灰N6	密。黒色粒子を僅かに含む	口縁部1/2欠損。体部4/5欠損、底部3/5欠損 9・47・52・54・ 122・146・177・ 220・2～4区と接合
第41図 15	3号横穴 29	須恵器	坏身	口径 (14.00) 器高 4.30 高台径 8.20	丸底から内湾して立ち上がり、直線的に開く。断面が台形の貼り付け高台が付く。底部が高台より出る	外面：底部はヘラ削り。高台の内外面と体部～口縁部はナデ 内面：全体ナデ	良	灰白N7	密。白色・黒色粒子を僅かに含む	底部1/3欠損。口縁部～体部1/2欠損 117・154・155・ 156・158・2区・4区と接合

図版番号	遺構名遺物番号	種別・器種		法量	形態	調整	焼成	色調	胎土	備考
第41図16	3号横穴206	須恵器	坏身	口径 15.80 器高 4.50 最大径 16.10 高台径 10.65	底部は平底で、内湾して直線的に開き、口縁部で僅かに外反し、端部は丸く収めている。断面が五角形の高台が付く	外面：体部～口縁部はナデ。高台はヘラ削り 内面：ナデ、ノタ目が見られる	良好	灰白N7	緻密。砂粒子を含む	完形
第41図17	3号横穴120	須恵器	坏身	口径 14.70 器高 5.40 最大径 15.00 高台径 6.10	底部は平底。内湾して直線的に大きく開き、口縁部は薄くなるが端部は肥厚し、丸く収めている。断面が平行四辺の高台が付く。歪みがある	外面：体部～口縁部はナデ 内面：ナデ	非常に脆い	灰白10YR8/1	砂粒子を多く含む	口縁部～体部1/8欠損 2・21・84・91・109・130・132・133・160・203・204・205・212・217と接合
第41図18	3号横穴43	須恵器	壺	口径 10.20 器高 — 最大径 —	頸部から大きく開き段を持つ。僅かに内湾しながらさらに大きく開き、口縁端部は外反する	外面：ナデ。ノタ目が見られる 内面：ナデ。全体に緻密がかかる	良好	黄灰2.5Y6/1	密。黒色粒子を僅かに含む	口縁部1/2欠損。頸部以下欠損 73・4区と接合
第41図19	3号横穴9	須恵器	長頸壺	口径 11.90 体部最大径 17.60 高台径 8.20 器高 27.20	体部の約3分の2上に稜線を有し、そこが最大径となる。稜のすぐ下に一条の不明瞭な沈線を施している。断面が菱形の高台が付く。口縁部は体部の高さよりやや高く、接合部から外反しながら立ち上がり、その後直線的に開く。端部は外側に肥厚する	外面：底部はヘラ削り。高台部はナデ。体部下半から稜までヘラ削り。体部上半(胴部)は丁寧なナデ。胴部に自然釉がかかる。口縁部はナデで、ノタ目が残る 内面：口縁部に強いノタ目が残る	良好	黄灰2.5Y5/1	5mm以下の白色砂粒子を多く含む	7・12・14・15・16・22・26・28・29・31・33・3438・42・48・49・54・55・56・57・78・80・81・82・85・92・94・101・104・117・127・143・148・155・172・174・177・178・197・208・210・211・214・217・224と接合
第41図20	3号横穴96	須恵器	平瓶	口径 6.00 口縁部最大径 6.20 器高 15.40 体部最大径 13.60	口縁部は体部中心より約4.5cmはずれて斜めに取り付けている。接合部より直線的に開き、口縁端部を丸く収めている。体部の最大径は天井部と体部の接続上にある。底部は丸底と思われる	外面：体部下半～口縁部はナデ。稜線に上位に一条の沈線、天井部に七一条の沈線を施している。口縁部中位に二条の沈線を施している 内面：ナデ	良好	褐灰7.5YR5/1	密。黒色粒子を僅かに含む	底部欠損。 12・13・15・18・26・32・35・62・56・89・143・151・154・159・184・197・219・220・221と接合
第42図1	4号横穴1区	須恵器	坏蓋	口径 (11.00) 器高 —	体部は内湾しながら下がり、口縁部もやや内湾する。口縁部との境に段を持つ	外面：ナデ 内面：ナデ	良好	灰白N5	密	口縁部1/8残存
第42図2	4号横穴前庭部覆土	須恵器	坏身	口径 (10.60) 器高 (2.60) 最大径 (12.80)	体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部との間に受けを持つ。受けはやや外反する。口縁部は内傾するが、外反気味	外面：ナデ。一部に灰釉がかかる 内面：ナデ	良好	灰N6	密	体部1/半～口縁部1/4残存

Ⅶ. まとめ

各横穴群の玄室の平面形状・規模を見ると様々な形状が見られるが、形状と規模において類似性をもつ横穴は見られない。

各横穴から出土した遺物から横穴が構築された年代、あるいは追葬された年代を概観する。なお、B調査区第1号横穴から出土した土器は後世のものであり、対象から除外してある。

須恵器の編年については、遠江須恵器編年を用いた。

・**A調査区第1号横穴**の平面形は円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。この横穴には、玄室の主軸に直交した長軸をもつ2基の組合式石棺の堀方が残存している。

出土した須恵器の中に、受けを持つ坏身が遠江Ⅲ期後葉に相当すると思われ、かえりを持つ坏蓋は遠江Ⅳ期前葉に相当し、7世紀前半と7世紀中葉とに分かれ、追葬があったと考えられる。

・**B調査区第1号横穴**の平面形は方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。この横穴には、玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の堀方が1基残存しており、棺座部分が一段高く造り付けられている。出土した土器は後世のものであり、編年の対象から除外した。

・**C調査区東支群第1号横穴**の平面形は横長の楕円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。

出土した須恵器のうち、受けを持つ坏身の口径が8.60～9.85cmと、小型化が進んだ遠江Ⅳ期前葉に相当し、7世紀中葉と考えられる。なお、遠江Ⅳ期末葉に相当すると思われる、高台付きの坏身も出土しており、追葬があった可能性もある。

・**C調査区東支群第2号横穴**の平面形は円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。奥壁は直線的である。須恵器の坏身の口径が10.60～11.90cmと8.55～9.00cmとに分かれること、鉄鏃が6世紀後半から7世紀初頭に見られる特徴を示していることから、遠江Ⅲ期後葉に相当するもの、すなわち7世紀前半と、坏身の小型化が進んだ遠江Ⅳ期前葉に相当するもの、すなわち7世紀中葉と考えられるものとがあり、7世紀中葉に追葬が行われた可能性がある。

・**C調査区東支群第3号横穴**の平面形は円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。玄室の主軸に並行した長軸をもつ組合式石棺がほぼ完全な形で残存している。

須恵器が遠江Ⅳ期前葉に相当し、7世紀中葉と考えられる。

・**C調査区東支群第4号横穴**の平面形は縦長の楕円形を呈し、横断面形はアーチ形と思われる。

須恵器が遠江Ⅳ期末葉に相当すると思われ、7世紀後半と考えられる。

・**C調査区東支群第5号横穴**の平面形は三角フラスコ形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。玄室の主軸に並行した長軸をもつ組合式石棺1基と敷石が残存し、敷石の下に玄室の主軸に直交した長軸を持つ組合式石棺の堀方が残存している。この堀方は、横穴が構築された当初に設置された石棺の堀方と考えられ、確認された石棺と敷石は追葬時に造られたものと判断される。

須恵器の坏身の口径が10cm前後で、小型化が進んだ遠江Ⅳ期前葉に相当し、7世紀中葉と考えられる。また、坏蓋が遠江Ⅴ期前半に相当することから、8世紀前半に追葬が行われたと考えられる。

・**C調査区東支群第6号横穴**の平面形は円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。玄室の主軸に直交した長軸を持つ組合式石棺の堀方が1基残存している。

須恵器が遠江Ⅳ期前葉に相当し、7世紀中葉と考えられる。

・**C調査区東支群第7号横穴**の平面形は縦長のやや方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺が1基残存している。

坏蓋が遠江Ⅴ期前半に相当することから、8世紀前半と考えられる。

・**C調査区西支群第1号横穴**の平面形は縦長のやや方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。

須恵器が遠江Ⅴ期前半に相当することから、8世紀前半と考えられる。

・**C調査区西支群第2号横穴**の平面形は隅丸方形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の堀方が1基残存している。

須恵器が遠江Ⅳ期前葉に相当し、7世紀中葉と考えられる。

・**C調査区西支群第3号横穴**の平面形は羽子板形を呈し、横断面形は梯形を呈している。天井は屋根状に整形されており、天井頂部には長方形の棟木が削り出して施されている。6世紀後半の菊川流域に見られる横穴では、玄室平面が円形で天井がドーム形という特徴が主流の中、7世紀代に入り、こうした形態をとる本横穴は特異な位置にあると思われる。玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の堀方が1基残存している。

須恵器が遠江Ⅳ期末葉に相当すると思われ、7世紀後半と考えられる。

・**C調査区西支群第4号横穴**の平面形は円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。

遺物の出土量が少ないため、編年は難しいが、須恵器の坏身が遠江Ⅲ期末葉に相当すると思われ、7世紀前半と考えられる。

以上のことから、明僧横穴群は7世紀前半から8世紀前半にかけて構築された横穴群と考えられる。

6世紀後半の菊川流域の横穴群は、円形玄室、ドーム天井の形態が多い中、本横穴群は7～8世紀前半に比定され、その形態も様々であるが、方形の様相が強くみてとれる。こうしたことは、横穴形態の上での研究がなされていく中で、さらなる議論が必要になってくると思われる。

本横穴群は、冒頭でも記述したように“群”と称しているが、実際には散在している。各横穴間においては横穴の存在は確認されていない。これらを一まとめに横穴群と捉えることに危険性を感じる。今後さらに、西側や周辺の横穴の様相が明らかにされ、本横穴群の詳細な解明が図られることを望む。今後の調査研究の進展に期待したい。

最後にあたって、発掘調査から報告書作成に至るまで、多くの方々のご指導・ご協力をいただいた。あらためて、感謝申し上げる次第である。その中で、担当者の力量不足、横穴調査の奥の深さを痛感した。本書の内容については、多くのご批判もあろうかと思うが、お許し願いたい。そして、ご一読いただき、ご教示願えれば幸いである。

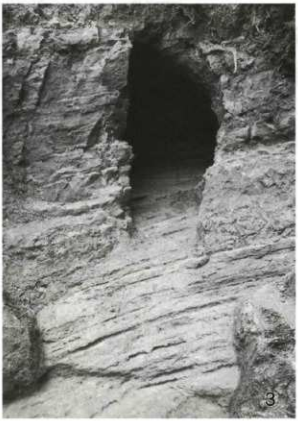
参考文献

・平野吾郎　「遠江における横穴群の分布と年代」『遠江の横穴群』　静岡県教育委員会　1983年
・関　義則　「古墳時代後期鉄鏃の分布と編年」『日本古代文化研究　3号』　PHALANX古墳文化研究会　1986年
・渡辺康弘他　『岩滑清水ヶ谷横穴群・岩滑松ヶ谷横穴発掘調査報告書』　大東町教育委員会　1988年
・渡辺康弘　『鳥見ヶ谷横穴群発掘調査報告書』　大東町教育委員会　1990年
・鬼澤勝人　『玉体横穴群発掘調査報告書』　大東町教育委員会　1991年
・鬼澤勝人　『下土方青谷横穴群発掘調査報告書』　大東町教育委員会　1993年

写 真 図 版

3

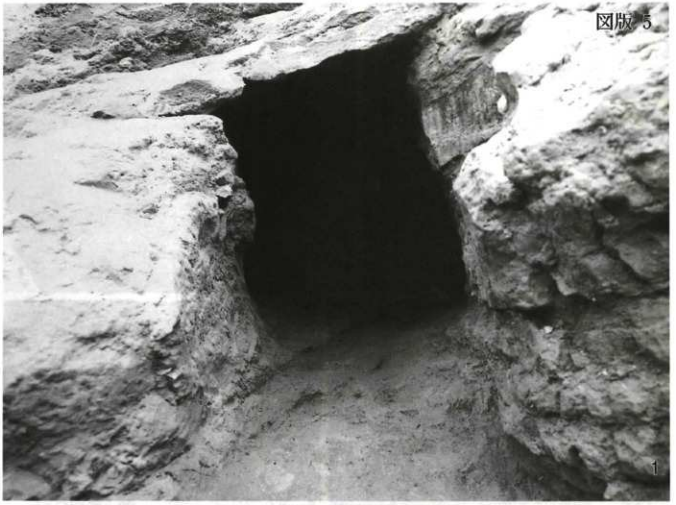
図版 2



1

2

図版 5



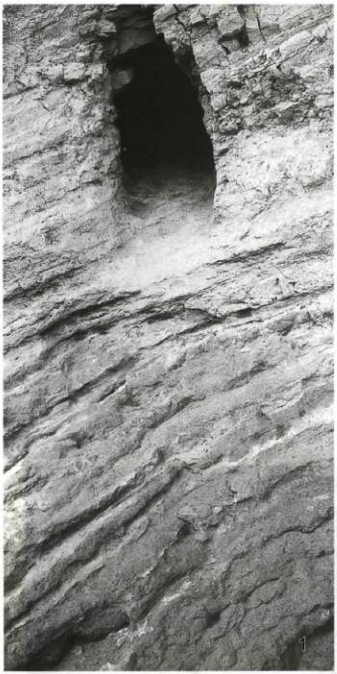
1

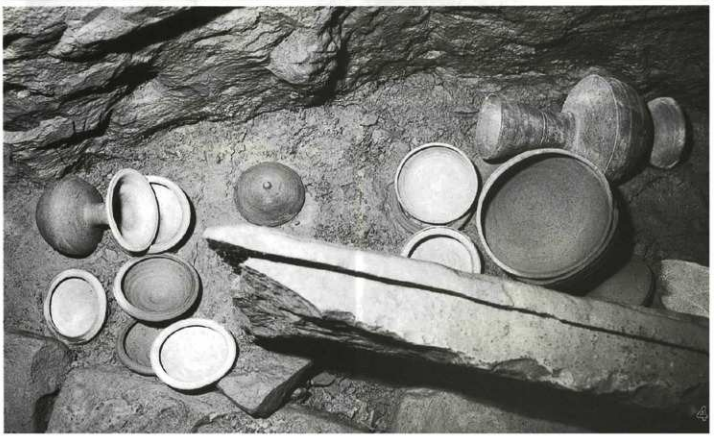
2

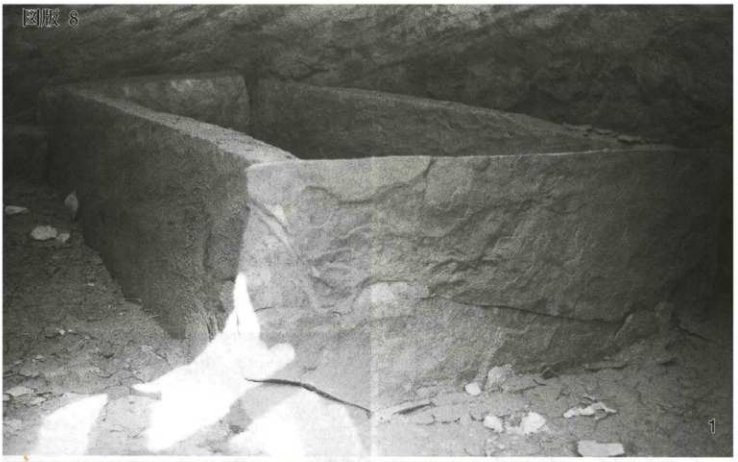
4

3

图版 6





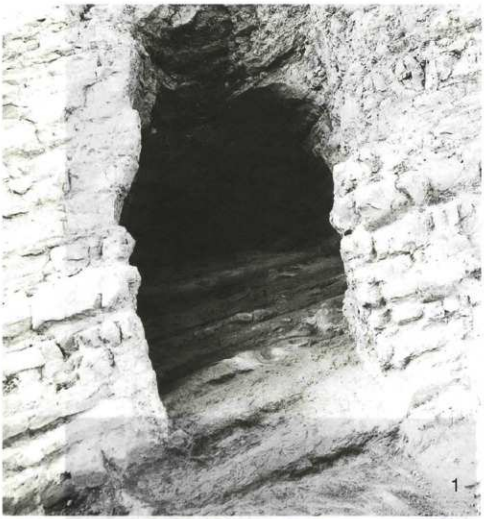

1

2

3

4

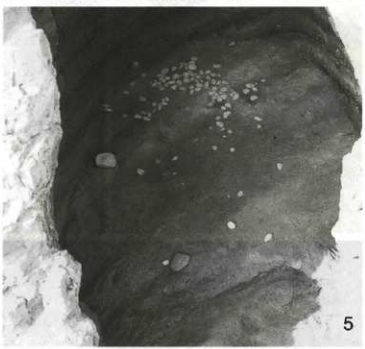
5


1

2

3

4


5

6

図版 10

1

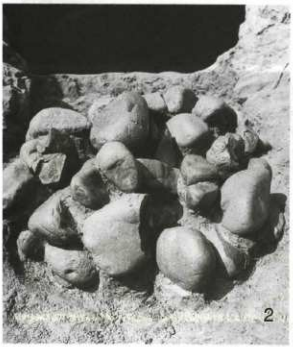
2

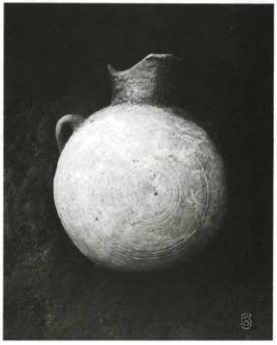
3

4

5

図版 12





1

2

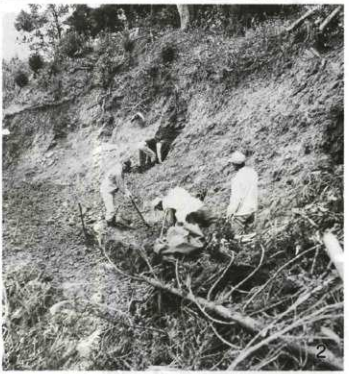
3

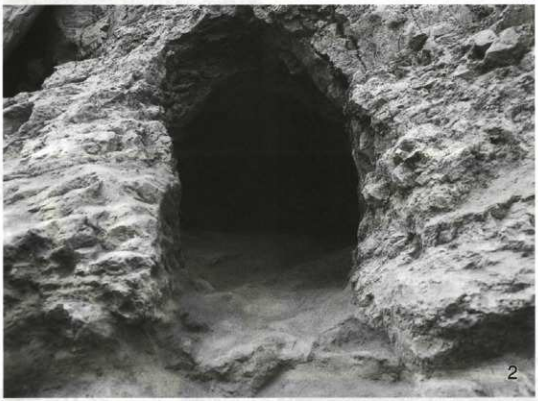
4

5

6

図版 14




2

3

4

1

2

3

4

5

6

1

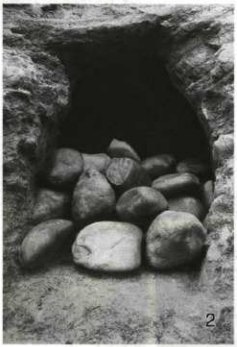
2

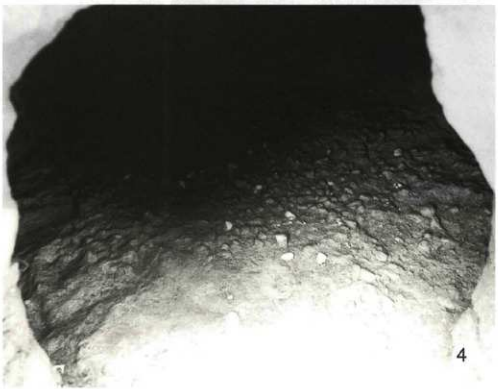
3

4

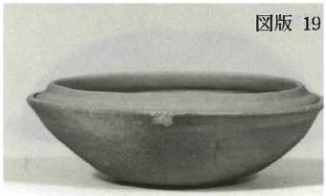
5

図版 18



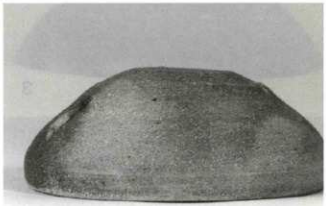


1



2

3

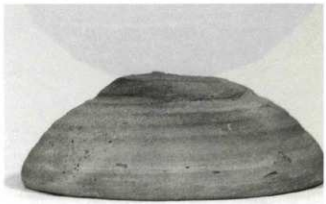


4

5

6

7



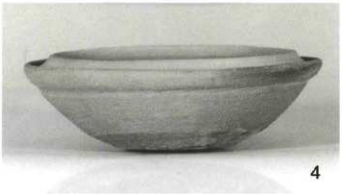
8

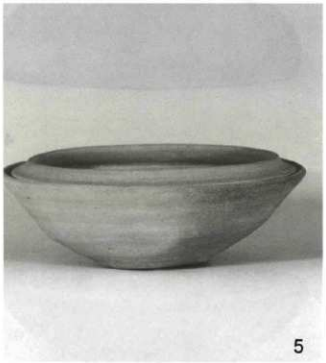
図版 20

1

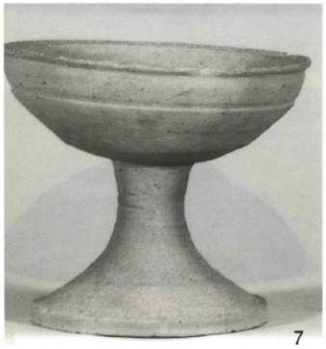
2

3


4


5

6

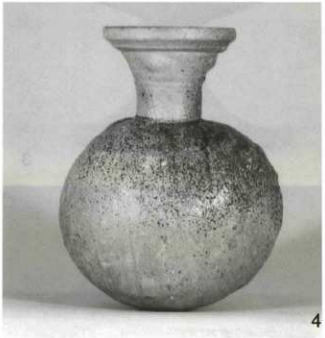

7

8

1

2

3



4

5

6

7

8

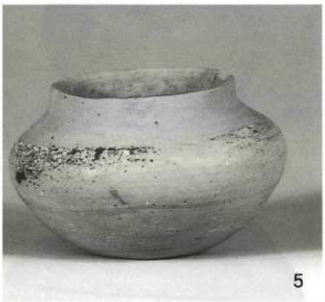
図版 22

1

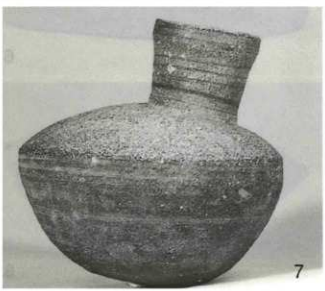
2

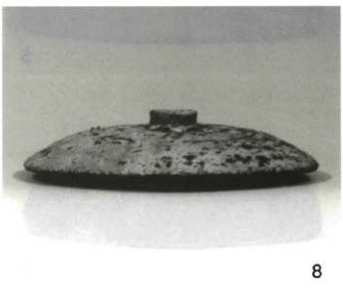
3

4


5

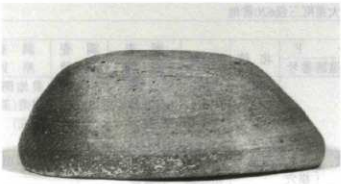
6


7


8

1

2



3

4

5

6

7

8

報告書抄録

ふりがな	みょうそうおうけつぐんはっくつちょうさほうこくしょ
書名	明僧横穴群発掘調査報告書
副書名	
シリーズ名	
編著者名	鬼澤勝人
編集機関	大東町教育委員会社会教育課
所在地	〒437-14　静岡県小笠郡大東町三俣620番地
発行年月日	平成7年3月

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
明僧横穴群	静岡県小笠郡大東町	22447		34°42′4″	138°3′54″	平成5年6月28日～平成6年6月23日	m^2 2,000	農地開発事業(茶園造成)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
明僧横穴群	横穴	古墳時代	横穴	須恵器・土師器	

明僧横穴群発掘調査報告書

平成7年3月 発行

発行：大東町教育委員会
編集：大東町教育委員会社会教育課

〒437-14　静岡県小笠郡大東町三俣620番地
電話：0537-72-1121

印刷：㈲エヌプロ
〒431-02 静岡県浜松市馬郡町1888番地
電話：053-592-8881